

第5章

有識者ヒアリング調査

5.1 有識者ヒアリング調査の実施概要

(1) 調査の目的

若者のまちづくり参画を進めていく上で、留意点や効果的に進めていくポイント等を明らかにすることを目的として実施した。主な調査項目は以下のとおりである。

図表5-1 調査項目

- | |
|---|
| <p>(1) 若者のまちづくりへの参画に関する取組について</p> <ul style="list-style-type: none">・若者がまちづくりへ参画することの意義、留意点・若者に期待される役割・若者が地域と関係性をつくっていく上での課題・若者のまちづくりへの参画をうまく進めるポイント・取組を継続するにあたっての課題・その他、ご経験を通じての課題認識、留意点 等 <p>(2) 多摩・島しょ地域における若者のまちづくりへの参画の考え方について</p> <ul style="list-style-type: none">・多摩・島しょ地域の特性（他地域との違い、強み・弱み等）・島しょ地域における若者のまちづくり参画のあり方 等 <p>(3) 自治体、地域に求められるスタンス、取組等について</p> <ul style="list-style-type: none">・若者のまちづくりへの参画において、自治体に求められる認識、役割・自治体として対応すべき内容、留意点（庁内の合意形成、部署間連携等）・若者を受け入れる地域のあり方、役割・若者がまちづくりへ参画することの効果の測定、検証方法 等 |
|---|

(2) ヒアリング対象者と選定理由

ヒアリング対象者は、次のとおりである。

若者のまちづくり参画に関して、調査研究又は実践的な取組を行っている方で、自治体の視点や役割についても見識があり、自治体としての若者のまちづくり参画の捉え方、取組を効果的に進めていくための留意点やポイント等について、具体的な示唆、助言をいただくことができると考え、選定させていただいた。

図表 5-2 ヒアリング対象者（実施順）

対象者	選定理由
<p>東京都立大学 法学部教授 大杉 覚 氏</p>	<p>東京都立大学法学部助教授などを経て現職。その間、オックスフォード大学客員研究員、ジョージタウン大学客員研究員などを務める。総務省地域づくり人材の養成に関する調査研究会座長、総務省等地方公務員のメンタルヘルス対策の推進に関する研究会座長、自治大学校講師、(一財)地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」主任講師など多数歴任。</p>
<p>真岡市複合交流拠点施設 monaca 地域交流センター 林 大輔 氏</p>	<p>高校生・大学生を主体としたまちづくり団体を設立し、公共空間や低未利用地（河川緑地、重要文化財、空き家・空き店舗、公共施設等）を活用した様々なまちづくりプロジェクトを展開。高校生や大学生のアイデアや行動力を大切にしながら、自治体や地元の民間等が伴走サポートする形で、いくつものプロジェクトが生まれている。</p>
<p>地方自治研究者・政策起業家・ 元相模女子大学教授 松下 啓一 氏</p>	<p>26年間の横浜市職員時代には、総務・環境・都市計画・経済・水道などの各部局で調査・企画を担当。著書に「市民がつくる、わがまちの誇り—シビック・プライド政策の理論と実際」、 「自治するまちのつくり方—愛知県新城市の「全国初の政策づくり」から学ぶもの」、 「事例から学ぶ 若者の地域参画 成功の決め手」、 「若者をまちづくりに巻き込むための政策立案ハンドブック」、 「定住外国人活躍政策の提案」 など多数。</p>
<p>慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員 木村 紀彦 氏</p>	<p>慶應義塾大学政策・メディア研究科の後期博士課程に在籍し、人々の「実験的な実践」やそれを促進する仕組みを研究している。過去に慶應義塾大学と産業能率大学で非常勤講師を務め、現在は文教大学で同職を担当。Chatty Learning Lab. を開業し、研究成果を活かしたワークショップや実践支援の業務に取り組んでいる。「つばめ若者会議」、「長浜市まちあそび部」等の取組では、コンセプトデザイン、若者との関わり方、評価の視点等に係るアドバイザーとして参画。</p>

5.2 有識者ヒアリング調査結果のまとめ

ヒアリング結果について、以下のとおり整理を行った。

なお、ヒアリング内容の全編は巻末の参考資料5に掲載している。

1. まちづくりにおける若者の現状

(1) 地域との関わりが乏しい若者

現代の若者は、地域との接点が非常に乏しいといえる。生まれ育った地域であっても、学校や職場は地域外にあることが多い。特に高校生は、家と学校を往復するだけの生活の中で、自分が住むまちは日常の「風景」として通り過ぎる存在にとどまりがちであり、地域で何かをしたという記憶も残りにくい。その結果、若者にとって地域は日常と切り離された存在となり、まちに出る理由も、自分の居場所と感じられる場所も少なく、地域に関わる経験を持たないまま大人になってしまう。そのため、どうすれば学校と家以外の自分を引き出してあげられるかが重要となる。

(2) 若者が参画の場に欠けているのは不自然

地域において、若者や女性が排除された形の民主主義が常態化していることは問題であり、彼らの参画が前提とされるべきである。たとえ参画の機会や場があっても、重要な意思決定の中核を担えず、上の世代の下請けのような位置づけにとどまっている状況は民主主義の理念に反する。また、将来的に若者が社会の中心的な役割を担っていくことを考えれば、彼らの声に耳を傾けることは当然といえる。そもそも、彼らが参画の場から欠けていること自体が問題である。とはいえ、若者だけに任せればよいというものではなく、多世代交流につながっていく循環が不可欠である。若者が参画することで他の世代も巻き込まれ、地域に人の流れや循環が生まれる。そのような循環装置としての若者の役割も極めて大きい。

2. 若者参画の意義

(1) 若者政策は「大人政策」でもある

若者が主体的にまちづくりに関わることは、地域の大人たちの意識を変えるきっかけにもなる。はじめは若者を過小評価していた大人たちも、「若者でもこれだけできるのか」と認識を改め、「こんな関わり方もあるのか」「このまちでこんなことをしてもいいのか」と刺激を受けるようになる。また、若者が懸命に取り組む姿は大人たちを勇気づけるとともに、これまで果たしてこなかった大人の責任を自覚させ、「自分たちも何かやらなければ」という意識を芽生えさせる。こうした観点から、若者政策は同時に「大人政策」であるともいえる。

(2) 若者にとっての意義

若者がまちづくりに関わる意義は、単に地域課題の解決や次世代リーダーの育成にとどまらず、もっと根本的なところにある。すなわち、若者自身が社会の一員として自分の立ち位置を自覚し、人格的に自立するとともに、社会的視点や主権者としての判断力を身につける重要な機会となることである。まちという場で自分の存在や地域との関係性を探り、活動を通して他者と関わりながら自分のアイデアを形にしていく経験は、達成感や面白さを生み、より主体的

に「自分ごと」として地域に関わる力を育む。

3. 若者参画に向けての自治体の心構え

(1) 若者のまちづくり政策は長期戦

若者のまちづくりに係る取組は、短期で完結するものではなく、10～20年という長いスパンで育てていく必要がある。目先の成果にとらわれず、社会や若者自身の成長を見据えた長期的な取組として捉えることが重要だ。取組から数年後、当時関わっていた若者が地域へ戻ってきたり、地域で新しい活動を始めたりなど、時間を経て現れる成果が多い。自治体は、年度ごとの成果や報告を求められるが、人と人との関係づくりは短期間で結果が出るものではない。若者が心を開き意見を言い始めた頃に事業が終了してしまうこともある。長期的な視点で見守り、関係の継続を支える姿勢が求められる。

(2) 自治体は後方支援に徹せよ

自治体に求められるのは、若者を過度に管理することではなく、若者が自由に動ける環境を整えるための後方支援をすることである。そのためには、若者がいつでもまちづくりへ参加できる機会や成長の余白を用意しておくこと、そして、若者の主体性を信頼し、口出しし過ぎず一歩引いて見守る姿勢が不可欠である。加えて、自治体は媒介役として、企業や地域の人材・資源と若者をつなぎ、若者の活躍の場を広げていく役割が求められる。

(3) 若者を都合よく使わない

担当者が若者を「うまく使おう」とする姿勢は、若者に見抜かれ、逆に離れていく原因となる。若者を手足のように使おうとするのではなく、互いにリスペクトし合う対等な関係が前提でなければ、真の連携は築けない。また、若者会議などで若者から意見を聞くだけで終わらせるのではなく、意見を聞いた以上、それをどう反映させるか考えることは自治体側の責任である。その覚悟を持って取り組まなければ若者に失望を与えかねない。

(4) 結果よりもプロセスが重要

若者政策は、完璧な答えや短期的な成果を出させることを目的としてはならない。若者にとって重要なのは、活動の結果そのものではなく、むしろ「考えてみる」「やってみる」といった試行錯誤や、地域や大人と関わること、ときには失敗しながら挑戦することといった、結果に至るまでのプロセスである。このプロセスを通じて、若者は達成感や主体性を育み、大人との信頼関係を醸成することにつながる。若者自身が考え、挑戦したことそのものが学びとなるのである。

4. 若者参画をうまく進めるためのコツ

(1) 「面白そう・楽しそう」と「柔軟さ」が大切

若者がまちづくりに関わる上で最も重要なのは、「面白そうだからやってみたい」という主体的な意欲であり、楽しいという要素が入り口になる。参画のきっかけは、目的意識よりもむしろ「なんとなく」「誘われたから」といった軽さで十分であり、事前準備を求めたり、過度な責任を負わせたりすることは不要である。また、関わり方は人それぞれで、継続参加を求める必要はない。無理な関与を強いるとかえって人を遠ざけてしまう。参加形態についても、オ

ンライン活動や寄附、短期的なものなど、多様な形を認める柔軟性も求められる。

(2) 若者との接し方

大人が若者と関わる際は、上から目線を排除することが不可欠である。大人はあまり前に出ず、にこにこ笑って静かに若者を見守る姿勢が望ましい。また、若者を教える対象ではなく、ともに活動する仲間として捉えることも重要。経験の押し付けや自慢を避け、若者の横で一緒に考え、意見を否定せずに話を聞き、失敗も許容しながら伴走する大人の存在が、若者の安心感を高め、自由な意見出しや挑戦を後押しする。

(3) 成果の捉え方を変える

若者参画の成果は、参加人数や事業数といった量的指標ではなく、若者自身の成長や市民サービスの向上にどれだけつながったか等で示せると良い。「何人が参加したか」ではなく、「どのような関係が生まれたか」「誰がどのように成長したか」といった視点で評価すべきである。自治体評価の枠組みの中でも、若者の成長の軌跡を記録・共有できる仕組みを整えることが望ましい。

(4) 職員も若者と一緒に楽しむ

自治体職員自身も、単なる職員ではなく一人の「人」として若者とともに活動に参加し、楽しむ姿勢が重要である。若者と同じ目線で関わりつつ、必要に応じて自治体職員としての役割を柔軟に果たすことが、信頼関係の構築や事業の自走化に寄与する。オブザーバーのように離れたところから眺めているだけだと、若者から気を遣われて距離を置かれ、話すきっかけを失ってってしまう。例えばパソコンで記録を取るにしても、同じグループ席に座り、一緒に取り組む姿勢を示す方が良い。

(5) 人事異動を想定した仕組みづくり

担当者の異動によるノウハウ喪失を防ぐため、取組の目的や記録、成果の文書化は重要である。それにあたっては、若者支援は定量化が難しいため、事例やストーリーとして共有する仕組みが有効である。また、担当者が変わると、当初の取組の目的や意義が見失われることがあるため、そこへ立ち返るプロセスが必要となる。若者との関わり方は、前任者と同じである必要はなく、新しい担当者自身の個性やキャラクターを出していけばよい。自治体の得意分野は民間やNPOに委ね、自治体は活動場所や資材提供、広報などの裏方に徹することも、継続性を高める方法として好ましい。ただし丸投げは避けるべきである。

(6) SNSと広報の使いかたを工夫する

自治体の広報は若者には届きづらい。そのため、SNSや口コミを重視した柔軟な発信が必要である。例えば、若者自身に広報づくりを任せたり、住民主体の媒体を支援したりするなど、発信方法にも参加型の要素を導入することが考えられる。また、取組に際してSNSを運用する場合は、準備段階のプロセスから発信することで、閲覧者の期待感が醸成され、ファンをつくっていくことにつながる。

(7) 若者が少ない地域での考え方

島しょなどの若者が少ない地域では、都心にいる出身者ネットワークを活用し、都市側で若者会議を開催するなど「関係人口」として関与してもらうことが有効な方法の1つとして考え

られる。また、地域内では就業機会が限られるため、単純な移住促進とは異なるアプローチが求められる。それにあたっては、「なぜ人が集まるのか」を丁寧に考えることで、地域ごとの異なる可能性が見えてくる。最近では、Uターン等で地域に戻ってきた若者が、外で得た知識や経験を地域に還元するケースも増えている。そのため、若者が出ていくことを悪く捉えず、折に触れて地域と関わり続けることができる関係性や、戻ってきた若者を受け入れ、地域に還元できる環境を整えることで、地域の持続可能性が高まっていく。

第6章

**多摩・島しょ地域自治体におけるまちづくりへの若者参画
のための取組に関する提言**

1. 調査研究から得られたこと（概要）

(1) 若者のまちづくり参画の意義や期待される効果等		
<p>① 地域社会にとっての意義や効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人に刺激や気づきを与え、「自分たちもやらねば」という前向きな姿勢や行動変容を促す力がある。 ・持続可能なまちづくりには、多世代が交流し循環する仕組みが必要であり、若者はそのハブとなり得る。 	<p>② 若者にとっての意義や効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な視点を身につけていくプロセスであり、主権者教育として重要。 ・地域の役に立つという達成感によって、自己肯定感の高まりやアイデンティティの形成に寄与するとともに、活動を通してコミュニケーション能力が育まれる。 ・まちづくり活動を通して地域に対する愛着・誇りが芽生える。 	<p>③ 自治体にとっての意義や効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の提案や発想は自治体における固定概念を揺さぶり、庁内の意識を変える力を持つ。 ・メンターとして若手職員が関わることは、若手職員にとっても良い刺激、育成の場となる。 ・自治体が若者と一緒にまちづくりを推進しているという姿勢は、まちとしての対外的な知名度向上やシティセールスとして効果的である。
(2) 若者のまちづくり参画における現状・課題		
<p>① 自治体の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組に係る成果の定義が曖昧である。 ・予算や人的資源の制約、継続性、成果の見通し等が重要視される一方、若者の主体性の担保とのバランスが難しい。 ・若者のニーズや意向に合った十分な情報発信ができているとはいえない状況。 	<p>② 若者の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動へのイメージ不足や、参加による負担感への不安が、若者の参画を妨げる原因となっている。 ・若者は地域や大人との接点が乏しいことから、これら2つへの心理的距離を感じている。 	

2. 提言（概要）

1. 基本理念・目的の明確化
<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ若者の声をまちづくりに取り入れるのか」を明確化し、組織全体で共有する ・若者を「うまく使おう」とすることは避ける ・若者の「意見を聞く」ことよりも「ともに考える」ことに考え方を变える
2. 実践における基本原則
<ol style="list-style-type: none"> (1) 若者の主体性を引き出す場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・若者が居心地のよい環境を整える必要がある ・「失敗してもいいんだ」と思ってくれる雰囲気づくりが必要 (2) 若者との関係性・自治体やサポートする大人の関わり方 <ul style="list-style-type: none"> ・自治体は若者の後方支援に徹すべき ・担当者は「公務員」ではなく「一個人」として若者と関わる ・若者の意見を否定せず、話を聞き、寄り添って一緒に考える
3. 参加の柔軟性
<ul style="list-style-type: none"> ・参加の入り口として「面白そう、楽しそう」と思ってもらえる仕掛け ・無理なく柔軟に関われることを許容するルールや場づくり
4. ターゲットとする若者像
<p>制度設計にあたっては、その目的に応じて異なる戦略を取る必要がある</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) すそ野拡大型（潜在的な関心層を掘り起こす） (2) コア参画型（まちづくりへの高い関心を持つ若者へ働きかける）
5. 「完璧を目指さず、小さく始める」取組の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・最初から完璧を求めない。失敗は仮説検証のプロセスとして捉えることができる ・若者の意見や提案を小規模でも形にすることが、次の挑戦を支える原動力となる
6. 自治体の役割と実行基盤
<ol style="list-style-type: none"> (1) 庁内の体制・役割分担 <ul style="list-style-type: none"> ・取組の目的を言語化し、関係部署間で共有する (2) 自治体を持つ固有の強み・資源活用 <ul style="list-style-type: none"> ・自治体には情報発信力があるが、媒体と活用方法は工夫が必要 ・公共空間の管理をする立場であり、活動の場を提供することができる ・地域の団体や企業などの資源を把握しており、若者と地域をつなぐ役割が可能
7. 評価・成果の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・若者の主体性が育っているか、市民サービスが向上したかの視点で評価ができる
8. 持続・発展・外部連携
<ol style="list-style-type: none"> (1) 人事異動を踏まえた取組の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・人事異動に備え、事例やストーリーで活動を共有する仕組みを構築 ・民間に運営を移行する場合でも、自治体もパートナー的とともに活動を推進する (2) 地域外の若者に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・取組目的によっては地域外の若者も対象になり得る ・若者を地域へ呼び込む形と、地域の外から参加してもらう形が考えられる

6.1 調査研究から得られたこと

1. 若者のまちづくり参画の意義や期待される効果等

(1) 地域社会にとっての意義や効果等

○ 地域の大人の意識や行動を変える

若者がまちづくりに関わることは、地域の大人に刺激や気づきを与え、「自分たちもやらねば」という前向きな姿勢や行動変容を促す力がある。初めは「若者がいない。若者になんとかしてほしい。」と他力本願に考えていた大人も、若者の活動を目の当たりにすると意識が変わる。燕市では若者会議の活動が知られるようになると、地域の大人たちから「若者と一緒に商品開発できないか。アイデアがもらえないか。」と具体的なことに取り組もうとする声も聞かれた。



また、若者の自由で柔軟な発想や意外な実行力は、大人の先入観や価値観を揺さぶる。木村氏は、若者がまちの中で動くと、それを見た大人たちが「こんな関わり方もあるのか」「このまちでこんなことをしてもいいのか」と刺激を受けることを指摘している。

さらに、若者の存在は、大人が本来果たすべき責任を自覚させ、行動へ促す効果もある。

このように若者参画は、大人のふるまいや態度を変える契機となることから、「大人施策」としての側面も持つといえる。

○ 多世代交流のハブ的な役割に

大杉氏は、10～20年という長いスパンで継続されるまちづくりにおいて、将来的に若者が社会の中心的な役割を担っていくことを考えれば、若者の参画は必須であると指摘している。加えて、持続可能なまちづくりを進めていく上では、多様な世代が交流し循環していくことが必要であり、若者は、そのハブ的な役割を担える存在であることも指摘している。

つまり、地域社会が人口減少・少子高齢化という状況に直面する中で、若者のまちづくり参画は、地域の持続可能性を支える基盤的な要素であり、若者の参画を前提とすることが必要だといえる。

(2) 若者にとっての意義や効果等

○ まちづくりを自分事として捉えるようになる

林氏は、まちづくりを自治体任せにするのではなく、市民自らがその主体であると認識することの重要性を述べているが、まちづくりに関わることによって、若者は自分事としてまちづくりを捉えるようになる。松下氏は、若者のまちづくりへの参画は、社会の一員であることを自覚し、社会的な視点を身に付けるプロセスであることから、主権者教育（国や社会の問題を自分事として捉え、自ら考え行動していく主権者を育成すること）としての効果をもたらす非常に重要な経験であると指摘している。

○ 若者の内面的・能力的成長

木村氏は、若者が地域に関わる機会そのものが圧倒的に少ないことを課題として挙げており、地域が日常の延長線上に位置づけられにくいことを指摘している。そのため、地域との関係づくりは、ちょっとした関わりであっても実際に関わってみることで自体が重要であり、地域の大人との出会いの中で、関係性が生まれ、若者の行動が次へつながっていくことにも言及している。このことから、若者にとっては、地域という場を介して多様な大人と出会い、ともに活動することで、社会的な視野を広げるきっかけとなることや、親や学校の先生以外の大人との関係性が生まれることにつながる。加えて、地域の役に立っているという達成感や、自己肯定感の高まり、自身のアイデンティティーの形成にも寄与すると考えられる。さらに、活動を通して多様な世代や大人と関わる中でコミュニケーション力や課題解決力も育まれる。

○ 地域への愛着・誇りの形成

燕市の事例では、若者会議に参加した者のうち、68名が市内へ就職しているほか、「燕市に恩返ししたい」「大学でまちづくりを学んで燕市に帰ってきたい」といった思いを抱くようになるなど、活動を通じて地域への愛着が形成されている様子が見えてくる。このように、若者がまちづくりに参加し、自らが住む地域を知ることで、地域に対する愛着やまちづくりへの興味・関心が高まる。それによって、活動に関わった若者が進学や就職を機に地域の外へ離れたとしても、将来的に地域へ戻ってくるきっかけにつながることを期待される。



(3) 自治体にとっての意義や効果等

○ 庁内の意識改革につながる

林氏は、若者の提案は庁内における調整や合意形成において説得力が増すこと、また、自治体職員が単独で企画するよりも、若者発案として進める方が、実現性が高まることについて言及している。このように、若者の提案や発想は、地域社会にとっての意義と同様に、自治体における固定観念を揺さぶり、庁内の意識を変える力を持っている。若者発案の取組は、自治体内部でも、担当者発意の取組と比較して受け入れられる傾向があり、庁内で新たな発想や取組を導入していく上で大きな力となり得る。

○ 職員の成長に資する

松下氏は、若者にメンター職員として関わる担当職員にとっても、若者や市の予算に関することなどを肌で感じる貴重な機会であり、非常に良い訓練となることを指摘している。実際に新城市や北九州市の事例では、若手職員が関わっている。このような経験は若手職員にとっても良い刺激、育成の場になっている。

○ シティセールス効果

多摩市若者会議の取組では、メディアによる取材などを通じて多摩市の知名度が向上し、多摩市のPRにもつながる効果が聞かれた。また、林氏は、若者とともにまちづくりを進めることで、自治体としてポジティブなイメージの獲得にもつながることを指摘している。自治体が若者と一緒に関わりを推進しているという姿勢は、まちとしての対外的な知名度向上やシティセールスとして効果的である。若者の意見を反映した施策は、自治体が住民に対して開かれていることを示すことにもつながり、施策に対する住民の理解促進やまちのイメージ、ブラ

ンドの向上にも寄与することが期待できる。

以上のことから、若者のまちづくり参画は、若者の主権者教育や社会における成長等の観点にとどまらず、自治体の意識改革、さらには地域の魅力向上やブランド形成にも効果をもたらす重要な取組として考えられる。また、地域社会にとっての意義・成果として掲げた持続可能なまちづくりに資することなど、広義には自治体の意義や効果といえるものもある。若者のまちづくりへの参画を一過性の取組として終わらせるのではなく、庁内の関係部署の連携のもとで継続的な施策として位置付け、地域経営の中核を担う取組として発展させていくことが求められる。

2. 若者のまちづくり参画における現状・課題

(1) 自治体の現状・課題

○ 成果の定義の曖昧さ、若者の主体性とのバランス

自治体側の課題として、取組における成果の定義が曖昧である点が指摘される。これに加え、自治体の成果指標と、若者の主体性を重視する取組姿勢とのバランスを取ることが難しい点も挙げられる。新城市と多摩市へのヒアリングでは、「成果を求めすぎると若者の意欲を損なう一方で、自由度を高めすぎると事業の実効性が低下する」といったジレンマが存在することが課題として挙げられていた。



自治体アンケートでは、取組前後で共通して「予算や人的資源の制約」、「長期的な継続性や成果の見通し」に対する課題意識が高い。取組後の課題として、「若者との接点・関係性が希薄」、「若者の参画意欲や関心が把握できていない」がやや低下しており、実施を通じて認識の変化がみられる一方、予算確保や成果の捉え方等は課題として残る（29ページ、図表3-14を参照）。

○ 自治体と若者とのギャップ

自治体アンケートの情報発信に関する設問では、自治体が最も活用している媒体は公式ウェブサイトであり、これは若者アンケートの同様の設問においても最も活用意向が高い媒体であった。一方で、若者の利用が多いSNS等（Instagram、LINE、TikTok等）については、自治体側は十分に活用できていない実態が明らかとなった。このような情報発信媒体に関するギャップが、まちづくり活動への参加機会に対する認知不足を生む要因の1つであると考えられる。

さらに、関心のある地域課題についても、自治体と若者との間でギャップが見られる。自治体が地域の課題解決に向けて若者の参画を期待する領域は、「地域振興」が最多だったが、若者は「地域振興」も含め、「安全・防災・防犯」や「環境対策」、「文化・スポーツ振興」など、回答数に大きな差はなく、幅広い分野に関心が高いことがうかがえる。

(2) 若者の現状・課題

○ 若者のまちづくり参画を妨げる「イメージ不足」と「負担感」

若者アンケートの結果、まちづくり参画に関心が無い理由として、「人と付き合うのが面倒」（38.0%）、「どのような活動があるか知らない」（36.6%）、「時間的な余裕がない」（34.1%）な

どが上位を占めた。また、まちづくり参画に関心があるが、活動していない層が活動に参画する上での不安として、「活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担」(36.2%)が最も多く、「長期的に参加し続けられるかわからない」(34.7%)、「自分に何ができるのかわからない」(31.6%)が上位を占めた。

これらの結果から、若者はまちづくり活動への具体的なイメージが持てていないことに加え、活動において他者との関わりを避ける傾向があり、さらに参加によって時間面や継続面で大きな負担が生じることを不安に感じていることが明らかとなった。



○ 地域や大人との心理的な距離

有識者ヒアリングでは、若者は学校や職場といった枠組みの中では活動している一方で、地域との接点が極めて乏しいことが指摘されている。その理由として、教育・就労と地域活動とを接続する仕組みが無いことや、学校や職場が地域外に立地し、地域と分断されていること等が挙げられている。このような結果、若者にとって地域は「風景」としてしか認識されず、進学や就職で地域を離れる際にも地域で何かをしたという記憶が無いため、「地元へ帰りたい」という気持ちが起こりにくくなる。

また、特に高校生は、普段接点のある大人といえば親や学校の先生くらいで、それ以外の大人と接する機会は乏しい。そのため、大人に対しては怖いという印象を抱いていることが指摘されている。

6.2 提言

1. 基本理念・目的の明確化

手法や制度設計を考えるよりもまず先にやるべきは、「なぜ若者の声をまちづくりに取り入れるのか」という基本理念と目的を明確にすることである。自治体として、どのような姿勢で若者と向き合うのかを組織全体で共有することが出発点となる。

これを考えるにあたり、若者を「うまく使おう」とすることは避けるべきである。若者は容易にそれを見抜き、かえって若者が離れていく原因となる。意見を聞く以上は、どの意見をどのように実現させるか考えることが自治体の責任であり、相応の覚悟が求められる。

また、若者の参画は地域活性化の手段であると同時に、将来の地域社会をともに形成するパートナーシップの構築過程でもある。「意見を聞く」ことよりも、「ともに考える」ことを基調とする考え方の転換が求められる。

2. 実践における基本原則

(1) 若者の主体性を引き出す場づくり

場づくりの前提として、若者が安心して参加できる居心地の良い環境を整える必要がある。そのためには、若者が「失敗してもいいんだ」と思ってくれる雰囲気づくりが求められる。失敗できない雰囲気や環境では、若者は楽しむことができず、主体性も醸成されないため、思うような成果につながらないことが懸念される。成果につなげていくためには、むしろ失敗を積み重ねていくことが必要である。失敗は若者自身の成長につながるとともに、取組に大きな成果をもたらすことが期待される。

(2) 若者との関係性・自治体やサポートする大人の関わり方

自治体には、取組の主体である若者が自由に動ける環境を整えるための裏方として、若者を後方支援する姿勢が求められる。自治体が前面に出過ぎると、若者は必要以上に意義や成果が求められ、取組の自由度や面白さが損なわれるだけでなく、負担感が増し、離脱につながる恐れがある。

また、若者から見ると、自治体は距離の遠い存在である。取組の中でも、担当者が離れたところからオブザーバーのように見ているだけでは、若者に気を遣われ、話しかけられるきっかけを失いかねない。そのため、担当者には「公務員」ではなく「一個人」として若者の中に入っていき姿勢が求められる。例えば、若者と一緒にイベントに参加したり、雑談を交えたりすることが、若者との関係づくりの出発点となる。さらに、複数の大人が関与することで、若者が自分に合う相談相手を見つけることができる。

自治体担当者を含め若者をサポートする大人は、若者の意見や話を否定せず、まずは最後まで聞くことを徹底すべきである。また、上から目線で教えるのではなく、実現可能か寄り添って一緒に考え、伴走してくれるような大人の存在が、若者にとっては重要だ。

3. 参加の柔軟性

取組への参加の入り口として、「なんとなく面白そう、楽しそう」という仕掛けがあることが、若者の主体的な意欲を引き出すために何より重要である。参加のきっかけも「友達に誘わ

れたから」というくらいの軽いもので十分であり、自然である。

加えて、参加者には必ずしも継続的な参加を求める必要はない。学生は学業やアルバイト、子育て世代は育児といったように、ライフステージによって参加が容易な時期もあれば、そうでない時期もある。そのため、参加できるときに参加する、一度だけの参加も認めるなど、無理なく柔軟に関われることを許容するルールや場づくりが必要となってくる。また、オンライン活動や短期的な関わりなど、参加形態についても多様な形を認める柔軟性も求められる。まずは関われる人たちだけで取り組み、それが周囲に「面白そう」と思われていくことが、参加の広がりにつながっていく。

4. ターゲットとする若者像

若者参画のための取組を検討する際は、その目的に応じて異なる戦略を取る必要がある。先進事例調査の結果等を踏まえると、幅広い若者に働きかけ、潜在的な関心層を掘り起こす「すそ野拡大型」と、まちづくりへの高い関心を持つ若者へ働きかける「コア参画型」という2つのアプローチ戦略が考えられる。自治体は、自身が持つビジョンや施策を踏まえ、若者に参画してもらう目的やプロセスを明確にした上で、参画の仕組みを組み立てていくことが求められる。



(1) すそ野拡大型

「すそ野拡大型」は、「まちづくりへの関心を持つきっかけづくり」に重点が置かれる。この戦略では、若者に「地域のことを知ってもらう」、「まちづくりへの興味・関心を育む」ことを促し、まちづくり参加へのすそ野を広げていくことが目的となる。そのため、まちづくりへの関心は持ちながらも参加経験が乏しく、「活動がわからない」、「負担が大きそう」と感じている、潜在的な関心層の若者がターゲットとなる。

この戦略において、自治体は、若者の参加への心理的ハードルを下げ、気軽に関わることができる仕掛けを用意することが求められる。具体的には、SNSやオンラインツールを活用した情報発信や、1日完結型イベント、アンケートや投票といったライトな参加機会の提供などが有効といえる。また、学校や大学、地域団体と連携し、出前ワークショップやまち歩きなどを通じて若者が地域を体験的に知る機会を設けることも望ましい。

また、こうした段階では、「楽しい」、「人とつながる」、「社会に少し貢献できる」といった感情的な満足感が参加動機となるため、活動テーマは防災や環境保全、環境美化など、身近で共感を得やすい内容とする方が効果的といえる。

(2) コア参画型

「コア参画型」は、「実践と成長の場づくり」に着目し、若者の挑戦の機会と支援環境を整え、継続的な活動を育てることが求められる。参加が想定されるのは、まちづくりへの高い関心と自己実現意欲を持ち、実際に企画や運営に携わりたいと考える若者である。そのために自治体が重視すべきは、挑戦の機会と伴走体制を整えることである。

例えば、若者が自らテーマを設定し、提案から実践まで行う「若者会議」のような取組が考えられる。本調査研究でヒアリングをした多摩市や燕市のように、小規模でも自分たちのアイデアが実現できる仕組みを設けることで、若者は達成感と自信を得て継続的に関わるようになる。

また、自治体がメンターやコーディネーターを配置し、許認可や施設利用など実務面を支援することも重要である。

図表6-1 ターゲット層別のアプローチの考え方

区分	すそ野拡大型	コア参画型
特性	・まちづくりへの関心は持ちながらも参加経験が乏しく、活動イメージがない、負担が大きそうだと感じている	・まちづくりへの高い関心と自己実現意欲を持ち、実際に企画や運営に携わりたいと考えている
留意点	・心理的ハードルを下げ、気軽に関わることができる仕掛け、プロセスに留意する	・挑戦できる挑戦・場を提供する（伴走体制も重要）
実践例	・ライトな参加機会の提供（SNSやオンラインツールを活用した情報発信、1日完結型イベント、アンケート等）	・若者が自らテーマを設定し、提案から実践まで行う「若者会議」のような取組
先進事例の区分	○燕市若者会議（まちあそび部） ○北九州市Z世代課の取組（次世代創造プログラム）	○燕市若者会議（燕ジョイ活動部） ○新城市若者議会 ○多摩市若者会議 ○北九州市Z世代課の取組（Z世代はみ出せ！コンテスト） ○タテシナソン

5. 「完璧を目指さず、小さく始める」取組の進め方

若者参画に係る新たな取組をする際、大切なポイントは2つある。

まず、「最初から完璧を求めない」ことである。取組を実施した結果、うまくいくこともあるが、そうでないこともある。それを「成功」「失敗」ではなく、仮説検証のプロセスとして捉えることもできる。継続的に取組を進めていき、うまくいかなければ、改善し、再度やってみる。先進事例の多くも、このようなプロセスを繰り返して現在の取組の形になっている。

次に、「小規模でも形にする」ことである。若者の意見や提案を小規模でも形にし、「実現した」という経験を積み重ねることが、自治体と若者の信頼を深め、次の挑戦を支える原動力となり得る。また、実現したことを地域のイベントやSNSなどで発信することで、若者たちにとって自分たちの意見が地域に届いたという実感が生まれる。小規模な実現化であれば、大きな予算を投入せずとも十分に継続できる可能性がある。

6. 自治体の役割と実行基盤

(1) 庁内の体制・役割分担

庁内に向けては、取組の目的を言語化し、関係部署間で共有することが求められる。若者に関わる取組は、教育・福祉・地域振興・都市計画など複数の分野にまたがるため、特定の部署で完結するのではなく、庁内の関係部署間で横断的な連携を前提に進める必要がある。

取組においては、若者の主体性が非常に重要な要素となることから、携わる担当者の主体性も必須となる。そのためには、管理職の役割も重要である。管理職は、前述の「1. 基本理念・目的の明確化」や「2. 実践における基本原則」、若者参画の意義を十分に理解した上で、現場職員の考え方を尊重しつつ、柔軟に対応できる環境を整えることが望まれる。

(2) 自治体を持つ固有の強み・資源活用

自治体は、自らが持つ強みを若者参画の取組の中で有効活用できる。

まず自治体には、公式ウェブサイトや広報紙、公式SNSなどを通じた情報発信力があり、かつその内容は一般的に信用度が高いとみなされる。その一方、若者に対しては、情報発信媒体やその活用方法について工夫が必要である。例えば発信媒体については、SNSや動画など、若者が日常的に使うコンテンツを用いることが考えられる。活用の際には、イベントの開催に至るまでのプロセスも発信していくことが重要である。北九州市のZ世代課では、効果的なデザインや表現を用いて情報発信を行っている。



次に、公園や公共施設、河川敷等の公共空間を管理する立場として、若者のまちづくり活動の場や実験的取組の場を提供することもできる。

加えて、自治体は、地域の団体や企業、学校、自治組織など、多様な人材や資源を把握している。例えば、若者のアイデアの具体化のために、若者と地域の人材・団体とをつなぐことができる。また、学校に対し、自治体を実施する若者向けの取組への協力を依頼することも考えられる。

7. 評価・成果の考え方

若者のまちづくり参画に関わる施策の評価を行う際に、関わった若者がどのように成長したのか、あるいは、若者が参画した結果、市民サービスがどのように向上したのかといった視点で評価することが重要である。

評価の重要なポイントの一つとして、若者の主体性が育っているかどうか挙げられる。主体性が育っていれば、施策をある程度自立的に進めることが可能であり、得られる成果の大きさも期待できる。

自治体として、成果を求めすぎると若者の意欲を損なうことになってしまい、若者の自由度を高めすぎると事業の実効性が低下するというジレンマも存在する。このバランスを取っていくためには、前述した「1. 基本理念・目的の明確化」が成された上で、若者の意見を大切にしつつも、自治体としての思いや考え、制度的な制約等も若者と共有し、ともに落としどころを考えていくことが肝要となる。若者の自由度を効果的に高めるという観点では、つばめ若者会議や新城市若者議会、北九州市Z世代課の取組などで見られるように、若者にテーマ設定を

委ねることで主体性醸成につながっている点、また、多くの事例にみられるように、実践型をとまなうプロセスが若者にとっての魅力となっている点が参考になる。

8. 持続・発展・外部連携

(1) 人事異動を踏まえた取組の継続

担当者の異動等によりノウハウが継承されない事態を防ぐため、取組の目的や記録、成果の文書化は当然ながら、若者の活動に関しては事例やストーリーとして共有し、先述の基本理念や目的を含めて引き継ぐ仕組みを構築することが有効である。若者との関わり方は、新しい担当者自身の個性やキャラクターを活かしていけばよい。

民間や市民団体に段階的に運営を移行する手法も有効である。多摩市の事例では、若者会議の参加者が合同会社を設立し、民間主導の継続運営に成功している。

民間に委ねた場合でも、自治体の担当部門がパートナー的に関わり、ともに活動を推進していく体制づくりが必要である。北九州市の事例では、事業のターゲット像やコンセプトについて、委託先と明確に共有を行ったほか、密に打合せや意見交換を行い、進め方や方向性について、常に目線合わせを行っている。

(2) 地域外の若者に向けた取組

取組の目的によっては、地域の外の若者を対象とすることが考えられる。

例えば、立科町が取り組んだアイデアソンのように、地域外に住む若者を地域に呼び込み、実際に滞在してもらいながら、「よそ者」の目線からまちの課題の解決策を考えてもらう取組が考えられる。実施にあたっては、最寄り駅から現地まで車で送迎するなど、参加者の移動負担のハードルを下げるのが有効である。

また、探究学習を活かし、地域外の若者に向けた取組に関わることで地域内の若者に対してもアプローチすることができる。「総合的な探求の時間」との連携は立科町や多摩市の取組でも行っている。

さらに、地域に直接訪れずとも、地域の外から関わってもらうことも考えられる。例えば、進学や就職のため転出した若者や、その地域に関心がある若者のために、若者会議を現地とオンラインのハイブリッド開催とすることが考えられる。

このように、地域外から若者を呼び込み、地域の課題解決や魅力創出といったプロジェクトへの参画を促す取組は、参加する若者が基本的にまちづくり等に対する関心や意欲が高い傾向にあり、非常に有効な方法の一つといえる。



9. 若者のまちづくり参画を進める上でのチェックリストの作成

本調査研究における提言を踏まえて、これから若者のまちづくりへの参画に取り組む自治体にとって、参考となるチェックリストを作成した（図表6-2参照）。

あくまで、提言を踏まえて、重要と考えられるチェック項目を整理したものであり、これらすべてを満たす必要があるというのではなく、また、これですべてを満たしているというものでもない。

自治体として考えている施策の目的や内容、想定している若者のターゲット像等を踏まえながら、適宜、修正・追加し、自治体の現状や特性に合った形へアレンジして活用いただければと思う。

図表6-2 若者のまちづくり参画を進めるにあたり留意すべきチェックリスト（参考）

項目	チェック	チェック項目
前提となる考え方、スタンス		1. 若者がまちづくりへ参画する目的が整理できている
		2. 若者とともに考えるスタンスが共有されている
		3. 若者の意見やアウトプットがどのように施策等へ反映されたかフィードバックが可能
		4. 若者の意見やアウトプットを施策等へ反映する仕組みができています
		5. 地域が抱える課題を明確に把握できている
		6. 地域の人材、団体等とのつながりを有している（若者とのマッチングにより活動が展開しそうな種を有している）
若者へのアプローチ		7. SNS、動画等、若者の使用ツールに合わせた情報発信が可能
		8. 若者に刺さる表現、デザインに留意されている
		9. 参加の前提条件、若者に求めることが明確に示されている
		10. 特に対象を限定せず、さまざまな層へアプローチできるようにしている
会議、イベント等の運営		11. 「面白い」、「楽しい」が入り口となる仕掛けが用意されている
		12. 若者の主体性、自由度が確保されている（会議の進め方、アウトプット等が若者へ委ねられている）
		13. 若者に伴走する人材が配置されている（コーディネーター、メンター等）
		14. 話しやすさ、居心地の良さに配慮された空間づくりに留意されている
		15. 求められる成果が具体的に決められていない（若者が考える余地がある、失敗もOK等）
		16. 小さな成功体験の積み重ねに留意している
		17. 参加の条件がゆるく設定されている（1回の参加でもOK、見学もOK等）
合意形成		18. 庁内で若者のまちづくり参画の意義・目的が共有されている
		19. 地域に向けて発信されている
		20. 若者と地域がつながる（連携する）仕組みが取り入れられている

參考資料

参考資料2 自治体アンケート調査結果（本編掲載分以外）

調査概要

調査目的	○若者世代がまちづくりへ参画するために、自治体はどのような取組を進めるべきか、全国の先進的な事例の調査等を行いながら、多摩・島しょ地域市町村の取組の方向性を提示すること
調査対象	多摩・島しょ地域39市町村
調査時期	令和7年7月25日～8月29日
調査方法	電子メールによるアンケート調査票（Excel形式）の送付・回収
回収数	39団体
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果表中の「n」とは、問ごとの基数を意味する。 ・グラフは回答数が多い順に表記している（「その他」「わからない」等を除く）。 ・本文や図表中の選択肢の表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。 ・「その他」回答については、明らかな誤字を除いて、回答をそのまま掲載しているため、表現等が統一されていない場合がある。

1

主な設問区分	設問概要
1 まちづくりへの若者の参画に係る現状	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域課題のうち、課題解決に向けて若者の参画を期待するもの ② まちづくりに若者が参画することを促す取組に係る状況
2 取組の状況について ※ まちづくりに若者が参画することを促す取組を行っている団体が対象	<ul style="list-style-type: none"> ① 開始時期 ② 対象となる若者の条件 ③ 条例に基づく取組であるか否か ④ 取組の政策的な位置づけの有無 ⑤ 庁内の体制 ⑥ 目的 ⑦ 発信媒体 ⑧ 意見聴取の手法 ⑨ 若者の意見を施策や事業等に反映させるために実施している取組 ⑩ 想定していた/実際に直面した課題 ⑪ 工夫・留意したこと ⑫ 期待していたこと/把握できた成果
3 取組を実施していた当時の状況について ※ まちづくりに若者が参画することを促す取組を行っていた団体が対象	<ul style="list-style-type: none"> ① 開始/終了時期 ② 対象とした若者の条件 ③ 条例に基づく取組であったか否か ④ 取組の政策的な位置づけの有無 ⑤ 庁内の体制 ⑥ 目的 ⑦ 発信媒体 ⑧ 意見聴取の手法 ⑨ 若者の意見を施策や事業等に反映させるために実施した取組 ⑩ 想定していた/実際に直面した課題 ⑪ 工夫・留意したこと ⑫ 期待していたこと/把握できた成果 ⑬ 終了（廃止）した理由

2

主な設問区分	設問概要
4 取組の検討状況について ※ まちづくりに若者が参画することを促す 取組を検討中の団体が対象	① 具体的に進めている検討事項 ② 現時点で感じている課題
5 実施・検討していない理由について ※ まちづくりに若者が参画することを促す 取組を実施も検討もしていない団体が 対象	①実施も検討もしていない理由
6 国等に求める支援	① 国や都等へ期待すること

3

① 取組を開始した時期を教えてください。（記述回答、n=21）【単純集計】

取組開始時期	回答数
2001年以前	0
2001年～2005年	2
2006年～2010年	1
2011年～2015年	1
2016年～2020年	5
2021年～2025年	11
無回答1	1

4

② 対象となる若者の条件（居住地）を教えてください。（記述回答、n=21）
【単純集計】

NO	回答内容	NO	回答内容
1	市内在住・在学・在勤	11	〇〇市に在住・または、在学等
2	〇〇市在住	12	市内在住、在勤、在学
3	市内	13	市内市外ともに対象
4	市内に在住・在学・在勤	14	市内在住
5	市内在住または、在学	15	市内在住
6	町内	16	指定なし
7	町内	17	市内に在住、在勤、在学等
8	不明	18	市内在住・在勤
9	島内在住	19	①市内、②市内および市外
10	指定なし		

5

② 対象となる若者の条件（その他）を教えてください。（記述回答、n=21）
【単純集計】

その他（自由記述）	
1	〇〇市在学または、市内で活動されている方
2	本年度開始する「若者会議（仮称）」事業については〇〇市に在住・在学・在勤の若者も対象としている。
3	島内の高校生
4	所属の指定もなし
5	グループの代表者が〇〇市に在住、在学等であれば申込み可能
6	市内に所在する大学に通う学生
7	市と連携する学校に所属する学生（大学院・専攻科等を含む）
8	〇〇市在住・在勤・在学の方
9	子育て世代・近年転入された方を一つの対象としている。

6

③ 取組は条例に基づき実施されていますか。（単一回答、n=21）【単純集計】

◆条例の名称

NO	回答内容
1	〇〇市子どもの権利条例
2	〇〇村総合開発委員会条例
3	〇〇市子どもにやさしいまち条例
4	〇〇市子ども・若者・子育て会議条例

◆要綱等の名称

NO	回答内容
1	〇〇市生活支援体制整備事業実施要綱

7

④ 取組の政策的な位置付けを教えてください。（複数回答、n=21）【単純集計】

◆個別計画の名称

NO	回答内容
1	〇〇市こども計画
2	第六次子どもプラン〇〇
3	〇〇市子どもマスタープラン25-34
4	〇〇市地域包括ケア推進計画
5	〇〇市子ども・若者未来プラン
6	第2期〇〇学園都市ビジョン
7	〇〇市公共施設等総合管理計画
8	〇〇市こども計画（R7年度からの施行にあたり意見聴取を実施）
その他（自由記述）	
1	指定管理施設「〇〇市市民活動センター〇〇」事業「〇〇若者ミライ会議」
2	基本構想にあたる「〇〇地域未来ビジョン2030」の推進事業

8

- ① 取組を開始した時期及び終了した時期を教えてください。（記述回答、n=2）
【単純集計】

取組を開始した時期(回答があったもののみ掲載)	回答数
2021年～2025年	2

取組を終了した時期(回答があったもののみ掲載)	回答数
2021年～2025年	2

9

- ② 対象とした若者の条件（年齢・居住地・その他）を教えてください。（記述回答、n=2）【単純集計】

◆年齢

NO	回答内容
1	17歳～18歳
2	16歳～39歳

◆居住地

NO	回答内容
1	都内

◆その他

NO	回答内容
1	〇〇高校の生徒（高校3年生）

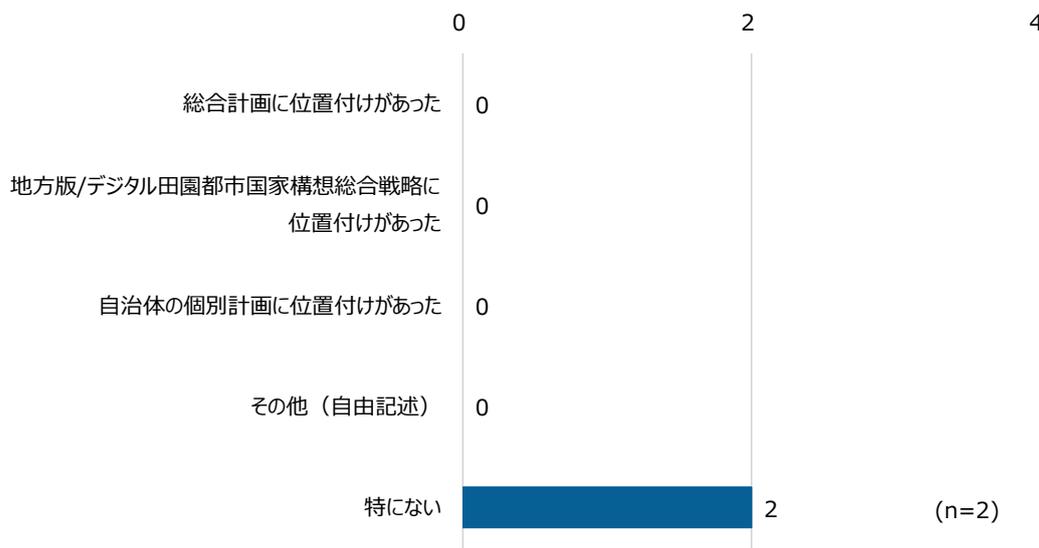
10

③ 取組は条例に基づき実施されましたか。(単一回答、n=2)【単純集計】

条例に基づいていたか(回答があったもののみ掲載)	回答数
該当なし(条例未制定)	2

11

④ 取組の政策的な位置づけを教えてください。(複数回答、n=2)【単純集計】



12

- ⑤ 取組の推進に係る、当時の庁内の体制を教えてください。〈所管部門〉
(単一回答、n=2)【単純集計】

所管部門(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
企画部門	1
都市・建設部門	1

- ⑤ 取組の推進に係る、当時の庁内の体制を教えてください。〈関係部門〉
(複数回答、n=2)【単純集計】

関係部門(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
都市・建設部門	1
無回答	1

13

- ⑥ 取組の目的を教えてください。(複数回答、n=2)【単純集計】

取組目的(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
地域の課題に若者の柔軟な発想で新たな解決策を得るため	1
上位計画(地方創生、総合計画、SDGs等)の方針に沿うため	1

- ⑦ 若者にまちづくりへの参画を呼びかける際に活用した発信媒体を教えてください。
(複数回答、n=2)【単純集計】

活用した発信媒体(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
個別の通知	1
無回答	1

14

- ⑧ 若者のまちづくりに対するニーズや思いを把握するために実施した、意見聴取の手法を教えてください。（複数回答、n=2）【単純集計】

実施した意見聴取の手法(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
若者を対象としたアンケート調査の実施	2

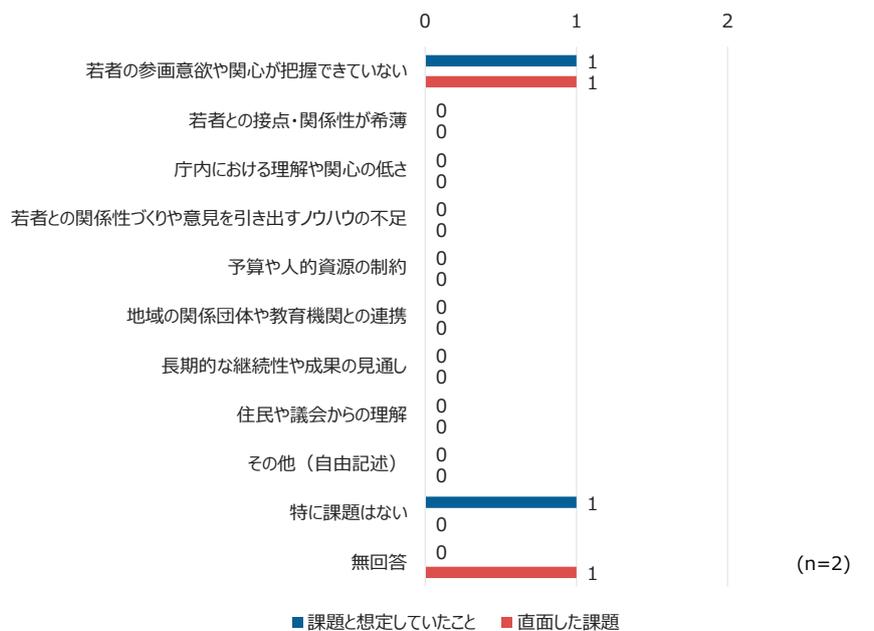
- ⑨ ⑧で挙げたような意見聴取を通じて把握した、若者の意見を施策や事業等に反映させるために実施した支援の内容を教えてください。（複数回答、n=2）【単純集計】

実施した支援の内容(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
その他	1
取組を行っていない	1

その他（自由記述）	
1	審議会資料の一つとして取りまとめ

15

- ⑩ 取組を開始・展開する以前に課題と想定していたことを教えてください。また、実際に直面した課題があれば教えてください。（複数回答、n=2）【単純集計】



16

- ⑪ 取組を開始・展開する上で工夫・留意したことを教えてください。
 (複数回答、n=2) 【単純集計】

工夫・留意点(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
オンライン等も活用した効率的な会議運営等を通じて参画負担を軽減	1
先進事例や現在の取組に係る情報の提供	1

17

- ⑫ 若者がまちづくりへ参画することに対して、取組実施前に期待していたことを教えてください。また、取組実施後に把握できた成果を教えてください。
 (複数回答、n=2) 【単純集計】



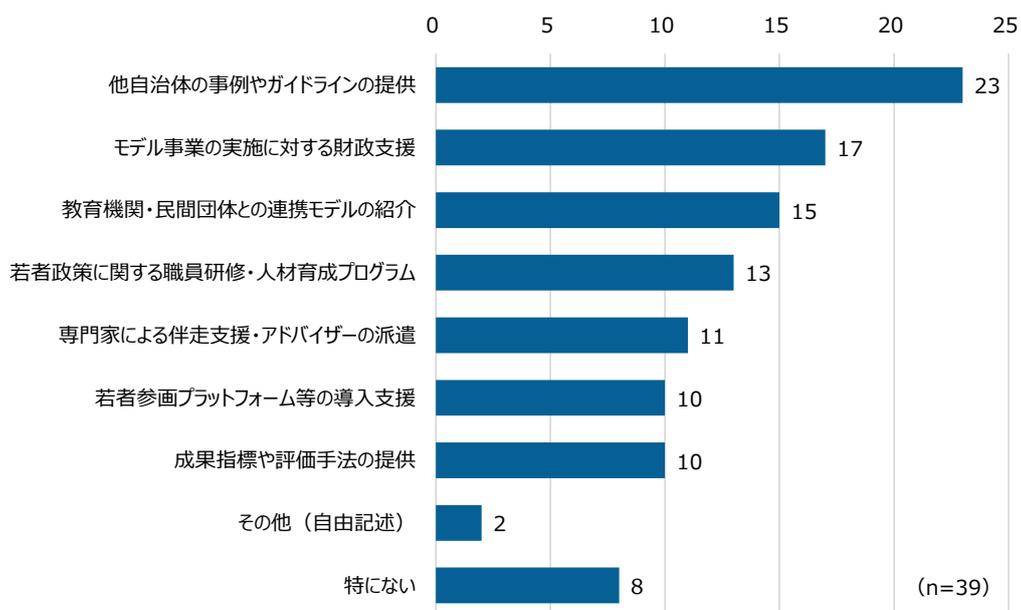
18

⑬ 取組が終了（廃止）した理由を教えてください。（複数回答、n=2）
【単純集計】

取組終了（廃止）の理由（回答があったもののみ掲載）	回答数（降順）
当初の目的が達成されたため	2

19

① まちづくりへの若者の参画に係る取組を推進するため、国や東京都に期待することがあれば教えてください。（複数回答、n=39）【単純集計】



20

① まちづくりへの若者の参画に係る取組を推進するため、国や東京都に期待すること（その他）があれば教えてください。（複数回答、n=39）【単純集計】

NO	回答内容
1	都内各自治体の若者が自治体の垣根を越えて集い、地域課題の共有や解決策の模索・提案、協働で事業化・インキュベーションにつなげるためのプラットフォーム運営。 イギリスのGround Work UKによる「Youth Advisory Board（青少年諮問委員会）」や発行物「Powered By Us」のように、全国規模での展開が望ましい。
2	補助額の増額

参考資料3-1 若者アンケート回答画面（予備調査）

SC1

あなたの年齢を教えてください。

- 1 15～22歳
- 2 23～29歳
- 3 30～39歳
- 4 40～49歳
- 5 50～59歳
- 6 60歳以上

SC2

あなたのお住まい(都道府県)を教えてください。

SC3

あなたのお住まい(市区町村)を教えてください。

- 1 千代田区
- 2 中央区
- 3 港区
- 4 新宿区
- 5 文京区
- 6 台東区
- 7 墨田区
- 8 江東区
- 9 品川区
- 10 目黒区
- 11 大田区
- 12 世田谷区
- 13 渋谷区
- 14 中野区
- 15 杉並区
- 16 豊島区
- 17 北区
- 18 荒川区
- 19 板橋区
- 20 練馬区
- 21 足立区
- 22 葛飾区
- 23 江戸川区
- 24 八王子市
- 25 立川市
- 26 武蔵野市
- 27 三鷹市
- 28 青梅市
- 29 府中市
- 30 昭島市
- 31 調布市
- 32 町田市
- 33 小金井市
- 34 小平市
- 35 日野市
- 36 東村山市
- 37 国分寺市
- 38 国立市
- 39 福生市
- 40 狛江市
- 41 東大和市
- 42 清瀬市
- 43 東久留米市
- 44 武蔵村山市
- 45 多摩市
- 46 稲城市
- 47 羽村市
- 48 あきる野市
- 49 西東京市
- 50 瑞穂町
- 51 日の出町
- 52 檜原村
- 53 奥多摩町
- 54 大島町
- 55 利島村
- 56 新島村
- 57 神津島村
- 58 三宅村
- 59 御蔵島村
- 60 八丈町
- 61 青ヶ島村
- 62 小笠原村

SC4

あなたの職業を教えてください。

- 1 会社員
- 2 自営業
- 3 パートタイム・アルバイト
- 4 学生
- 5 公務員・団体職員
- 6 臨時・日雇社員
- 7 派遣社員
- 8 専業主婦・主夫
- 9 無職
- 10 その他

SC5

あなたの通勤・通学先(都道府県)を教えてください。

SC6

あなたの通勤・通学先(市区町村)を教えてください。

- 1 千代田区
- 2 中央区
- 3 港区
- 4 新宿区
- 5 文京区
- 6 台東区
- 7 墨田区
- 8 江東区
- 9 品川区
- 10 目黒区
- 11 大田区
- 12 世田谷区
- 13 渋谷区
- 14 中野区
- 15 杉並区
- 16 豊島区
- 17 北区
- 18 荒川区
- 19 板橋区
- 20 練馬区
- 21 足立区
- 22 葛飾区
- 23 江戸川区
- 24 八王子市
- 25 立川市
- 26 武蔵野市
- 27 三鷹市
- 28 青梅市
- 29 府中市
- 30 昭島市
- 31 調布市
- 32 町田市
- 33 小金井市
- 34 小平市
- 35 日野市
- 36 東村山市
- 37 国分寺市
- 38 国立市
- 39 福生市
- 40 狛江市
- 41 東大和市
- 42 清瀬市
- 43 東久留米市
- 44 武蔵村山市
- 45 多摩市
- 46 稲城市
- 47 羽村市
- 48 あきる野市
- 49 西東京市
- 50 瑞穂町
- 51 日の出町
- 52 檜原村
- 53 奥多摩町
- 54 大島町
- 55 利島村
- 56 新島村
- 57 神津島村
- 58 三宅村
- 59 御蔵島村
- 60 八丈町
- 61 青ヶ島村
- 62 小笠原村

SC7

あなたが5年以内に、訪れたことがある都道府県を教えてください。(いくつでも)

- 1 北海道
- 2 青森県
- 3 岩手県
- 4 宮城県
- 5 秋田県
- 6 山形県
- 7 福島県
- 8 茨城県
- 9 栃木県
- 10 群馬県
- 11 埼玉県
- 12 千葉県
- 13 東京都
- 14 神奈川県
- 15 新潟県
- 16 富山県
- 17 石川県
- 18 福井県
- 19 山梨県
- 20 長野県
- 21 岐阜県
- 22 静岡県
- 23 愛知県
- 24 三重県
- 25 滋賀県
- 26 京都府
- 27 大阪府
- 28 兵庫県
- 29 奈良県
- 30 和歌山県
- 31 鳥取県
- 32 島根県
- 33 岡山県
- 34 広島県
- 35 山口県
- 36 徳島県
- 37 香川県
- 38 愛媛県
- 39 高知県
- 40 福岡県
- 41 佐賀県
- 42 長崎県
- 43 熊本県
- 44 大分県
- 45 宮崎県
- 46 鹿児島県
- 47 沖縄県

SC8

東京都で訪れた市区町村をお答えください。(いくつでも)

- 1 千代田区
- 2 中央区
- 3 港区
- 4 新宿区
- 5 文京区
- 6 台東区
- 7 墨田区
- 8 江東区
- 9 品川区
- 10 目黒区
- 11 大田区
- 12 世田谷区
- 13 渋谷区
- 14 中野区
- 15 杉並区
- 16 豊島区
- 17 北区
- 18 荒川区
- 19 板橋区
- 20 練馬区
- 21 足立区
- 22 葛飾区
- 23 江戸川区
- 24 八王子市
- 25 立川市
- 26 武蔵野市
- 27 三鷹市
- 28 青梅市
- 29 府中市
- 30 昭島市
- 31 調布市
- 32 町田市
- 33 小金井市
- 34 小平市
- 35 日野市
- 36 東村山市
- 37 国分寺市
- 38 国立市
- 39 福生市
- 40 狛江市
- 41 東大和市
- 42 清瀬市
- 43 真久留米市
- 44 武蔵村山市
- 45 多摩市
- 46 稲城市
- 47 羽村市
- 48 あきる野市
- 49 西東京市
- 50 瑞穂町
- 51 日の出町
- 52 檜原村
- 53 奥多摩町
- 54 大島町
- 55 利島村
- 56 新島村
- 57 神津島村
- 58 三宅村
- 59 御蔵島村
- 60 八丈町
- 61 青ヶ島村
- 62 小笠原村

参考資料3-2 若者アンケート回答画面（本調査）

Q1

あなたは、これから先も現在お住まいの市町村に住み続けたいと思いますか。

- 1 住み続けたい
- 2 どちらかといえば住み続けたい
- 3 別の市区町村に転居したい

Q1_1

住み続けたいと思う理由を教えてください。(いくつでも)

- 1 自分の家(土地)だから
- 2 豊かな自然がある
- 3 公共施設が充実
- 4 交通が便利である
- 5 買物がしやすい
- 6 子育て環境が整っている
- 7 教育環境が整っている
- 8 地域や近所づきあいが良好
- 9 地域に愛着がある
- 10 仕事や学校の関係で
- 11 同世代の友人・知人がいる
- 12 治安がよい
- 13 その他

Q1_2

転居したいと思う理由を教えてください。(いくつでも)

- 1 自然環境がよくない
- 2 住宅環境が不十分
- 3 公共施設が不十分
- 4 交通が不便である
- 5 買物がしにくい
- 6 子育て環境が不十分
- 7 教育環境が不十分
- 8 地域や近所づきあいがよくない
- 9 地域の防犯体制が不十分
- 10 地域に愛着がない
- 11 仕事や学校の関係で
- 12 同世代の友人・知人がいない
- 13 その他

Q2

あなたは今後、多摩・島しょ地域(※)に住みたいと思いますか。

(※)多摩・島しょ地域とは以下の市町村を指します(以下、同様)。八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、羽村市、あきる野市、西東京市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村

- 1 住んでみたい

- 2 きっかけがあれば住んでみたい
- 3 あまり住みたいとは思わない
- 4 住みたいと思わない

Q2_1

住みたいと思う理由を教えてください。(いくつでも)

- 1 通勤・通学に都合がよいから
- 2 住宅購入費・賃料が手ごろだから
- 3 希望する広さの住宅が確保できるから
- 4 親の近くに住みたいから
- 5 緑・水辺などの自然環境がよいから
- 6 道路・下水道などのインフラが整っているから
- 7 子育て支援が充実しているから
- 8 教育環境が希望に合っているから
- 9 病院などの医療体制が充実しているから
- 10 まちなみやまちの雰囲気よいから
- 11 生涯学習・文化系の施設が充実しているから
- 12 スポーツ環境が充実しているから
- 13 高齢者や障害者等のための福祉が充実しているから
- 14 安全で安心して住むことができるから
- 15 同世代の友人・知人がいるから
- 16 その他

Q2.2

住みたいと思わない理由を教えてください。(いくつでも)

- 1 通勤・通学に都合がよくないから
- 2 住宅購入費・賃料が高いから
- 3 希望する広さの住宅が確保できないから
- 4 駅の近くに住みたいから
- 5 自然環境がよくないから
- 6 道路・下水道などのインフラが整っていないから
- 7 子育て環境が不十分だから
- 8 教育環境が不十分だから
- 9 病院などの医療体制が不十分だから
- 10 まちなみやまちの雰囲気がよくないから
- 11 生涯学習・文化系の施設が不十分だから
- 12 スポーツ環境が不十分だから
- 13 高齢者や障害者等のための福祉が不十分だから
- 14 交通が不便だから
- 15 買物がしにくいから
- 16 地域や近所づきあいがよくないから
- 17 地域の防犯体制が不十分だから
- 18 地域に愛着がないから
- 19 仕事や学校の関係で
- 20 同世代の友人・知人がいないから
- 21 その他

Q3

あなたが多摩・島しょ地域(※)を訪れた際の目的を教えてください。
複数回答されている場合は最も多い目的を教えてください。

(※)多摩・島しょ地域とは以下の市町村を指します(以下、同様)。
八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、羽村市、あきる野市、西東京市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村

- 1 観光
- 2 遊び・レクリエーション
- 3 買い物・食事
- 4 仕事(出張等)
- 5 研修・セミナー等
- 6 親戚・友人等への訪問
- 7 学習・学術調査
- 8 スポーツイベント参加・観戦
- 9 趣味
- 10 ボランティア
- 11 その他

Q4

あなたが感じる、多摩・島しょ地域の魅力を教えてください。(いくつでも)

- 1 山岳・渓谷などの自然
- 2 美しい海に囲まれた島の自然
- 3 武蔵野らしい原風景・景観
- 4 河川・用水・湧水などの水系
- 5 都心近郊にある農地・田園
- 6 自然をいかした各種アクティビティ(例:トレッキング、シュノーケリング等)
- 7 まちが静か・落ち着いた
- 8 犯罪が少なく、安心して暮らすことができる
- 9 自然災害などが少なく、安全に暮らすことができる
- 10 神社・仏閣などの歴史的な建造物や文化財
- 11 地域の恒例イベント・祭りや伝統芸能
- 12 郷土料理・地元グルメ
- 13 農林水産物・特産品
- 14 アクセスのよさ
- 15 子育て・教育環境のよさ
- 16 大学・研究機関の集積
- 17 家賃や物価の安さ
- 18 地元の人々の雰囲気・親しみやすさ
- 19 その他
- 20 わからない

Q5

あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。(いくつでも)

- 1 里地や里山、農地などの管理が行き届いていない
- 2 風水害などのリスクが高い
- 3 治安が悪い
- 4 交通アクセスの不便さ(公共交通や道路など)
- 5 商業施設・娯楽施設が少ない
- 6 空き家や空き地が増えている
- 7 若者向けの場所やイベントが少ない
- 8 移住・定住の支援が不足している
- 9 進学先の選択肢が少ない
- 10 働く場所・仕事の選択肢が少ない
- 11 情報発信インフラの不足
- 12 医療・福祉など生活インフラの不足
- 13 デジタル化が進んでいない
- 14 その他
- 15 わからない

Q6

あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。

※ここでいうまちづくりとは、社会や地域をよりよくするために、社会・地域が抱える課題の解決やまちの魅力向上・地域の幸福度向上などに取り組む活動(例:空き家や空き店舗を活用した若者の居場所づくり、地域の魅力に係る情報発信)を意味します。

- 1 非常に関心がある
- 2 ある程度関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 全く関心がない

Q6_1

まちづくりに参加する際、活動範囲として想定される場所のイメージを教えてください。(いくつでも)

- 1 住んでいる地域・自治体
- 2 通勤・通学先の地域・自治体
- 3 その他
- 4 わからない

Q6_2

活動範囲として想定される場所を選んで理由を教えてください。

1	2	3
住 (ん い く つ で も 域 自 治 体	通 (ん い く つ で も 域 自 治 体	そ (い く つ で も 域 自 治 体
普段からよく行く場所だから	1 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>
生活圏内で、アクセスしやすいから	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>
地元貢献したいという思いがあるから	3 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
知っている人がいそうだから	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
その地域で困っていることをよく知っているから	5 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>
自分のスキルや興味を活かせる活動があるから	6 <input type="checkbox"/>	6 <input type="checkbox"/>
通勤・通学などでなじみがある場所だから	7 <input type="checkbox"/>	7 <input type="checkbox"/>
若い人が多く活動しやすいから	8 <input type="checkbox"/>	8 <input type="checkbox"/>
活動の案内や情報を目にする機会が多いから	9 <input type="checkbox"/>	9 <input type="checkbox"/>
活動している人・団体に知人がいるから	10 <input type="checkbox"/>	10 <input type="checkbox"/>
その他	11 <input type="checkbox"/>	11 <input type="checkbox"/>

Q6_3

あなたが関心を持っている、地域や社会の具体的な課題を教えてください。また、関心のある課題のうち、あなた自身が課題解決に向けた活動に参加しているものがあれば教えてください。(それぞれいくつでも)

	1	2
地域を元気にすること (地域振興)	1 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>
働く場所や職業の選択肢がもっと増えること (産業振興)	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>
道や建物、公園などがもっと安全で使いやすいやすること (都市基盤の維持・整備)	3 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
子どもを育てやすくするサポートがあること (子育て支援)	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
学校の授業や勉強の機会がもっとよくなること (教育)	5 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>
病院や福祉のサービスがもっと便利になること (福祉・保健衛生)	6 <input type="checkbox"/>	6 <input type="checkbox"/>
災害や犯罪から安心して暮らせるまちなること (安全・安心対策)	7 <input type="checkbox"/>	7 <input type="checkbox"/>
外国から来た人ともっと仲よくなること (多文化共生)	8 <input type="checkbox"/>	8 <input type="checkbox"/>
ごみや環境についてもっと意識するまちなること (環境対策)	9 <input type="checkbox"/>	9 <input type="checkbox"/>
スポーツや音楽などの文化活動がもっと楽しめること (文化・スポーツ振興)	10 <input type="checkbox"/>	10 <input type="checkbox"/>
デジタルやインターネットを使って、もっと便利になること (デジタル活用)	11 <input type="checkbox"/>	11 <input type="checkbox"/>
その他	12 <input type="checkbox"/>	12 <input type="checkbox"/>
わからない	13 <input type="checkbox"/>	13 <input type="checkbox"/>
特になし	14 <input type="checkbox"/>	14 <input type="checkbox"/>

Q6_4

Q6_3で回答した、参加している活動の状況を教えてください。
なお、複数の活動に参加している場合、最も参加頻度が高い活動について教えてください。

Q6_4_1

年間の参加頻度

- 1 週に1回以上
- 2 月に1回以上
- 3 年に1回以上

Q6_4_2

活動におけるあなたの役割

- 1 代表者・責任者
- 2 企画・運営等の意思決定に係る役員
- 3 活動や運営のサポート役(設置・連絡・広報などの実働メンバー)
- 4 会議やイベント当日に参加するだけの立場
- 5 その他

Q6_4_3

活動に参加している理由 (いくつでも)

- 1 社会に貢献できるから
- 2 身近な地域の役に立てるから
- 3 困っている人や誰かの力になりたいから
- 4 ソーシャルビジネスの勉強になるから
- 5 自分の成長やキャリアアップにつながるから
- 6 人とのつながりを増やせるから
- 7 やりたいことが見つかるから
- 8 自分の趣味やスキルがいかせるから
- 9 余暇時間を有意義に使えるから
- 10 楽しい時間を過ごせるから
- 11 自分の問題の解決につながるから
- 12 進学、就職などで有利になるから
- 13 その他
- 14 わからない

Q6_5

活動に参加することへの不安や参加の妨げになっていることがあれば教えてください。
(いくつでも)

- 1 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担
- 2 自分の他の予定が立てづらくなる
- 3 自分に何ができるのかわからない
- 4 活動事例や団体などの情報がわからない
- 5 一緒に参加する仲間がいない
- 6 先に活動している人の輪に入れるか不安
- 7 特別な知識やスキルがないと参加しづらい
- 8 長期的に参加し続けられるかわからない
- 9 わからない
- 10 特に不安や妨げになることはない
- 11 その他

Q7

関心がない理由を教えてください。(いくつでも)

- 1 どのような活動があるか知らないから
- 2 時間的な余裕がないから
- 3 家庭の事情(仕事、家事、介護、通院等)があるから
- 4 経費や手間がかかりすぎるから
- 5 気軽に参加できる活動が少ないから
- 6 同好の友人・仲間がいないから
- 7 近くに活動場所がないから
- 8 人と付き合うのが面倒だから
- 9 その他

Q8

次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。
(いくつでも)

- 1 若者を対象としたアンケート調査への回答
- 2 自治体が設ける若者向けSNS(XやInstagram、TikTok等)やオンラインツール等の利用
- 3 若者を対象にした委員会・審議会への参加
- 4 若者会議や高校生・大学生との意見交換の場への参加
- 5 地域課題の解決等に向けた検討・提案
- 6 地域課題の解決等に向けた試行・実践への参加
- 7 その他
- 8 わからない

Q9

下に示す、まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウに関して、得意である、やったことがあるものについて教えてください。(いくつでも)

- 1 SNSやデジタルメディアを活用した情報発信
- 2 動画・画像の撮影・編集
- 3 プレゼンテーションやアイデアの発表
- 4 イベントやプロジェクトの企画・運営
- 5 デザイン思考や発想法を活かしてアイデアを考える
- 6 幅広い世代の人とコミュニケーションをとる
- 7 国際交流に関心があるので、外国語や異文化への理解がある
- 8 調査やフィールドワークを通じて地域のことを調べた経験
- 9 ICTやアプリ開発、プログラミング
- 10 SDGsやサステナビリティに関わる研究、活動
- 11 地域課題や社会の問題に対して主体的に関わる
- 12 チームで協力して何か目的や目標を達成する経験
- 13 流行や若者文化について詳しい
- 14 社会課題の解決や地域活性化に関わる起業、ビジネスの経験
- 15 新しいことにも柔軟にチャレンジする
- 16 その他
- 17 あてはまるものはない

Q10

自治体が発信するまちづくりに係る情報を把握、収集する際に活用したい媒体があれば教えてください。(いくつでも)

- 1 公式ホームページ
- 2 広報紙(デジタル)
- 3 市区町村からのメール配信
- 4 市区町村公式LINE
- 5 市区町村公式X(旧:Twitter)
- 6 市区町村公式Instagram
- 7 市区町村公式専用アプリ
- 8 市区町村公式YouTubeチャンネル
- 9 その他SNS(TikTok等)
- 10 広報紙(紙)
- 11 回覧板・チラシ
- 12 個別の通知
- 13 その他
- 14 わからない

Q11

若者の意見を施策や事業等に反映させるため、行政に取り組んでほしいと思うアイデアがあれば教えてください。(いくつでも)

- 1 若者による企画・提案への予算措置
- 2 若者と地域団体・NPO・企業等とのマッチングの支援
- 3 SNSやオンラインツールを活用した情報発信と参加の仕組み整備
- 4 地域コーディネーターの配置(若者と行政・地域の仲介役)
- 5 若者の活動成果の可視化・表彰などによる動機づけ
- 6 その他
- 7 わからない

参考資料4 若者アンケート調査結果（本編掲載分以外）

調査概要

調査目的	○若者のまちづくりへの参画促進に向けた施策等を検討するため、若者の地域の現状に対する認識（生活上の困りごと、改善したい地域の課題等）、社会課題に対する関心、まちづくりに対する認識・参画意向、参画する上での心配・懸念、行政の関連施策に関する認知度・活用度等を把握、整理するため
調査対象	ウェブアンケートモニター15,000名に対して予備調査を実施し、以下の対象を抽出。 ① 15～39歳の者 ② ①のうち、多摩・島しょ地域に居住する者（300名） ③ ①のうち、多摩・島しょ地域へ通勤・通学する者（130名） ④ ①のうち、多摩・島しょ地域に訪問したことがある者（470名、本調査では多摩・島しょ地域に（なんらかの）関心がある者とみなし、分類・分析を行った）
調査時期	令和7年8月6日～8月18日
調査方法	インターネット調査（インターネットリサーチ会社を活用したモニター調査）
回収数	900
留意事項	・調査結果表中の「n」とは、問ごとの基数を意味する。 ・グラフは回答数（回答率）が高い順に表記している。（一部例外あり） ・回答の比率は、その質問の回答者数（回答数）を基数として算出した。端数処理の関係や回答できる数によって、内数の和が100%にならない場合がある。 ・本文や図表中の選択肢の表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。 ・「その他」回答については、明らかな誤字を除いて、回答をそのまま掲載しているため、表現等が統一されていない場合がある。

1

主な設問区分	設問概要
1 予備調査 (調査対象抽出のために実施)	① 年齢 ② 住まい（都道府県） ③ 住まい（市区町村）※②で「東京都」と回答した者が対象 ④ 職業 ⑤ 通勤・通学先（都道府県） ⑥ 通勤・通学先（市区町村）※⑤で「東京都」と回答した者が対象 ⑦ 5年以内に訪れたことのある都道府県 ⑧ 5年以内に訪れたことのある市区町村 ※⑦で「東京都」と回答した者が対象
2 本調査 (1) 多摩・島しょ地域に対する認識	<多摩・島しょ地域に居住する者向け> ① 現在住んでいる市町村に対する居住意向 ①-1 住み続けたいと思う理由 ①-2 転居したいと思う理由 <多摩・島しょ地域へ通勤・通学する者向け> ② 多摩・島しょ地域に対する居住意向 ②-1 住みたいと思う理由 ②-2 住みたいと思わない理由 <多摩・島しょ地域を訪れたことがある者向け> ③ 多摩・島しょ地域を訪れた目的 <全員対象> ④ 多摩・島しょ地域の魅力 ⑤ 多摩・島しょ地域の課題
(2) まちづくりなどへの参加に係る現状	① 「まちづくり」への参加に対する関心 <「まちづくり」への参加に「非常に関心がある」「ある程度関心がある」者向け> ①-1 活動範囲として想定される場所のイメージ ①-2 活動範囲として想定される場所を選んだ理由 ①-3 関心を持つ地域や社会の課題、課題解決に向けた活動に参加しているもの <課題解決に向けた活動に参加している者向け> ①-4 参加している活動の状況（ア参加頻度/イ活動における役割/ウ参加している理由） <課題解決に向けた活動に参加していない者向け> ①-5 活動に参加することへの不安や傘下の妨げになっていること <「まちづくり」への参加に「関心がない」「あまり関心がない」者向け> ② 関心がない理由
(3) まちづくりへの参加に係る意向等	<全員対象> ① あなたが参加したいと思うまちづくり活動 ② まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウ（得意である、やったことがあるもの） ③ 自治体が発信するまちづくりに係る情報を把握、収集する際に活用したい媒体 ④ 若者の意見を施策や事業等に反映させるため、行政に取り組んでほしいと思うアイデア

2

- 各設問（自由記述式回答分除く）について、単純集計とともに、下記の考え方のもと、有意義な分析が期待される属性についてクロス集計を行った。

集計区分	設定理由	区分別の母数(n)
基本属性 (集計軸)	・多摩・島しょ地域との関係性（在住/通勤・通学/訪問したことがある）と年代（15～19歳/20～29歳/30～39歳）を掛け合わせることで、多摩・島しょ地域への関心、まちづくり参画への現状及び参画意向に係る差異の有無を把握するため設定。	割付①多摩・島しょ地域在住の15～22歳(n=100) 割付②多摩・島しょ地域在住の23～29歳(n=100) 割付③多摩・島しょ地域在住の30～39歳(n=100) 割付④多摩・島しょ地域に通勤・通学する15～22歳(n=50) 割付⑤多摩・島しょ地域に通勤・通学する23～29歳(n=31) 割付⑥多摩・島しょ地域に通勤・通学する30～39歳(n=49) 割付⑦多摩・島しょ地域に訪問したことがある15～22歳(n=120) 割付⑧多摩・島しょ地域に訪問したことがある23～29歳(n=169) 割付⑨多摩・島しょ地域に訪問したことがある30～39歳(n=181) ※n=30未満の区分は統計的な偏りがあると考えられることから参考値（以下、同様）として扱うため、後述する全体と区分ごとの比較において比較対象（着色、分析コメント）からは除外（省略）する。
年代	・回答者の属性が限定されている一部設問において、年代による回答傾向の有無を把握するため設定。	15～22歳(n=270) 23～29歳(n=300) 30～39歳(n=330)
居住意向① ※多摩・島しょ地域在住	・以下の3点に着目して設定。 ①多摩・島しょ地域の魅力・課題と感じる点に差異があるのか。 ②まちづくりへの関心、参加状況にどのような影響（関係）があるのか。 ③まちづくりに係る活動への参加意向等にどのような影響（関係）があるのか。	住み続けたい(n=136) どちらかといえば住み続けたい(n=92) 住みたくないと思わない(n=72)

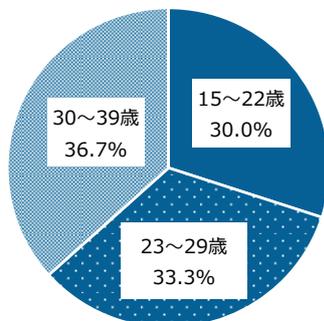
3

- 各設問（自由記述式回答分除く）について、単純集計とともに、下記の考え方のもと、有意義な分析が期待される属性についてクロス集計を行った。

集計区分	設定理由	区分別の母数(n)
居住意向② ※多摩・島しょ地域通勤・通学者	・以下の3点に着目して設定。 ①多摩・島しょ地域の魅力・課題と感じる点に差異があるのか。 ②まちづくりへの関心、参加状況にどのような影響（関係）があるのか。 ③まちづくりに係る活動への参加意向等にどのような影響（関係）があるのか。	住んでみたい(n=28) きっかけがあれば住んでみたい(n=44) あまり住みたくないと思わない(n=18) 住みたくないと思わない(n=40)
まちづくりへの関心	・まちづくりへの参加に係る関心度合いが多摩・島しょ地域への居住意向、魅力・課題に対する認識にどのような影響（関係）があるのかを把握するため設定。	非常に関心がある(n=103) ある程度関心がある(n=286) あまり関心がない(n=298) 全く関心がない(n=213)
まちづくりへの参加状況 (頻度・役割)	・まちづくりに参加している層の多摩・島しょ地域への居住意向、魅力・課題に対する認識、まちづくりへ参加するにあたって生かしている（と思われる）スキル・ノウハウの特徴等を把握するため設定。	①まちづくり参加頻度 週に1回以上 (n=18) 月に1回以上 (n=56) 年に1回以上 (n=119) ②まちづくり役割（活動における役割） 代表者・責任者 (n=3) 企画・運営等の意思決定に係る役員 (n=19) 活動や運営のサポート役（設営・連絡・広報などの実働メンバー、(n=49) 会議やイベント当日に参加するだけの立場 (n=121) その他 (n=1)

4

① あなたの年齢（単一回答、n=900）【単純集計】



(n=900)

② あなたのお住まい（都道府県、単一回答、n=900）【単純集計】

(%)

都道府県	割合
茨城県	2.4
栃木県	1.1
群馬県	1.2
埼玉県	12.7
千葉県	7.1
東京都	53.9
神奈川県	19.9
山梨県	0.8
長野県	0.9

※ 回答があるもののみ記載

5

③ あなたのお住まい（市区町村、単一回答、n=485）【単純集計】

(%)

千代田区	0.8	練馬区	4.1	福生市	0.0	三宅村	0.0
中央区	0.6	足立区	3.1	狛江市	1.4	御蔵島村	0.0
港区	0.6	葛飾区	1.2	東大和市	0.4	八丈町	0.0
新宿区	2.3	江戸川区	1.6	清瀬市	1.4	青ヶ島村	0.2
文京区	1.4	八王子市	9.1	東久留米市	0.4	小笠原村	0.8
台東区	0.2	立川市	5.2	武蔵村山市	1.0		
墨田区	1.2	武蔵野市	2.7	多摩市	1.6		
江東区	1.6	三鷹市	2.3	稲城市	2.3		
品川区	1.9	青梅市	0.6	羽村市	1.2		
目黒区	1.0	府中市	3.9	あきる野市	0.6		
大田区	1.6	昭島市	1.0	西東京市	2.1		
世田谷区	4.9	調布市	5.2	瑞穂町	0.0		
渋谷区	1.0	町田市	6.2	日の出町	0.2		
中野区	1.4	小金井市	0.8	檜原村	0.2		
杉並区	4.1	小平市	1.9	奥多摩町	0.4		
豊島区	1.0	日野市	3.9	大島町	0.0		
北区	0.2	東村山市	1.9	利島村	0.4		
荒川区	1.0	国分寺市	1.6	新島村	0.0		
板橋区	0.8	国立市	0.8	神津島村	0.0		

6

④ あなたの職業（単一回答、n=900）【単純集計】

(%)

会社員	自営業	パートタイム・ アルバイト	学生	公務員・ 団体職員	臨時・日雇社員	派遣社員	専業主婦・主夫	無職	その他
46.2	2.1	11.7	26.6	4.9	0.2	1.4	0.0	6.1	0.8

⑤ あなたの通勤・通学先（都道府県、単一回答、n=578）【単純集計】

(%)

福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県
0.2	2.9	1.4	1.9	11.6	6.9	55.5	17.1	1.2	1.0	0.2

※ 回答があるもののみ記載

7

⑥ あなたの通勤・通学先（市区町村、単一回答、n=321）【単純集計】

(%)

千代田区	9.0	練馬区	1.2	福生市	0.0	三宅村	0.0
中央区	5.6	足立区	2.5	狛江市	0.9	御蔵島村	0.3
港区	7.2	葛飾区	0.9	東大和市	0.0	八丈町	0.0
新宿区	6.9	江戸川区	0.6	清瀬市	0.6	青ヶ島村	0.0
文京区	3.1	八王子市	5.9	東久留米市	0.9	小笠原村	1.6
台東区	0.3	立川市	1.9	武蔵村山市	0.0		
墨田区	0.3	武蔵野市	3.1	多摩市	1.9		
江東区	0.9	三鷹市	1.9	稲城市	0.0		
品川区	5.0	青梅市	0.6	羽村市	0.3		
目黒区	1.2	府中市	1.9	あきる野市	0.0		
大田区	2.8	昭島市	0.3	西東京市	0.9		
世田谷区	1.9	調布市	1.2	瑞穂町	0.3		
渋谷区	3.1	町田市	7.5	日の出町	0.3		
中野区	2.2	小金井市	0.9	檜原村	0.0		
杉並区	0.6	小平市	1.2	奥多摩町	0.3		
豊島区	2.5	日野市	0.6	大島町	0.6		
北区	0.9	東村山市	1.6	利島村	0.0		
荒川区	0.3	国分寺市	1.2	新島村	0.0		
板橋区	0.3	国立市	1.6	神津島村	0.0		

8

⑦ あなたが5年以内に訪れたことがある都道府県（複数回答、n=503）【単純集計】

				（%）	
北海道	29.2	長野県	34.6	高知県	6.0
青森県	11.7	岐阜県	12.7	福岡県	21.1
岩手県	12.1	静岡県	40.0	佐賀県	6.6
宮城県	21.7	愛知県	32.0	長崎県	10.7
秋田県	10.7	三重県	15.7	熊本県	7.2
山形県	11.9	滋賀県	10.9	大分県	7.4
福島県	22.7	京都府	36.8	宮崎県	5.0
茨城県	36.8	大阪府	45.7	鹿児島県	8.5
栃木県	43.5	兵庫県	22.7	沖縄県	22.9
群馬県	39.2	奈良県	13.9		
埼玉県	66.4	和歌山県	6.4		
千葉県	70.8	鳥取県	6.6		
東京都	100.0	島根県	7.6		
神奈川県	80.3	岡山県	10.9		
新潟県	24.7	広島県	15.9		
富山県	11.9	山口県	6.4		
石川県	17.9	徳島県	6.2		
福井県	7.8	香川県	8.2		
山梨県	30.0	愛媛県	8.9		

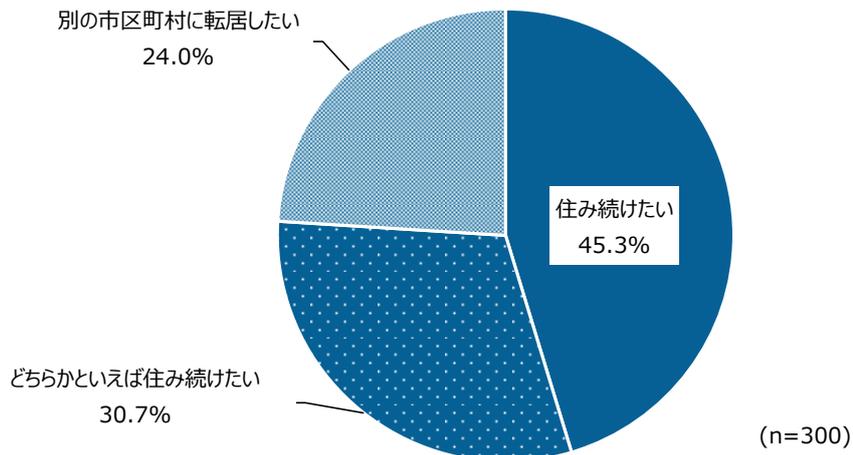
9

⑧ 東京都で訪れた市区町村（複数回答、n=503）【単純集計】

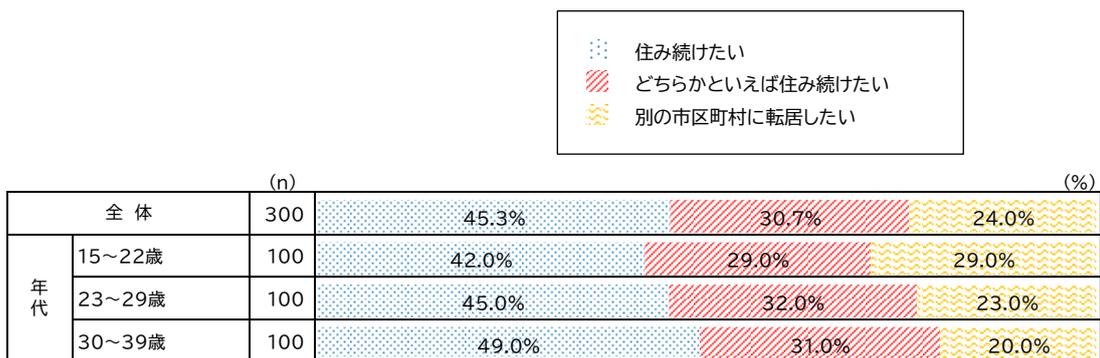
				（%）			
千代田区	55.7	練馬区	30.2	福生市	9.7	三宅村	2.8
中央区	49.1	足立区	30.4	狛江市	9.3	御蔵島村	3.0
港区	54.7	葛飾区	28.0	東大和市	6.8	八丈町	2.4
新宿区	71.2	江戸川区	28.2	清瀬市	10.5	青ヶ島村	2.4
文京区	43.1	八王子市	38.4	東久留米市	10.9	小笠原村	3.8
台東区	43.9	立川市	36.6	武蔵村山市	7.2		
墨田区	42.7	武蔵野市	24.7	多摩市	20.1		
江東区	42.9	三鷹市	27.4	稲城市	12.5		
品川区	55.7	青梅市	15.5	羽村市	7.0		
目黒区	41.9	府中市	21.5	あきる野市	10.7		
大田区	33.0	昭島市	11.9	西東京市	11.3		
世田谷区	44.9	調布市	22.5	瑞穂町	5.8		
渋谷区	66.0	町田市	30.4	日の出町	6.0		
中野区	37.4	小金井市	13.5	檜原村	5.6		
杉並区	31.4	小平市	12.5	奥多摩町	9.3		
豊島区	43.3	日野市	10.1	大島町	3.8		
北区	26.4	東村山市	11.3	利島村	2.4		
荒川区	21.3	国分寺市	15.7	新島村	3.6		
板橋区	29.2	国立市	13.9	神津島村	2.4		

10

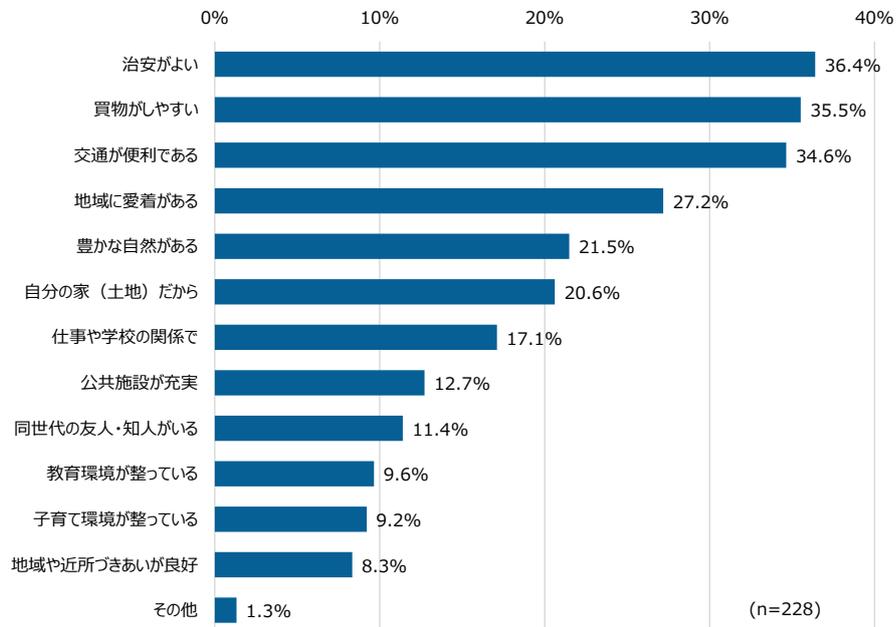
① あなたは、これから先も現在お住まいの市町村に住み続けたいと思いますか。
 (単一回答、n=300<多摩・島しょ地域に居住する者向け>)【単純集計】



① あなたは、これから先も現在お住まいの市町村に住み続けたいと思いますか。
 (単一回答、n=300<多摩・島しょ地域に居住する者向け>) 【年代別クロス集計①】



①-1 住み続けたいと思う理由を教えてください。（複数回答、n=228）
【単純集計】



13

①-1 住み続けたいと思う理由を教えてください。（複数回答、n=228）
【年代別クロス集計】

		(%)													
		(n)	自分の家（土地）だから	豊かな自然がある	公共施設が充実	交通が便利である	買物がしやすい	子育て環境が整っている	教育環境が整っている	地域や近所づきあいが良好	地域に愛着がある	仕事や学校の関係で	同世代の友人・知人がいる	治安がよい	その他
全体	228	20.6	21.5	12.7	34.6	35.5	9.2	9.6	8.3	27.2	17.1	11.4	36.4	1.3	
年代	15～22歳	71	18.3	32.4	12.7	35.2	31.0	11.3	15.5	8.5	32.4	21.1	18.3	35.2	1.4
	23～29歳	77	14.3	14.3	11.7	31.2	28.6	3.9	5.2	6.5	19.5	9.1	10.4	35.1	1.3
	30～39歳	80	28.8	18.8	13.8	37.5	46.3	12.5	8.8	10.0	30.0	21.3	6.3	38.8	1.3

14

①-1 住み続けたいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=228)
【まちづくりへの関心別クロス集計】

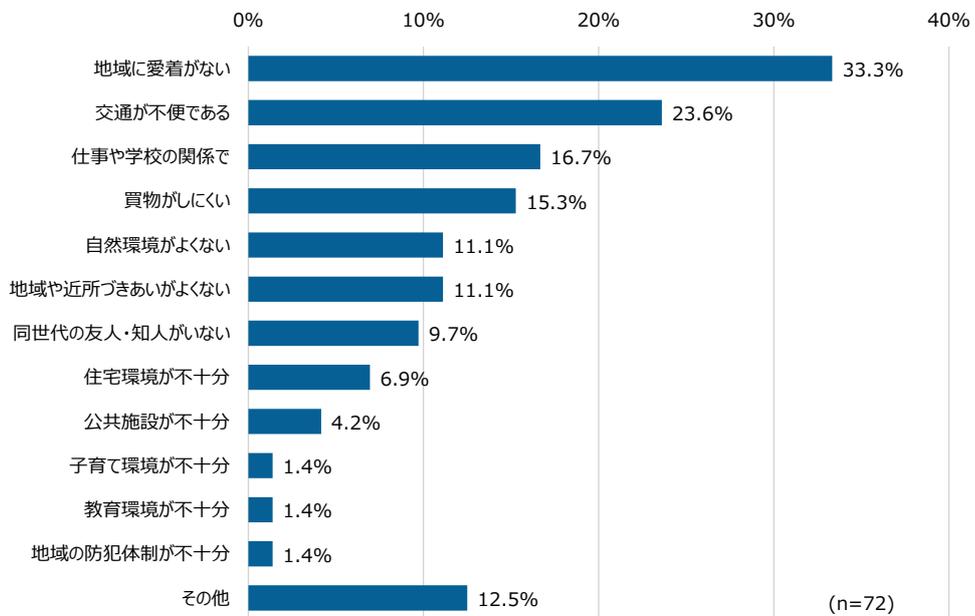
(%)

比率

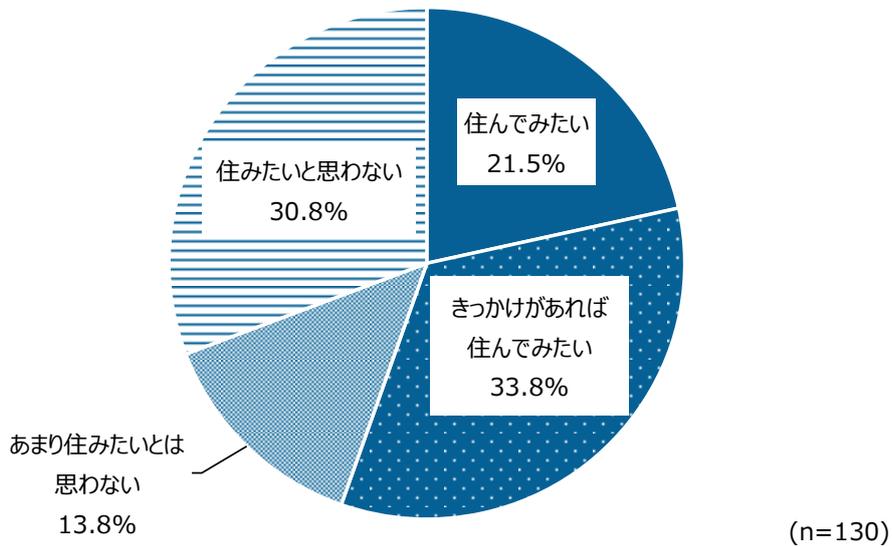
- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下 (n=30以上の場合)

		(n)	自分の家(土地)だから	豊かな自然がある	公共施設が充実	交通が便利である	買物がしやすい	子育て環境が整っている	教育環境が整っている	地域や近所づきあいが良	地域に愛着がある	仕事や学校の関係で	同世代の友人・知人がい	治安がよい	その他
全体		228	20.6	21.5	12.7	34.6	35.5	9.2	9.6	8.3	27.2	17.1	11.4	36.4	1.3
まちづくりへの関心	非常に関心がある	20	5.0	35.0	10.0	45.0	50.0	20.0	25.0	20.0	50.0	20.0	35.0	65.0	0.0
	ある程度関心がある	72	29.2	34.7	20.8	37.5	30.6	15.3	15.3	8.3	33.3	19.4	16.7	44.4	0.0
	あまり関心がない	69	18.8	14.5	13.0	34.8	39.1	5.8	2.9	5.8	24.6	20.3	2.9	33.3	0.0
	全く関心がない	67	17.9	10.4	4.5	28.4	32.8	3.0	6.0	7.5	16.4	10.4	7.5	22.4	4.5

①-2 転居したいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=72) 【単純集計】

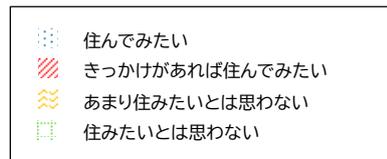


② あなたは今後、多摩・島しょ地域に住みたいと思いますか。
 (単一回答、n=130 <多摩・島しょ地域に通勤・通学する者向け>)
【単純集計】



17

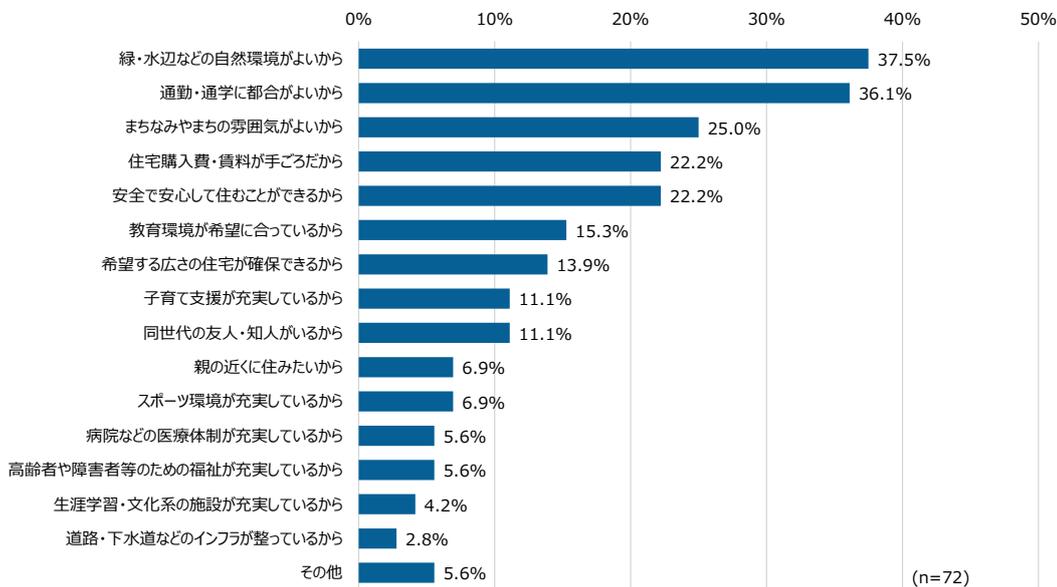
② あなたは今後、多摩・島しょ地域に住みたいと思いますか。
 (単一回答、n=130 <多摩・島しょ地域に通勤・通学する者向け>)
【年代別クロス集計①】



		(n)	(%)			
全体		130	21.5%	33.8%	13.8%	30.8%
年代	15~22歳	50	24.0%	26.0%	22.0%	28.0%
	23~29歳	31	25.8%	32.3%	3.2%	38.7%
	30~39歳	49	16.3%	42.9%	12.2%	28.6%

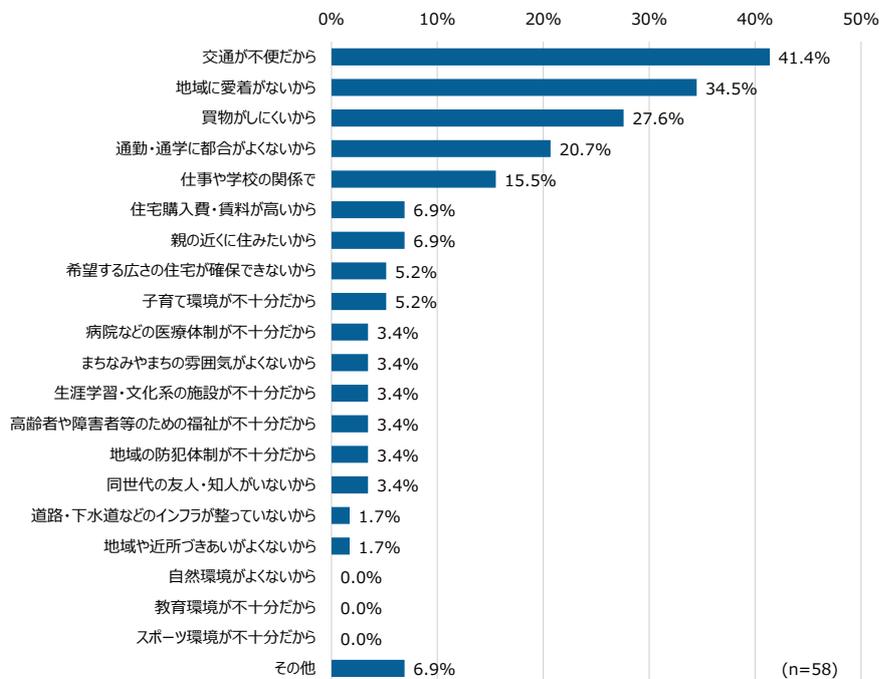
18

②-1 住みたいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=72)【単純集計】



19

②-2 住みたいと思わない理由を教えてください。(複数回答、n=58)【単純集計】



20

- ③ あなたが多摩・島しょ地域を訪れた際の目的を教えてください。複数回訪れている場合は最も多い目的を教えてください。（単一回答、n=470 <多摩・島しょ地域に訪問したことがある者向け>）【単純集計】

(%)

観光	レクリエーション・遊び	買い物・食事	仕事（出張等）	研修・セミナー等	親戚・友人等への訪問	学習・学術調査	スポーツイベント参加・観戦	趣味	ボランティア	その他
23.2	26.4	14.5	7.4	2.1	10.6	1.3	2.1	6.8	0.6	4.9

21

- ③ あなたが多摩・島しょ地域を訪れた際の目的を教えてください。複数回訪れている場合は最も多い目的を教えてください。（単一回答、n=470 <多摩・島しょ地域に訪問したことがある者向け>）【年代別クロス集計②】

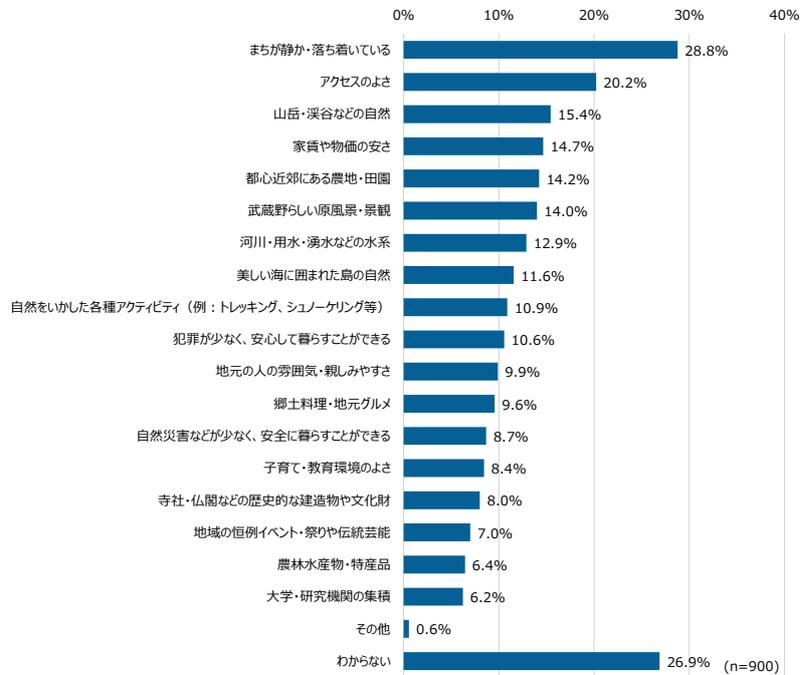
(%)

		該当数	観光	遊び・レクリエーション	買い物・食事	仕事（出張等）	研修・セミナー等	親戚・友人等への訪問	学習・学術調査	スポーツイベント参加・観戦	趣味	ボランティア	その他
全体		470	23.2	26.4	14.5	7.4	2.1	10.6	1.3	2.1	6.8	0.6	4.9
年代	15～22歳	120	27.5	21.7	12.5	4.2	1.7	10.0	2.5	1.7	8.3	0.0	10.0
	23～29歳	169	23.1	30.8	16.0	7.7	1.8	5.9	1.8	2.4	7.7	0.6	2.4
	30～39歳	181	20.4	25.4	14.4	9.4	2.8	15.5	0.0	2.2	5.0	1.1	3.9

比率
■ 定価+10ポイント以上
■ 定価+5ポイント以上
■ 定価+5ポイント以下
■ 定価-10ポイント以下
 (n=10以上の調査)

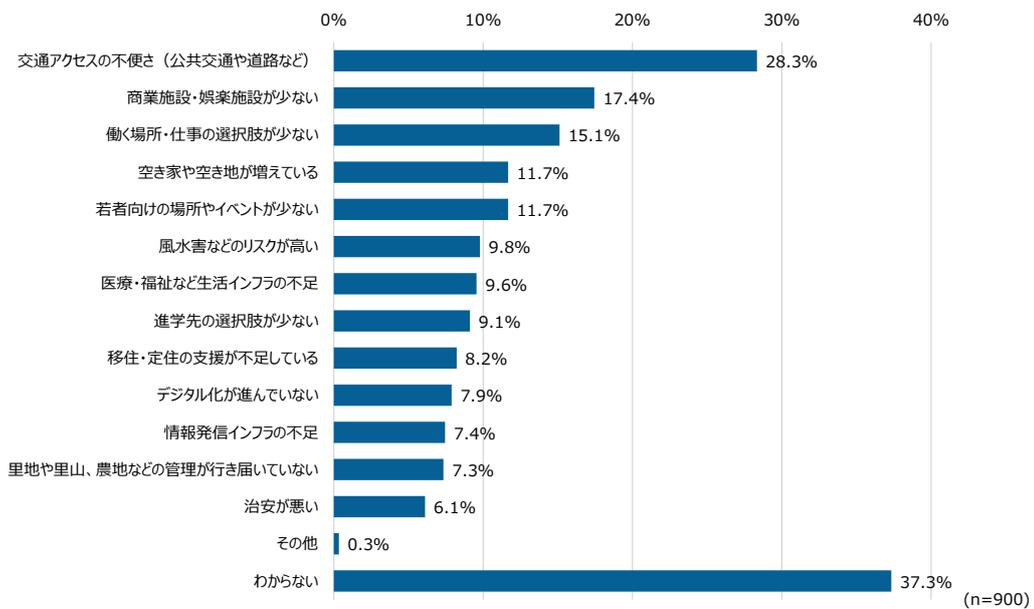
22

④ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の魅力を教えてください。
 (複数回答、n=900)【単純集計】



23

⑤ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。
 (複数回答、n=900)【単純集計】



24

⑤ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。
(複数回答、n=900)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下 (n=30以上の場合)

		(n)	管理地や里山、農地などが行き届いていない	風水害などのリスクが高い	治安が悪い	交通アクセスの不便さ(公共交通や道路など)	商業施設・娯楽施設が少ない	空き家や空き地が増えている	若者向けの場所やイベントが少ない	移住・定住の支援が不足している	進学先の選択肢が少ない	働く場所・仕事の選択肢が少ない	情報発信インフラの不足	医療・福祉など生活インフラの不足	デジタル化が進んでいない	その他	わからない
全体		900	7.3	9.8	6.1	28.3	17.4	11.7	11.7	8.2	9.1	15.1	7.4	9.6	7.9	0.3	37.3
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	5.0	9.0	3.0	27.0	19.0	12.0	16.0	7.0	10.0	8.0	5.0	6.0	5.0	0.0	44.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	12.0	6.0	3.0	17.0	10.0	10.0	9.0	9.0	7.0	21.0	7.0	7.0	7.0	1.0	43.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	7.0	7.0	6.0	12.0	14.0	12.0	7.0	3.0	8.0	19.0	6.0	14.0	9.0	1.0	49.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	10.0	10.0	8.0	26.0	32.0	12.0	16.0	6.0	20.0	12.0	10.0	14.0	10.0	0.0	38.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	6.5	12.9	16.1	29.0	16.1	3.2	16.1	12.9	6.5	16.1	3.2	16.1	19.4	0.0	29.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	12.2	12.2	6.1	40.8	18.4	12.2	12.2	6.1	2.0	22.4	14.3	20.4	6.1	0.0	24.5
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	5.0	5.0	5.0	30.8	14.2	11.7	10.0	8.3	7.5	8.3	7.5	2.5	2.5	0.0	45.0
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	7.7	11.8	7.1	38.5	17.8	9.5	15.4	10.1	4.7	17.2	7.7	8.9	9.5	0.6	27.8
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	5.5	13.8	7.2	30.4	20.4	15.5	8.8	9.9	14.9	14.9	7.7	10.5	9.4	0.0	32.6

25

⑤ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。
(複数回答、n=900)【まちづくりへの関心別クロス集計】

(%)

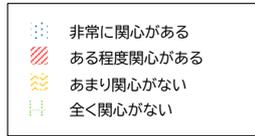
比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下 (n=30以上の場合)

		(n)	管理地や里山、農地などが行き届いていない	風水害などのリスクが高い	治安が悪い	交通アクセスの不便さ(公共交通や道路など)	商業施設・娯楽施設が少ない	空き家や空き地が増えている	若者向けの場所やイベントが少ない	移住・定住の支援が不足している	進学先の選択肢が少ない	働く場所・仕事の選択肢が少ない	情報発信インフラの不足	医療・福祉など生活インフラの不足	デジタル化が進んでいない	その他	わからない
全体		900	7.3	9.8	6.1	28.3	17.4	11.7	11.7	8.2	9.1	15.1	7.4	9.6	7.9	0.3	37.3
まちづくりへの関心	非常に関心がある	103	15.5	20.4	9.7	35.9	17.5	23.3	17.5	13.6	19.4	24.3	15.5	11.7	13.6	1.0	16.5
	ある程度関心がある	286	8.4	10.5	5.9	32.5	21.0	13.3	15.0	10.8	11.2	17.1	8.7	9.4	9.1	0.7	26.2
	あまり関心がない	298	6.0	9.7	7.0	31.9	18.1	10.7	9.4	6.4	7.0	13.1	5.0	10.7	6.7	0.0	36.9
	全く関心がない	213	3.8	3.8	3.3	14.1	11.7	5.2	7.5	4.7	4.2	10.8	5.2	7.0	5.2	0.0	62.9

26

① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。
(単一回答、n=900)【集計軸別クロス集計①】

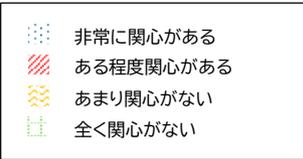


		(n)	(%)			
全体		900	11.4%	31.8%	33.1%	23.7%
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	12.0%	32.0%	29.0%	27.0%
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	11.0%	23.0%	30.0%	36.0%
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	2.0%	26.0%	37.0%	35.0%
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	16.0%	32.0%	32.0%	20.0%
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	16.1%	12.9%	38.7%	32.3%
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	10.2%	32.7%	34.7%	22.4%
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	14.2%	33.3%	28.3%	24.2%
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	14.2%	34.9%	37.9%	13.0%
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	10.5%	38.7%	32.6%	18.2%

① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。
(単一回答、n=900)【集計軸別クロス集計②】

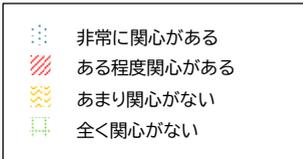
			(%)			
		該当数	非常に 関心 がある	ある 程度 関心 がある	あ ま り 関 心 が な い	全 く 関 心 が な い
全体		900	11.4	31.8	33.1	23.7
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	12.0	32.0	29.0	27.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	11.0	23.0	30.0	36.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	2.0	26.0	37.0	35.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	16.0	32.0	32.0	20.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	16.1	12.9	38.7	32.3
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	10.2	32.7	34.7	22.4
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	14.2	33.3	28.3	24.2
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	14.2	34.9	37.9	13.0
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	10.5	38.7	32.6	18.2

① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。
 (単一回答、n=900)【居住意向①別クロス集計①】



		(n)	(%)			
全体		900	11.4%	31.8%	33.1%	23.7%
しよ(多 住)摩 地居 域向 在島①	住み続けたい	136	13.2%	31.6%	27.9%	27.2%
	どちらかといえば住み続けたい	92	2.2%	31.5%	33.7%	32.6%
	別の市区町村に転居したい	72	6.9%	12.5%	37.5%	43.1%

① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。
 (単一回答、n=900)【居住意向②別クロス集計①】



		(n)	(%)			
全体		900	11.4%	31.8%	33.1%	23.7%
通摩居 勤・住 ・島意 通し向 学よ② 者地(多 域)	住んでみたい	28	32.1%	35.7%	17.9%	14.3%
	きっかけがあれば住んでみたい	44	11.4%	38.6%	43.2%	6.8%
	あまり住みたいとは思わない	18	11.1%	11.1%	66.7%	11.1%
	住みたいと思わない	40	5.0%	17.5%	22.5%	55.0%

① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。
 (単一回答、n=900)【居留意向②別クロス集計②】

(%)

比率		該当数	非常に 関心がある	ある程度 関心がある	あまり 関心がない	全く 関心がない
全体		900	11.4	31.8	33.1	23.7
通摩居 勤・住 ・島意 通し向 学よ② 者地へ 域多	住んでみたい	28	32.1	35.7	17.9	14.3
	きっかけがあれば住んでみたい	44	11.4	38.6	43.2	6.8
	あまり住みたいとは思わない	18	11.1	11.1	66.7	11.1
	住みたいと思わない	40	5.0	17.5	22.5	55.0

31

参考資料

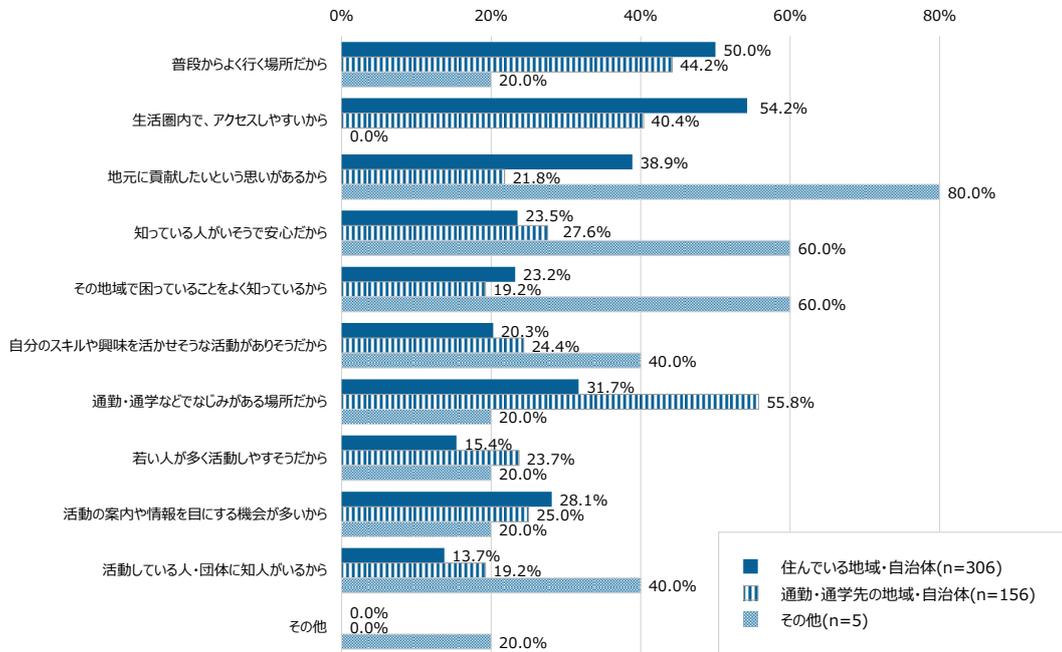
①-1 まちづくりに参加する際、活動範囲として想定される場所のイメージを教えてください。
 (複数回答、n=389<関心層向け>)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率		(n)	住んで いる 地域・ 自治体	治通 体動 ・通 学先 の地 域・ 自	その 他	わ か ら な い
全体		389	78.7	40.1	1.3	12.1
集 計 軸	多摩・島しよ地域に居住している者/15-22歳	44	72.7	50.0	0.0	13.6
	多摩・島しよ地域に居住している者/23-29歳	34	55.9	29.4	5.9	23.5
	多摩・島しよ地域に居住している者/30-39歳	28	75.0	17.9	0.0	25.0
	多摩・島しよ地域に通勤・通学している者/15-22歳	24	66.7	37.5	0.0	16.7
	多摩・島しよ地域に通勤・通学している者/23-29歳	9	66.7	33.3	0.0	22.2
	多摩・島しよ地域に通勤・通学している者/30-39歳	21	95.2	38.1	0.0	4.8
	多摩・島しよ地域に関心がある者/15-22歳	57	84.2	50.9	0.0	7.0
	多摩・島しよ地域に関心がある者/23-29歳	83	84.3	47.0	2.4	7.2
	多摩・島しよ地域に関心がある者/30-39歳	89	83.1	34.8	1.1	10.1

32

①-2 活動範囲として想定される場所を選んだ理由を教えてください。(複数回答)
【単純集計】



33

①-3 あなたが関心を持っている、地域や社会の具体的な課題を教えてください。また、関心のある課題のうち、あなた自身が課題解決に向けた活動に参加しているものがあれば教えてください。(複数回答、n=389<関心層向け>)
【集計軸別クロス集計①<関心のある課題>】

		(n)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
		(n)	33.9	32.1	32.4	33.9	26.7	30.8	37.5	19.3	36.5	35.5	30.6	1.0	3.1	10.8	
集計軸	全体	389	33.9	32.1	32.4	33.9	26.7	30.8	37.5	19.3	36.5	35.5	30.6	1.0	3.1	10.8	
	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	44	40.9	34.1	38.6	45.5	38.6	40.9	36.4	25.0	40.9	36.4	31.8	0.0	0.0	13.6	
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	34	14.7	17.6	20.6	17.6	11.8	17.6	26.5	11.8	35.3	23.5	17.6	2.9	5.9	14.7	
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	28	32.1	39.3	32.1	14.3	14.3	39.3	39.3	7.1	28.6	28.6	14.3	0.0	17.9	17.9	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	24	29.2	20.8	25.0	20.8	20.8	33.3	33.3	16.7	33.3	37.5	37.5	0.0	4.2	12.5	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	9	33.3	0.0	33.3	55.6	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	22.2	0.0	0.0	0.0	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	21	33.3	28.6	38.1	42.9	28.6	28.6	47.6	19.0	23.8	28.6	28.6	0.0	9.5	9.5	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	57	54.4	35.1	42.1	43.9	36.8	42.1	45.6	21.1	47.4	42.1	35.1	0.0	0.0	10.5	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	83	33.7	38.6	34.9	36.1	32.5	27.7	38.6	27.7	44.6	39.8	42.2	3.6	1.2	8.4	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	89	27.0	33.7	25.8	31.5	19.1	27.0	34.8	16.9	27.0	34.8	25.8	0.0	1.1	9.0	

34

①-3 あなたが関心を持っている、地域や社会の具体的な課題を教えてください。また、関心のある課題のうち、あなた自身が課題解決に向けた活動に参加しているものがあれば教えてください。(複数回答、n=389<関心層向け>)
【集計軸別クロス集計①<活動に参加しているもの>】

		(n)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)			
				→地域を元気にすること	→産業振興	働く場所や職種の選択	持ち場や建物の整備	交通や安全が確保されること	子どもを育てやすくする	学校や地域の活動	病院や福祉のサービス	災害や犯罪から安心して暮らせること	仲良く暮らすこと	と環境対策	ごみや環境	スポーツや音楽などの活動	デジタルやインターネット	その他	わからない	特になし
全体		389	10.8	7.2	5.9	9.0	6.2	7.2	8.5	8.0	13.4	11.8	10.0	0.0	3.3	47.0				
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	44	15.9	9.1	9.1	9.1	13.6	9.1	4.5	4.5	13.6	11.4	11.4	0.0	0.0	56.8				
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	34	0.0	2.9	5.9	8.8	2.9	0.0	8.8	2.9	11.8	11.8	2.9	0.0	2.9	47.1				
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	28	7.1	3.6	7.1	3.6	3.6	7.1	7.1	3.6	10.7	7.1	7.1	0.0	17.9	50.0				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	24	12.5	8.3	0.0	4.2	4.2	4.2	0.0	12.5	8.3	4.2	16.7	0.0	4.2	45.8				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	9	22.2	0.0	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	0.0	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	21	9.5	4.8	0.0	4.8	0.0	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	4.8	57.1				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	57	12.3	5.3	8.8	8.8	8.8	14.0	14.0	7.0	22.8	17.5	7.0	0.0	1.8	50.9				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	83	10.8	7.2	6.0	8.4	7.2	6.0	7.2	12.0	14.5	13.3	12.0	0.0	1.2	44.6				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	89	11.2	11.2	3.4	11.2	3.4	5.6	10.1	11.2	11.2	13.5	12.4	0.0	3.4	41.6				

①-5 活動に参加することへの不安や参加の妨げになっていることがあれば教えてください。(複数回答、n=196) **【居住意向①別クロス集計】**

		(n)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
				活動時間	自分の時間	自分以外の時間										
全体		196	36.2	30.6	31.6	24.5	31.1	25.0	21.9	34.7	10.7	13.3	1.0			
居住意向①	住み続けたい	30	13.3	20.0	26.7	16.7	20.0	20.0	16.7	26.7	16.7	30.0	0.0			
	どちらかといえば住み続けたい	20	45.0	20.0	40.0	35.0	35.0	25.0	25.0	50.0	10.0	10.0	0.0			
	別の市区町村に転居したい	11	36.4	27.3	36.4	18.2	36.4	18.2	18.2	27.3	0.0	27.3	0.0			

② 関心がない理由を教えてください。(複数回答、n=511)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下

(n=30以上の場合)

		(n)	知ら どの らな いよ うな 活 動が あ る か	時 間 的 な 余 裕 が な い か ら	事 業 の 事 情 (仕 事 、 家 庭 の 事 情 、 通 院 等) が あ る か ら	家 庭 の 事 情 (仕 事 、 家 庭 の 事 情 、 通 院 等) が あ る か ら	経 費 や 手 間 が か か り す ぎ な い か ら	少 な い か ら 参 加 で き る 活 動 が あ る か ら	い か ら の 友 人 ・ 仲 間 が い な い か ら	同 好 の 友 人 ・ 仲 間 が い な い か ら	ら 近 く に 活 動 場 所 が な い か ら	か ら と 付 き 合 う の が 面 倒 だ か ら	そ の 他
全 体		511	36.6	34.1	9.2	14.3	14.5	13.7	13.1	38.0	1.0		
集 計 軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	56	42.9	26.8	10.7	12.5	19.6	10.7	10.7	26.8	3.6		
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	66	24.2	25.8	4.5	16.7	12.1	7.6	7.6	47.0	0.0		
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	72	30.6	29.2	8.3	12.5	8.3	11.1	8.3	50.0	1.4		
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	26	34.6	46.2	7.7	15.4	19.2	23.1	19.2	34.6	0.0		
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	22	40.9	31.8	0.0	9.1	4.5	13.6	9.1	59.1	0.0		
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	28	28.6	39.3	10.7	7.1	14.3	7.1	14.3	46.4	0.0		
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	63	49.2	33.3	7.9	9.5	15.9	19.0	14.3	34.9	3.2		
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	86	44.2	31.4	9.3	19.8	18.6	16.3	16.3	30.2	0.0		
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	92	32.6	46.7	15.2	16.3	14.1	15.2	17.4	31.5	0.0		

37

② 関心がない理由を教えてください。(複数回答、n=511)【居留意向①別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下

(n=30以上の場合)

		(n)	知ら どの らな いよ うな 活 動が あ る か	時 間 的 な 余 裕 が な い か ら	事 業 の 事 情 (仕 事 、 家 庭 の 事 情 、 通 院 等) が あ る か ら	家 庭 の 事 情 (仕 事 、 家 庭 の 事 情 、 通 院 等) が あ る か ら	経 費 や 手 間 が か か り す ぎ な い か ら	少 な い か ら 参 加 で き る 活 動 が あ る か ら	い か ら の 友 人 ・ 仲 間 が い な い か ら	同 好 の 友 人 ・ 仲 間 が い な い か ら	ら 近 く に 活 動 場 所 が な い か ら	か ら と 付 き 合 う の が 面 倒 だ か ら	そ の 他
全 体		511	36.6	34.1	9.2	14.3	14.5	13.7	13.1	38.0	1.0		
し よ 多 摩 地 域 ・ 向 在 島 ①	住み続けたい	75	36.0	17.3	5.3	9.3	13.3	9.3	4.0	36.0	2.7		
	どちらかといえば住み続けたい	61	29.5	32.8	11.5	14.8	9.8	8.2	4.9	44.3	1.6		
	別の市区町村に転居したい	58	29.3	34.5	6.9	19.0	15.5	12.1	19.0	48.3	0.0		

38

① 次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。
(複数回答、n=900)【集計軸別クロス集計】

		(n)	比率 (%)														
			ケ ー ト を 対 象 と し た ア ン ケ ー ス	若 者 の 利 用	等 等 の オ ン ラ イ ン ツ ー ル	g r a m 、 T i k T o k	S N S (X や I n s t a g r a m)	自 治 体 が 設 け る 若 者 向 け	会 ・ 審 議 会 へ の 参 加	若 者 を 対 象 と し た 参 加 委 員	参 加 生 と の 意 見 交 換 の 場 ・ 大 学	若 者 の 会 議 や 高 校 生 ・ 大 学 生 の 参 加	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	そ の 他	わ か ら な い
全体		900	32.9			18.3	11.6	12.0	14.8	12.8	0.2	43.0					
集 計 軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	39.0			22.0	16.0	13.0	12.0	13.0	0.0	43.0					
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	17.0			14.0	9.0	8.0	12.0	9.0	0.0	54.0					
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	18.0			9.0	6.0	5.0	9.0	10.0	1.0	69.0					
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	40.0			18.0	18.0	16.0	16.0	18.0	0.0	34.0					
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	32.3			6.5	6.5	9.7	9.7	12.9	0.0	35.5					
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	26.5			10.2	6.1	10.2	18.4	18.4	2.0	49.0					
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	42.5			23.3	12.5	13.3	17.5	14.2	0.0	35.8					
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	42.0			22.5	14.2	16.6	18.3	17.2	0.0	34.9					
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	31.5			21.0	11.0	12.2	15.5	8.3	0.0	37.0					

39

① 次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。
(複数回答、n=900)【居住意向①別クロス集計】

		(n)	比率 (%)														
			ケ ー ト を 対 象 と し た ア ン ケ ー ス	若 者 の 利 用	等 等 の オ ン ラ イ ン ツ ー ル	g r a m 、 T i k T o k	S N S (X や I n s t a g r a m)	自 治 体 が 設 け る 若 者 向 け	会 ・ 審 議 会 へ の 参 加	若 者 を 対 象 と し た 参 加 委 員	参 加 生 と の 意 見 交 換 の 場 ・ 大 学	若 者 の 会 議 や 高 校 生 ・ 大 学 生 の 参 加	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	そ の 他	わ か ら な い
全体		900	32.9			18.3	11.6	12.0	14.8	12.8	0.2	43.0					
し よ 地 域 ・ 向 在 島 ①	住み続けたい	136	26.5			17.6	10.3	8.8	11.0	8.8	0.0	53.7					
	どちらかといえば住み続けたい	92	22.8			14.1	9.8	8.7	8.7	13.0	0.0	56.5					
	別の市区町村に転居したい	72	23.6			11.1	11.1	8.3	13.9	11.1	1.4	56.9					

40

① 次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。
(複数回答、n=900) 【まちづくりへの関心別クロス集計】

(%)

比率
 全体+10ポイント以上
 全体+5ポイント以上
 全体-5ポイント以下
 全体-10ポイント以下
 (n=30以上の場合)

		(n)	ケ ー ト を 対 象 と し た 回 答	若 者 の 利 用	等 等 の オ ン ラ イ ン ツ ー ル	g r a m m a t i o n a l	S a m e X I n t e r n a t i o n a l	自 治 体 が 設 け る 若 者 向 け	会 議 対 象 に し た 委 員	若 者 を 対 象 と し た 委 員	参 加 の 意 見 交 換 の 場 合	若 者 の 会 議 や 高 校 生 ・ 大 学 生 の 交 換 の 場 合	地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	地 域 課 題 の 実 践 等 に 向 け	そ の 他	わ か ら な い
全 体		900	32.9	18.3	11.6	12.0	14.8	12.8	0.2	43.0						
ま ち づ く り へ の 関 心	非常に関心がある	103	56.3	45.6	39.8	32.0	45.6	35.0	0.0	9.7						
	ある程度関心がある	286	41.3	26.9	15.0	17.5	20.6	17.5	0.0	24.8						
	あまり関心がない	298	31.9	12.1	5.4	6.0	7.0	4.4	0.3	50.0						
	全く関心がない	213	11.7	2.3	1.9	3.3	2.8	7.5	0.5	73.7						

41

② まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウに関して、得意である、やったことがあるものについて教えてください。(複数回答、n=900) 【集計軸別クロス集計】

(%)

比率
 全体+10ポイント以上
 全体+5ポイント以上
 全体-5ポイント以下
 全体-10ポイント以下
 (n=30以上の場合)

		(n)	A N S を 活 用 し た デ ジ タ ル 情 報 メ ッ ジ ン グ	動 画 ・ 画 像 の 撮 影 ・ 編 集	イ ン タ ビ ュ ー の 発 見 ・ 表 演 ・ シ ョ ウ ・ ア ー ト	イ ン タ ビ ュ ー の 運 営	活 か し た ア イ デ ア を 考 え を	二 編 カ ー シ ョ ン と の 人 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	理 解 が あ る の の	国 際 交 流 に 関 心 が あ る の の	調 査 や フ ィ ー ド バ ック を 通 じ て 地 域 の こ と を 調 査	ロ グ ラ フ や ア プ リ の 開 発 ・ プ ロ ト タイプ の 研 究 ・ 活 動	S D G に 関 心 が あ る の の	地 域 課 題 や 社 会 の 問 題 に 関 心 が あ る の の	的 な 目 標 を 達 成 す る に 関 心 が あ る の の	詳 し い 若 者 文 化 に 関 心 が あ る の の	社 会 課 題 の 解 決 や 地 域 活 動 の 経 験	新 し い こ と に も 柔 軟 に 適 応 す る	そ の 他	あ て は ま る も の は な い
全 体		900	12.4	12.4	10.6	9.7	10.9	13.0	8.0	7.6	5.8	9.4	8.9	14.6	8.2	7.9	11.3	0.2	47.1	
集 計 軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	14.0	16.0	16.0	5.0	12.0	11.0	6.0	11.0	3.0	9.0	12.0	12.0	9.0	8.0	13.0	0.0	49.0	
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	9.0	8.0	6.0	7.0	3.0	9.0	1.0	8.0	4.0	10.0	4.0	9.0	3.0	4.0	5.0	0.0	52.0	
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	11.0	10.0	5.0	9.0	10.0	5.0	5.0	3.0	2.0	5.0	2.0	7.0	3.0	5.0	4.0	1.0	69.0	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	10.0	16.0	10.0	8.0	4.0	8.0	10.0	4.0	6.0	8.0	6.0	14.0	6.0	2.0	10.0	0.0	40.0	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	6.5	3.2	19.4	12.9	12.9	16.1	9.7	3.2	6.5	16.1	16.1	16.1	6.5	6.5	6.5	0.0	35.5	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	6.1	10.2	14.3	12.2	6.1	16.3	10.2	12.2	0.0	2.0	4.1	20.4	6.1	6.1	16.3	0.0	44.9	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	16.7	15.0	12.5	13.3	14.2	11.7	6.7	12.5	6.7	11.7	8.3	15.8	17.5	5.0	17.5	0.8	41.7	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	19.5	17.2	10.7	14.8	15.4	20.1	14.8	7.7	10.7	15.4	13.6	18.9	13.6	14.2	12.4	0.0	39.1	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	8.3	9.4	9.4	6.1	11.6	14.9	7.7	5.0	6.6	6.1	10.5	16.6	3.9	9.9	12.7	0.0	47.0	

42

② まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウに関して、得意である、やったことがあるものについて教えてください。(複数回答、n=900)
【あなたが参加したいと思う活動(問(3)①)別クロス集計】

(%)

比率
 全体+10ポイント以上
 全体+5ポイント以上
 全体-5ポイント以下
 全体-10ポイント以下
 (n=30以上の場合)

		(n)	ア SNSやデジタル発信メディア	動画・画像の撮影・編集	プレゼンテーションやアプリ	のイベントやプロジェクト	の企画・運営	活かしてアイデアを考えを	デザイン思考や発想を	幅広い世代の人とコミュニ	理解がある	国際交流に関心があるの	を調べて地域のことを調	調査やフィールドワーク	ログラムやアプリ開発、プ	SDGsやサステナビリティ	地域課題や社会的問題に	的や目標を達成する経験	詳しい若者文化について	社会課題の解決や地域活	新しいことにも柔軟に	その他	あてはまるものはない
全体		900	12.4	12.4	10.6	9.7	10.9	13.0	8.0	7.6	5.8	9.4	8.9	14.6	8.2	7.9	11.3	0.2	47.1				
参加したいと思うまちづくり活動	若者を対象としたアンケート調査への回答	296	20.3	25.0	18.2	17.9	19.9	21.3	16.2	12.5	10.5	13.5	14.5	25.3	18.2	12.2	18.2	0.3	26.4				
	自治体が設ける若者向けSNS(XやInstagram, TikTok等)やオンラインツール等の利用	165	35.2	30.9	21.2	22.4	29.7	29.1	20.0	20.0	14.5	22.4	23.6	32.1	22.4	21.2	23.6	0.6	14.5				
	若者を対象にした委員会・審議会への参加	104	30.8	30.8	31.7	27.9	28.8	35.6	25.0	24.0	20.2	29.8	32.7	32.7	23.1	26.0	28.8	0.0	9.6				
	若者会議や高校生・大学生との意見交換の場への参加	108	27.8	26.9	34.3	21.3	28.7	40.7	24.1	22.2	20.4	25.9	28.7	36.1	24.1	25.0	27.8	0.0	9.3				
	地域課題の解決等に向けた検討・提案	133	27.8	24.8	27.1	24.8	26.3	31.6	21.1	19.5	15.0	22.6	26.3	36.1	20.3	24.1	29.3	0.0	12.0				
	地域課題の解決等に向けた試行・実践への参加	115	25.2	25.2	20.0	21.7	21.7	32.2	20.9	20.9	13.0	17.4	27.0	33.0	14.8	19.1	22.6	0.0	20.9				
	その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0		
	わからない	387	3.4	3.9	2.8	2.8	3.4	4.7	1.8	1.6	1.3	3.1	1.6	6.2	1.8	2.3	3.6	0.0	79.1				

43

③ 自治体が発信するまちづくりに係る情報を把握、収集する際に活用したい媒体があれば教えてください。(複数回答、n=900)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率
 全体+10ポイント以上
 全体+5ポイント以上
 全体-5ポイント以下
 全体-10ポイント以下
 (n=30以上の場合)

		(n)	公式ホームページ	広報紙(デジタル)	市区町村からのメール配	市区町村公式LINE	市区町村公式X(旧:Twitter)	市区町村公式Instagram	市区町村公式専用アプリ	市区町村公式YouTube	その他SNS(TikTok等)	広報紙(紙)	回覧板・チラシ	個別の通知	その他	わからない
全体		900	38.4	14.6	7.6	14.6	20.0	19.4	5.9	13.4	8.6	12.8	7.9	2.1	0.2	38.9
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	39.0	14.0	8.0	15.0	16.0	19.0	8.0	14.0	14.0	12.0	6.0	0.0	0.0	42.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	23.0	9.0	3.0	9.0	11.0	10.0	2.0	10.0	6.0	7.0	3.0	2.0	0.0	55.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	26.0	12.0	3.0	6.0	12.0	8.0	2.0	5.0	2.0	12.0	8.0	4.0	1.0	59.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	46.0	14.0	4.0	6.0	16.0	24.0	6.0	12.0	6.0	8.0	2.0	0.0	0.0	36.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	32.3	6.5	6.5	3.2	19.4	19.4	9.7	9.7	12.9	6.5	6.5	0.0	0.0	38.7
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	42.9	16.3	10.2	18.4	24.5	14.3	2.0	14.3	0.0	24.5	6.1	4.1	0.0	36.7
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	44.2	16.7	9.2	14.2	25.0	22.5	5.8	16.7	15.0	12.5	14.2	2.5	0.0	37.5
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	43.2	16.6	10.7	21.3	26.6	26.0	7.1	16.6	11.8	16.6	10.1	2.4	0.0	28.4
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	43.1	17.1	8.8	19.3	22.1	23.2	8.3	15.5	5.5	12.7	7.7	2.2	0.6	29.3

44

④ 若者の意見を施策や事業等に反映させるため、行政に取り組んでほしいと思うアイデアがあれば教えてください。(複数回答、n=900)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下

(n=30以上の場合)

		(n)	の若者 の予 算に よる 措 置	グ ・ 支 援 等 の 企 画 ・ 提 案 ハ	若 者 と 地 域 団 体 ・ マ ッ チ ン	参 加 の 仕 組 み 整 備	S N S や オ ン ラ イ ン ツ と	の 仲 介 役 者 と 地 域 の	地 域 コ ー デ ィ ネ ッ タ ー の	づ け ・ 表 彰 な ど に よ る 動 機	若 者 の 活 動 成 果 の 可 視 性	そ の 他	わ か ら な い
全 体		900	24.8	19.1	28.6	16.8	14.9	0.2	44.7				
集 計 軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	25.0	18.0	28.0	9.0	18.0	0.0	51.0				
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	13.0	10.0	19.0	15.0	12.0	0.0	56.0				
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	14.0	9.0	12.0	16.0	9.0	0.0	72.0				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	24.0	14.0	40.0	12.0	8.0	0.0	36.0				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	22.6	16.1	12.9	29.0	16.1	0.0	48.4				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	24.5	26.5	38.8	20.4	12.2	0.0	42.9				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	32.5	21.7	27.5	15.8	15.0	0.8	37.5				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	34.3	27.2	39.6	19.5	18.9	0.0	34.3				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	23.8	21.0	30.4	18.8	16.6	0.6	36.5				

45

(1)①-1 住み続けたいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=228)【その他】

NO	意見
1	住んでいて特に不満がないから
2	なし
3	なんとなく

(1)①-2 転居したいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=72)【その他】

NO	意見
1	もう少し都心に近い場所に住みたい
2	風水的に優れた場所へ住みたい
3	生保の管轄が練馬だから
4	高い
5	親に田舎と言われた
6	地元就職
7	一人暮らしをしたいから。
8	生まれ育った地域だからこそ、地元以外の場所に将来は居住したい
9	よく考えると分からない

46

(1)②-1 住みたいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=72)【その他】

NO	意見
1	元々住んでいた
2	昔住んでたから
3	楽しそうだから
4	都内でも落ち着いた雰囲気だから

(1)②-2 住みたいと思わない理由を教えてください。(複数回答、n=58)【その他】

NO	意見
1	今のところで十分だから
2	なんとなく
3	既に持ち家があるから引越しはしない
4	持ち家を買ったので引っ越したくないから

47

(1)③ あなたが多摩・島しょ地域を訪れた際の目的を教えてください。複数回訪れている場合は最も多い目的を教えてください。(単一回答、n=470)【その他】

NO	意見
1	なし
2	オープンキャンパス
3	帰省
4	通学
5	会場調査
6	耳鼻咽喉科
7	お墓参り
8	通学
9	受験
10	学校見学
11	オープンキャンパス
12	この中にはない
13	大学に通うため
14	部活
15	住んでいた
16	観劇

48

(1)③ あなたが多摩・島しょ地域を訪れた際の目的を教えてください。複数回訪れている場合は最も多い目的を教えてください。(単一回答、n=470)【その他】

NO	意見
17	葬式
18	部活動
19	自然を感じに
20	当時の通学先
21	スポーツクラブ
22	民泊
23	ドライブ

(1)④ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の魅力を教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	町田は都会だと思う
2	自然
3	都会過ぎず田舎過ぎず、郊外として暮らしやすい
4	温泉
5	土地はあるため大きいレジャー施設がある

49

(1)⑤ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	保育園が足りない
2	多摩地域、伊豆小笠原諸島の過疎化・空洞化と都心への一極集中
3	家賃や物価の高さ、高齢化、人口減少

(2)①-1 まちづくりに参加する際、活動範囲として想定される場所のイメージを教えてください。(複数回答、n=389)【その他】

NO	意見
1	生まれ育った自治体
2	自分のお気に入りの場所
3	地元
4	愛着のある地域・自治体
5	地元

50

(2)①-2 活動範囲として想定される場所を選んだ理由を教えてください。(複数回答、n=389)【その他】

NO	意見
1	応援したい地域だから

(2)①-3 あなたが関心を持っている、地域や社会の具体的な課題を教えてください。また、関心のある課題のうち、あなた自身が課題解決に向けた活動に参加しているものがあれば教えてください。(複数回答、n=389)【その他】

NO	意見
1	公共交通機関の整備
2	人口の流出
3	空き家問題
4	外国人(日本の文化を尊重せず、税金の無駄遣いをする者に限る)への牽制

51

(2)①-4 参加している活動の状況を教えてください。なお、複数の活動に参加している場合、最も参加頻度が高い活動について教えてください。(単一回答、n=193)【その他】

NO	意見
1	特になし
2	仕事の一環
3	会社として参加しているから

(2)①-5 活動に参加することへの不安や参加の妨げになっていることがあれば教えてください。(複数回答、n=196)【その他】

NO	意見
1	勉強との両立
2	現在妊娠中の為、体力的にも厳しい

52

(2)② 関心がない理由を教えてください。(複数回答、n=511)【その他】

NO	意見
1	同世代がやっているイメージがない、偽善っぽく見える
2	なし
3	興味がないから
4	なんとなく
5	別に住んでないから

(3)① 次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	知的会話で先進的な事柄をストレスなく勤めていける環境
2	スポーツ活性化

(3)② まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウに関して、得意である、やったことがあるものについて教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	トリリンガル
2	イラスト

53

(3)③ 自治体が発信するまちづくりに係る情報を把握、収集する際に活用したい媒体があれば教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	なし
2	Facebook

(3)④ 若者の意見を施策や事業等に反映させるため、行政に取り組んでほしいと思うアイデアがあれば教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	若い人がやることを否定しないこと、否定する人から守ること
2	なし

54

参考資料5 有識者ヒアリング結果

<p>の若者像を前提にすることが重要である。</p> <p>(5) まちづくりにおける若者参画と女性参画の類似点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方では、未だに男尊女卑的な文化が強く残り、女性が意思決定の場から排除されていく例がある。しかし、地域の福祉交流といった活動の多くは女性が担っている。外から嫁いでくる人が多いため、よき者としての視点と複数の社会的つながりを持っていることも多い。そのため、地域に長く住んでいられる男性よりも広いつながりを持っている場合がある。 ・こうした女性たちが中心となって活動を始めると、他世代を巻き込み、地域づくりが活発になることがある。これは、若者の参画が他世代との関係性を広げ構造と似ており、重要な役割を与えている。 <p>(6) 世代を超えた柔軟な連携と人材循環</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が地域活動を進める上で、年長者の知恵や経験を借りることは有効である。ただし、その関係が一方的であってはならず、互いにリソースを分け合う対等な関係性が前提となる。若者を手足のように使おうとする姿勢では、真の連携は築けない。 ・このように、地域内外の多様な人々が循環し、流動的に関与する仕組みを整えることが重要である。若者は、その循環のハブとなり得る存在であり、だからこそ、多くの地域で若者を中心とした政策が展開されているのである。地域づくりにおける留意点は、この「循環」をどうつくりだしていくかである。 <p>(7) 若者の年齢の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の定義について明確な線引きをする必要はない。何を目的とした場なのかによって、どの年代が選んでいるのか異なってくる。例えば、地域のワークショップのように多様な意見交換を目的とする場であれば、中学生でも十分参加可能である。もちろん、すべての中学生が同じように積極的に関われるわけではないが、意欲のある子どもがいるならば、それに対応した方法を用意すべきである。 ・多摩市の若者会議では、中学生が自然と参加し、友人を連れてくることもある。ときには小学生が関心を持って参加することもあると聞く。もちろん全員がついていけないわけではないが、興味を持って参加しようとする人がいるのであれば、年齢によって排除するべきではない。 ・これまでの社会では、「中学生は子どもだから」「高校生でもまだ早い」「大学生も社会に出ていないから」という理由で、若者を限定的に扱ってきたが、そうした年齢基準はあまり意味がない。重要なのは、その人が「関わりたい」という意志を持っているかどうかであり、年齢に関係なく柔軟に受け入れる姿勢が必要である。 <p>(8) 地域づくりの入口は「楽しみ」であり「没入感」が得られるかが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりにおいては、年齢による参加の制限よりも、「面白そうだから関わりたい」という主体的な意欲が何より重要である。送られてきた計画書にもあったように、「楽し 	<p>対談者：大杉 寛 氏（東京橋立大学法文学部 教授）</p> <p>(1) 若者、女性のまちづくり参画の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域において、若者や女性が排除された形の民主主義が常態化していることは問題である。地方創生2.0においても指摘されているように、彼らの参画が前提とされべきである。たとえば、参画の機会や場があっても、重要な意思決定の中核を担えず、下請けのような位置づけに留まっている状況は、民主主義の理念に反する。 ・地域づくりは短期で実施するものではなく、10〜20年という長いスパンで継続されるものである。今後、若者世代が、将来的に社会の中心的役割を担っていくことを考えれば、若者世代の声を聞くことは必須と言える。また、若者だけに任せればよいというものではなく、多世代交流につながるべく組織が不可欠である（若者がそもそも欠けていることが前提）。 ・団塊世代の人々も、かつては若いころから地域づくりに参画し、地域の取組を上手に進めてきた経緯があると思うが、そのような人材が減っていく中で、若い世代が入っていきやすいう問口をつくってあげるといふ視点は、若者政策が重要と考える。 <p>(2) 地域活動の推進策と若者の接点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長期以降、働く場所と暮らす場所が分離され、地域内で完結する人間関係は衰えた。若者は地域との接点を持たずに成長するケースが多いが、程度の差こそあれ、それは都市部に限らず農村でも見られる傾向である。若者は地域外に複数のつながりを持ち、従来の、従来の条件の中で地域づくりを担う存在となっている。 <p>(3) 地域社会との関わりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の世代の都市部に育った人々は、地域というものをあまり意識せずに育ってきたのではないが、若い頃は「ボランティア」という言葉自体が十分に普及しておらず、積極的に地域活動に関与するという発想は薄かった。ただし、今振り返れば、自然と地域の営みに参加していたことも多く、上の世代の影響を受けながら無自覚に関わっていた面もある。 ・一方で、地方に暮らす世代や上の世代の人々では、地域と関わるということが「当たり前」として根付いてきた。自発的というより、関わりざるを得ない環境だった。しかし、そうした関係性も時代とともに弱れていった。高度経済成長期以降、住む場所と働く場所が分離され、生活と地域が切り離されていく中で、地域コミュニティの一体性は失われていった。 <p>(4) 今の若者世代の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の若者は、生まれ育った地域であっても、生活・経済・人間関係が分断されている。学校や職場は地域外にあることが多く、地域内における接点は極めて少ない。このような前提の下で、若者に地域参画を求める場合は、従来のモデルとは異なるアプローチが必要となる。他の世代への施策を考える上でも、このように、これまでとは異なる条件
--	--

<p>い」という要素が入り口として大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が何かに没入するきっかけは、計画的に生まれる場合もあれば、偶然によることもある。一定の工夫をすれば多くの人が入力できることも可能だが、それが必ず成功するとは限らない。単純作業でも、人によっては夢中になって取り組むことがあり、たとえば料理中の皮むきや掃除など、普段なら面倒に感じる作業も、一度始めるとやめられなくなるようなことは多くある。 <p>(9) 没入感は偶然と必然の両面がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山で行われている梅アークーションでは、雨の中で著ちた梅を拾い集めるという単独な作業に、多くの人の中になった。体験してみなければその魅力は分からず、最初から関わろうとしなければ、そもそもその「面白さ」に触れることすらできない。このように、「少しやってみよう」と思わせる入り口が用意されているかが、没入体験の鍵である。 <p>(10) 体験にみる「体験の入り口」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動においても同様であり、すべての住民が関与することを求めるのではなく、関与人口として外から関わってくる人々をうまく取り込むことが重要である。地域に住んでいても関わらない「非関係人口」は多く存在しており、無理に変えようとするのではなく、まずは関わられる人たちで取り組み、周囲に「面白そうだ」と思わせていくことが、広がりにつながるかと考える。そうした関わりを持つ「入り口」を増やすことが重要である。 <p>(11) 没入できる人（関係人口）をどう広げるかが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルアートなどで用いられる「イマージ（没入型）」という言葉に象徴されるように、関心がある人だけがその場に入り込む、全員が関わる必要はなく、没入できる人が一定数いればよいという考え方が現実的である。 ・地域活動においても同様であり、すべての住民が関与することを求めるのではなく、関与人口として外から関わってくる人々をうまく取り込むことが重要である。地域に住んでいても関わらない「非関係人口」は多く存在しており、無理に変えようとするのではなく、まずは関わられる人たちで取り組み、周囲に「面白そうだ」と思わせていくことが、広がりにつながるかと考える。そうした関わりを持つ「入り口」を増やすことが重要である。 <p>(12) 柔軟な関わり方が人材を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動において、個人が必ずしも継続して関わり続ける必要はない。関わりたいときは力を出し、疲れたら離れる、リタイアして中絶する、子育て中であれば子どもと一緒にイベントに参加するだけでもよい。このような柔軟な関わり方を認める場をつくることも重要である。 ・人材育成という観点でも、事前に必要能力や知見を身につけようというのではなく、「リタイアを育てる」、「リタイアがいないから上手くないかな」といった考え方も不要である。様々な人が、アイデアや工夫で活動を支え、そのような多様な役割がある 	<p>からこそ、地域づくりに広がり生まれる。</p> <p>(13) 好循環を生む若者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が参画することで、他の世代も巻き込まれ、地域に人の流れや循環が生まれる。そのような循環装置としての役割は極めて大きい。行政がすべきは、過度に管理することではなく、柔軟に支えること、特に最初は支援しても、やがては自走するよう促すことである。 ・多摩市では、若者会議の自走を前提に立ち上げ、最終的には若者自身が合同会社を設立し、委託運営するまでに至った。職員が若者の一員として参加したことも成功要因である。 <p>(14) 視野を広げた地域づくりの重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の自治体で地域づくりを進めると、自分たちの範囲だけで完結させようとしがちである。しかし、地域づくりは本来、より広い視野で捉えるべきものであり、移住・定住においても「自分の町に住み続けたい」ということだけに執着せず、「この地域圏に関わってもらえる」という価値を見出す姿勢が求められる。 ・たとえば地域おこし協力隊が隣町に移って活動する場合でも、「出て行った」と感嘆的ではなく、「この地域に関心を持って関わってくれた」と前向きに捉えた方がよい。 <p>(15) 多摩市の特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩市は、その周辺にはもともと大学の立地も多い地域であり、また、市域の大半がニュータウンエリアであるなど、地域住民の多くが「よそ者」として移住してきているため、地域住民の間に「地元出身者でなければ」というような排他性は少なく、外からの人材を受け入れやすい風土がある。こうした柔軟な地域性は、若者の参画や循環を促す上で大きな強みと言える。 ・多摩市の若者会議は、立ち上げ当初から「3年で打ち切り、自走を目指す」という方針を明確に掲げていた。実際には、完全な自走ではないが、一定の支援のもとで継続されている。3年後には、若者会議の関係者が合同会社を設立し、その法人が運営を委託するという形で継続が図られている。 ・この会社には、市から運営費の支援に加え、施設管理、多摩市文化祭のオンライン対応といった業務が委託されており、事業としての基盤づくりへの支援がなされている。設立時期がコロナ禍と重なったこともあり、デジタル分野に対応できる若者たちが中心となって対応したことにも功を奏した。 ・もう一つ特徴的なのは、若者会議に若手職員が「一若者」として参加していた点である。単なる市民の立寄としてだけでなく、地域の若者の一員として活動しつつ、必要に応じて行政職員としての役割を果たすという柔軟な立場を取っていた。 ・このように、職員が両方の立場を切り替えるながら参加する形は、地域との信頼関係を築きやすく、事業の自走化にも寄与している。こうした職員の関わり方は、多摩市の取り組みを成功に導く一つの要因であったと感じている。
--	--

(16) 行政の役割

- ・若者政策の取組については、議員個人の発言によって異なるものが多いが、行政には地域全体の風土や若者性が必要となる。トップが管理職が若者の主体性を信頼し、進歩に力を注ぎ出す自由に関わる環境をつくることが重要である。行政が主導するのではなく、あくまで若者が主体となり、行政は後方支援するというスタンスが望ましい。
- ・若い職員が興味を持った取り組みに、職員の範囲を超えて関わられるような柔軟性が必須である。情報を受容するのではなく、必要な知見は提供しながら、地域の若者と共に活動できるような関係を築けることが、人材育成にもつながる。校所内でもトップが管理職が現場に出て、住民とともに活動を体験する機会を設けるべきである（オブザーバー的に眺めているだけではいけない）。

(17) 高しよ地域における参画促進の可能性

- ・高しよ地域では、東京等の都市における出身者のネットワークを活用し、都府県で若者自派を促進するなどの「関係人口」としての関わりが有効である。同型の少ないつながりから始め、親・友・族の参画性を構築できるような活動を意識的につくっていくことができると良い。行政は、世帯の提供や交通費補助などの形で支援することもある。
- ・いわき市は、東京に出た若者たちが出身者同士で集まる場として若者会館を築いたことがあまる。そこに同世代出身の友人を誘ったりして輪が広がっている。それによって、出身者がリターンするだけでなく、友人も連れていく。そして、いわき市に帰るなかつた若者が「面白そうだから」と転住してくるケースも出てきている。意識的な若者なども影響するが、興味・関心が動機となって移住や関係人口につながることは十分あり得る。
- ・一方で、島のような地域では参画機会が少ないため、単純な参画誘導とは異なるアプローチが必要である。たとえれば、群馬県のようにアークアースが興まり始めることで、新たな動きが生まれている。若者が集まれば、自然とカフェや子ども塾を始めといった動きが出てくる可能性があり、そこから地域の魅力や活動の輪が広がっていく。
- ・このように、「なぜそこに人が来るのか」を丁寧に考えることによって、地道に異なる可能性が見えてくる。関心のある人が自然と集まり、様々な活動が始まるような参画の形成が、自然的な地域の活性化につながる。

(18) 参画のあり方

- ・参画の広めはしばしば若者に偏りすぎる。SNS や口コミを重視した参画型が効果的である。若者自身に参画づくりを促してもらい、または市民・住民主体の参画を奨励するなど、参画方針にも参画型の要素を導入することも考えられる。

(19) 若者の参画促進につながる例（香川県高松市）

- ・香川県高松市では、若者の活動によってまちを全体が大きく変わり始めている。1年前に

取れた際と比べても、明らかに参画度が変わり、効果が出てきた結果を受けた。

- ・新たな参画の一つが「ことわりまちづくり図書館」であり、町内の店舗や施設に本を配置し自由に貸し出している。設置場所によっては読者が困難な場所（駅や路上）に置いておいた本の返却等）もあるため、本の運搬費を地域の高校生が担っている。単なる本屋のようにも見えないが、こうした関わりの中から、「自分たちでも何かやってみよう」という主体的な参画が引き出されること が期待される。
- ・参画では、ゲストハウスやワークショップスペースといたった新しい施設も次々と誕生しており、それらは地元出身の若者や、外部から移住してきた大学卒業後の若者たちが中心となって運営している。20代のうちに事業を立ち上げる若者も増えており、地域が若者の挑戦を受け入れる場になりつつある。
- ・このように、地域の参画促進を行う存在として、若者の参画が積極的に行われるようであり、それがまち全体の変化を促している。

(20) 大学生の特性と参画の仕組み

- ・学生は基本的に半信や半信が発表であり、たとえ関心があっても参画活動への参画は難しいことが多い。其際、ゼミや多様な若者参画への参画も勧めた際も、参画が半信校などの学生で参画できなかった。関心がないわけではない。関心がある。
- ・ゼミでは、自身の地味自治体を対象に参画活動等を調べ、参画へのアポイントも取り、レポートを書くことを義務付けている。その参画の関心な問題なくでも参画も、参画の活動となると「何となく参加しなければならぬ」と思ってしまう傾向がある。これは学生に限らず、行政職員でも同様である。
- ・そのため、「一度だけの参画でもいい」という柔軟な参画のあり方を示すことが重要である。関わりが人によって異なり、例えば参画ボランティアに直接行けなくても、参画などの形で関わることも参画である。
- ・参画に関心はかえって人を送ることにになり、参画を促すようなことがあっても参画型である。それでは可能な範囲で、無理なく関わる場をつくるのが大切だと学生自身も考えている。

(21) 若者が参画するまちづくりへの中高生の関わり方

- ・80年代以降の世代が若者参画に関わることは有効であるが、「上から目線」ではなく、フラットな関係を持つことが不可欠である。香川県高松市のNPO法人 ecocura では、若者参画で参画するサマースタッフやボランティアで地元高校生へボランティアとして関わる「大学生インターン」という仕組みがある。このように、参画型をあらかじめ設計し、中高生はあまり前に出ず、だにここから参画が動かして見守る姿勢が重要。

※NPO法人 ecocura <https://www.ecocura.or.jp/>

(22) 大学生が少い地域における若者参画

・大学生が少ない自治体でも、高校生、専門学校生、地域に関心のある若者など多様な層を起点にできる。医療・看護系や福祉分野など、専門性のある若者と地域課題を統括する試みも有効である（鳥取県米子市では、看護専門学校があり、地域の保健に関わる取組に参画している例もある）。

(23) 勤務時間の一部を地域活動へ

・職員が勤務時間の一部を地域活動に充てるような制度（地域担当職員制度）が広がれば、自治体職員が地域づくりに主体的に関わっていくことが期待される。

以上

林 大輔 氏 (真岡市複合交流拠点施設 monaca 地域交流センター／元・真岡市議員)

(1) 高校生等の若者がまちづくりに参画する背景と課題意識

- ・平成 27 年調査では「住み続けたい」と答えた高校生は 33.3%であったが、令和元年調査では 17.8%にまで減少。
- ・市の総合計画では、市長が、「住み続けたいまちにすること」を最大の目標として掲げているが、現実には高校生の意識と乖離している。
- ・市内には大学がなく、高校卒業後は東京圏へ進学・就職するのが一般的となっており、地元を知らないまま外へ出れば、真岡市へ帰ってくる選択肢(動機)が生まれず、結果として地元企業よりも大手企業へ就職するケースが多い。
- ・公務員として地元に戻った際に、同級生がほとんど残っていない現実を憂感、高校時代に地域を知る機会があれば、帰郷の動機が生まれるのではないかと考えた。
- ・高校生の段階で地域を知り、関わることで、将来的に地元へ帰る選択肢を広げる機会になるのではないかと。

(2) 「まちつく」プロジェクトにおける大人の関わり方、役割

- ・大人が、高校生や大学生(若者)へ関わる基本的なゴールとして、若者の意見を否定せず、最後まで話を聞くことを徹底した。また、失敗しても良いからとにかくやってみることを大切にして、可能な限り成功体験につなげるように、大人が伴走する姿勢を共有した。
- ・「まちつく」へ関わる大人については、自らの経験を押し付けたり人々や、自體型の大人は排除し、若者を支え、後押しできる人材を厳選して集めた。
- ・若者は、19 歩先の未来は想像できないし、1 歩先でも嬉しいが、半歩先なら、実感を持って取り組むことができる。そのため、大人は、若者の想像の少し上(半歩先)の未来を描くように関わった。
- ・若者に対する関わり方については、宇都宮大学地域デザイン科学部の石井水一朗教授の助言を受けながら進めた(半歩先の未来を描くという考え方は、石井教授の教え)。
- ・大人が、若者の想像を超える関わり方をすることで、若者にとっての驚き、大人にとっての「ごい」という意識の変化にもつながる。
- ・高校生は、親や先生以外の大人との関わりを経験し、信頼できる大人の存在に気づく。そして、卒業後も、若者先の菊池や埼玉等から戻り、後輩の支援のために活動に参加する学生も出てきた。地元を離れてもプロジェクトに関わりたいという思いが芽生え、継続性、若者の信頼が生まれている。

(3) 若者がまちづくりに参画する意義

- 地域、大人にとっての意義
 - ・若者が主体的にまちづくりに関わることで、地域の大人は勇気づけられる。若者が頑張っているのに、自分たちは何もしてないのかという意識になり、目の色が変わる。
 - ・当初は、若者がまちづくりに関わることに対して、「どうせ高校生には無理」という話

- もあつたが、先入観が覆され、「高校生でもこれだけできる」との認識が広がった。
- ・例えば、商店街のシャッター街問題を、高校生に何とにかしてもらおうという相談を受けただけであるが、それは、本来、数十年前から商店街に開く大人が責任を持って取り組むべきことであり、若者にやらしてもらったことではない。若者の取組は、大人が果たしてこなかった責任を自覚させ、大人の行動を促すことにもつながる。

○行政だよっての意識

- ・若者の提案は「俺の御旗」となり、庁内調整や市民への説明において、説得力を与える。行政職員が単独で企画するよりも、学生提案として進める方が、実現性が高い。
- ・若者の声を生かすことで、行政は、若者と共にまちづくりを進める自治体というポジティブなイメージの獲得にもつながる。

(4) 若者と取組を進める上での工夫(場づくり・進行方法)

- 安心できる場のデザイン
 - ・会議室での形式的な進行(テーブルで島をつくり、機軸紙に付箋を貼りだしていくようなやり方)を避け、レジャーシートに座って話し合う。デザインが異なる椅子を並べる等、自由でフラットな雰囲気を出し、自分の考えや意見を言いやすい場づくりを意識した(機軸紙に付箋を貼っていくような進め方に若者は慣れずぎていて、関心を持たないことも多い)。
 - ・夏場に行ったまま暑さでは、ふり返りとして、簡易プールを設置を入れて、お菓子を準備しながら気楽に意見交換するなど、リラックスした雰囲気重視した。
 - ・いい意味で、「ちゃんとしなくても良い場所」、「自分を出しても良い場所」と思ってもらえるような場づくりができる。
 - ・会議等の場では、若者はちゃんとしなさいといけなさいという考えになりがちだが、そうすると、おまかせではないことが意見として出てきてしまう(本人は別に興味はないが、地域の問題解決をした方が良いといふ意見を出す等)。
- アイデアの引き出し方
 - ・自分の位置感を描くことから始めるなど、自然に会話を引き出すことに留意した。
 - ・例えば、「カフェが欲しい」といった抽象的な意見については、「どうしてそう思う?」「だれと過ごしたい?」「いつ行きたい?」といった深掘りをしていくことで、「放課後にお金をかけずに友達と過ごせる場所が欲しい」という本質的なニーズへ具体化させていった。
 - ・アイデア出しの話し合いの前半は、若者同士で質問し合い(大人が差しすぎると押しつけや圧を感じてしまうため)、お互いの本質的なニーズを探掘りしてもらい、ある程度、方向性が固まってきた後半に大人が加わり、実現可能性や規模感等の観点から、質問、助言を行い、企画内容を詰めていく流れで進めている。

○成功・失敗の考え

- ・若者の企画を実施した結果、上手くいくこともあれば、上手くいかないこともある。ただ、それは成功・失敗ということではなく、仮説検証のプロセスとして捉えている。継続的に取組を進めていき、上手くいかなければ、次は上手く行くように見直し、再度や

<p>ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、雨天で野外イベントをやれば、来場者が少なくなるのは当然だが、それは「失敗」ではなく、失敗の結果として次につなげる。行政調整の際にも、総合計画に基づき異議の一端として取り組む異議として説明し、理解を得られるようにした。 <p>(6) 大人の参画と母子ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちつく」に参画している大人は、ウェディングプランナー、カメラマン、一級建築士、建設会社の経営者など、地域の多様な人材が関わっている。 ・主に40代が中心で、40歳で青年会議所を卒業した後も、何か地域活動を続けたいという人々が中心となって取り組んでいる。 ・最初は、「自分でやった方が早い」と感じていた大人も、高校生のアイデアや取り組んだ成果に触れ、若者が関わることの価値を真感。一人で取り組むよりも、高校生が取り組んで成果を出した方が、「自分がやるよりも楽しい」と感じ、継続的に参画するようになった。 ・波及効果として、「まちつく」に参画した高校生が、地元企業や市役所に就職する事例も生まれている。 ・SNSや広報紙に、「まちつく」の活動が掲載されることで、若者の採用活動や地域の理解促進に寄与している。特に地方では、行政が発行する広報紙の影響力が強く、地域住民（特に高齢者）の活動の認知度が高まっている。 <p>(6) 若者と地域とのつながりの醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「串子屋トナツツ」という、若者が小学生に勉強を教える取組で、若者が地域の親子と知り合いになっていく。真面目から参画していた若者も、「まちつく」を通じて、真面目で知り合いが増えたことを実感しており、真面目にに対する愛着が生まれている。 ・「Inonca」ができたことで、「まちつく」の活動に広がりが出ていく。若者が「Inonca」にくると、友人と話したり、知り合った大人たちと会話を交わしたりしており、「Inonca」が、若者にとって、活動する場所、居心地の良い場所として機能し始めている。 ・地域で世間話ができるような関係性が増えていくことで、行政に対する不満やクレームの減少にもつながるのではないか（クレームは、個人的な不安、思い込み等に起因することも少なくなく、地域に知り合いが増え、話せる相手ができることで、クレームにまで至らないこともでてくると思われる）。 <p>(7) 行政に求められる役割</p> <p>○行政の責務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民ワークショップ等で、若者から意見を聞いた、それら意見をどう反映したのかわからないようなこともよくあるが、意見を聞いた以上は、どの意見をどう実現させるか考えるのは大人の責任であり、行政として責務が必要。 ・そのような覚悟を持って取り組まなければ、若者に対して失望を与えかねない。 ・行政は、広報紙等のメディアを活用して、市民や企業等に対して、取組を発信できるこ 	<p>とが可能で、個人や民間には難しい「信用」と「実力」を持っている。また、河川敷や文化施設の活用等では、行政が活用できるよう支援することで、若者の主体的な活動を後押しできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政にとっても、若者一緒に行政がまちづくりを推進しているという姿勢は、市民への説明や理解促進にも有効であり、市のブランディングにもつながる。 <p>○上手く行かなかった事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、「まちつく」の若者の参加者が急減している（今年度の申し込みが約40名に対し、ワークショップ参加者が2〜3名となっている）。 ・ワークショップでは、「アイデアを1人5以上出す」、「活動場所を3つに絞り、均等に人数を分ける」等、行政が進め方を細部まで決め、若者の意思に関係なく、チームや活動内容を割り振った。 ・このような進め方は、学校の授業やクラス替え等と変わらず、若者の意志の尊重、自由度の高さが奪われ、参加意欲が失われたと考えられる。 ・本来は、行政として、選択肢を提示することが重要で、選ぶのは若者側であるべき。活動を3つに絞ること自体は問題ではないが、どこに参画したいかを若者に委ねる必要があった。 ・均等に人員を割り振ることが目的化し、取組によって成果を出すという本来の目標が見失われてしまったと考えられる。 <p>○若者、民間を信じる、委ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちつく」の進め方に關して、行政として、「しっかり自分たちで進めなければいけない」、「失敗は許されない」という思いが強すぎたことが大きな原因の一つではないか。 ・本来は、若者の自由な発想力や行動力、民間の知見や技術等を生かし、行政の不得意な部分は、若者や民間を信じて、委ねる（力をかりる）ことが必要だと考える。 <p>(8) 行政内部の合意形成の難しさ、工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、河川敷や文化財を活用した取組を進めるにあたり、庁内では、「やっても自分の成果に直結しない」、「管理が大変になる」等の理由で消極的な反応が多かった。 ・「まちつく」でまとまった若者の提案は、総合計画の目的を達するための取組であり、その一環としての社会貢献と位置づけた。そのため、個別のイベント（社会貢献）で成果を評価するのはあまり意味がなく、継続的に仮説検証を行っていくことが重要という考え方を示した。これにより、反対されにくい雰囲気をつくり、庁内の承認を得やすくなった。 <p>(9) 市民主体でまちづくりを進める必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画のように、「みんなが生きたいまち」では、誰の思いも込められず、共感も得にくく、自分ごとになりにくい。「私が生きたいまち」として、主権を自分自身することで、主体的な関わりや共感につながる。 ・行政に対して、「スタッフが欲しい」、「エスカレーターが必要」といった要望は多いが、
--	---

そこから「本当に必要なものは何か」を個人視点で掘り下げることで、本当に必要なニーズに近づくことができる。

- ・行政まかせではなく、市民が自らまちづくりに参画していく、まちづくりの主体性と認識してもらうことが大切だと考えている。

(10) 若者募集とPRの工夫

- ・「まちつく」の1年目は、参加者募集に大変苦労した。SNS、高校へのチラシの配布、市の広報紙等、あらゆる手段を使い、何とか20名の参加者を得て、「まちつく」への参画が実りあるものとして思ってもらえるように、丁寧に描めた(1年目は高校の了承を得て参加してもらった)。
- ・1年目の取組では、河川敷が多くの人で賑わった「ビクニックマルシェ」の経験等、成果や達成感を共有した参加者が、口コミで広げてくれたこともあり、2年目以降は応募が増加した(2年目以降は高校生個人としての参加)。特に真岡女子校からの参加が大幅に増え、継続的な参加につながっている。
- ・SNS運用に関しては、活動の準備段階からプロセスを発信し、期待感を醸成と、ファンをつくり上げていくことが重要。

(11) 若者と関わる難しさ

- ・若者が本音を言わないことが多い。大人教の場では意見を出しにくいいため、LINEのオンラインチャットを使うなど工夫したが、完全には解決できていない。
- ・ワークショップ等で、若者の反応が薄い場合は、スケジュールを柔軟に変更し、まち歩きへ変更する等の軌道修正を行った。
- ・毎回、試行錯誤して取り組んでいるが、上手くいかないと感じることの方が多い。
- ・若者にとって、活動の「継続」よりも、そこに至るまでの「プロセス」が共有されることが重要。この「プロセス」を通じて、若者の達成感や主体性、大人との信頼関係の醸成につながると考えている。

(12) 行政の制約と継続性の担保

- ・行政は、担当者の異動があり、どうしてもノウハウの蓄積や継続性が阻害される。
- ・前任者から引き継ぎ場合、これまでの取組内容や実績等しが情報がないため、同様のことをやるといった発想に陥りがちだが、それだけでは難しい。新たな担当者が課題を抱え込み、結果的に運営が停滞することもある。
- ・行政の不得意な部分は、民間やNPOに委ねる仕組みが不可欠であり、行政は活動場所や資材等の提供、活動の広報等、取組自体を支える裏方に特化することが、継続性を担保する一つの形だと考える(もちろん、民間への丸投げはNO)。

(13) 地域住民の関わり方

- ・地域からの支援はありがたい一方、「押し付け」にならない距離感も重要。例えば若者であっても、若者の企画意図と合わない場合は逆効果になってしまう(マルシェで赤飯を

ふるまう等)。

- ・「熱烈な賛成」も「強い反対」もなく、程よい距離感で見守ってくれることが、結果的に活動を進めやすかった。学生に過度な期待をせず、ほどよく見守ることが重要ではないか。

(14) 若者との関係性づくり

- ・年齢・性別・立場の異なる様々の大人が関わることが重要かもしれない。若者が、「この人なら相談できる」と思えるチャネルを複数用意することで、様々な若者の思いや考えを伝える可能性がある。そういう意味では、「まちつく」には様々な大人が関わって、上手く機能していたと思う。
- ・地域おこし協力隊出身の20代女性スタッフは、高校生と親しい関係を築いており、プロジェクトの中心的役割を果たしている(高校生と一緒にスイーツを売りに行くことも)。
- ・このような活動では、若者と大人は、「上下」ではなく「対等」な関係を築くことが重要かもしれない。鯖江市の仄藤では、まずは、高校生から「ため口」で話しかけられるのが第一関門との話も聞いた。(調査員)

(15) 行政から民間への移行と今後の展望

- ・「まちつく」は、行政運営による運営が限界となり、直営から民間委託への移行が決定した。
- ・今後は民間に委ね、行政は資金や場所の提供等に特化し、支援を継続。
- ・活動の受け皿として、「まちつく」のNPOの他に、一般社団法人を2023年10月に設立(一般社団法人つむぐ)。
- ・一般社団法人つむぐは、市民を中心とした運営委員会のようなものを設立し、現在は民間が委託している「monaca」の指定管理の一部を段階的に移管していく構想を持っている。そして、民間の指定管理が終了する2040年に向け、市民自身が運営を担う仕組みを整備していく。
- ・消費者ではなく生産者としての市民参画を実現し、まち自体を住民が運営していく形を目指す。
- ・「まちつく」の取組は、これらへつなげるための布石(土台づくり)としても機能していた。

以上

松下 啓一 氏 (地方自治研究者・政策提案家)

(1) 若者世代のまちづくりへの参画に関する取組について

● 若者世代がまちづくりへ参画する必要性

- ・日本の地方自治法は昭和22年にできたものであり、行政主導型 (市民の本業型) の構造となっている。そのため、住民は意見や要望を述べる一方で、その実行は行政に委ねるという状況に慣れ込んでいる。この構造は、あくまで人口増加が続いていた昭和の時代だからこそ成り立っていたものであり、人口減少に転じ、少子高齢化が進む現在の我が国において生み出されたものである。
- ・上記の法制度が生まれ始めた昭和の時代は、例えば不動産に価値があったため空き家問題という概念はなく、また、認知症の高齢者の暮らしは家族で支える時代であり、孤児院もなかった。しかし、人口激減に転じ、人口構成が大きく変化している令和の時代においては、行政主導型や家族で支える構造が崩壊しつつあり、従来の「要求型」では地域の課題を解決できない状況となっている。
- ・このような中、「要求型」ではなく「まちづくりを自ら考え行動する」社会が求められており、その中で若者がどうあるべきかを考えることが大切である。
- ・若者は「要求型」のスタンスを壊している傾向がある。自ら考えてまちづくりへ関わっていくために、まちに関心を持つたり、人に興味を持つたりできる機会や方向性が必要。

● 若者世代がまちづくりへ参画することの意義、留意点

- ・若者がまちづくりに参画する意義は、単に地域を輝やかにする存在として利用されることではない。大人が若者を「上手く使おう」とする姿勢は、若者に見放され、逆に離れていってしまうことに繋がりがわかない。真の意義は、若者自身が地域や社会の持続性を支える担い手として成長し、人格的な自立 (多様な立場や意見を持つ人たちと切磋琢磨しながら自分を磨いていく、大人になるためのプロセス) の機会をもつことにある。
- ・若者のまちづくりへの参画は、地域の課題解決に貢献する活動であると同時に、若者自身が社会の一員として自分の立ち位置を自覚し、社会的な視点を身につけていくプロセスである。これは、個人の尊厳を基礎とした主権者教育でもあり、民主主義社会において非常に重要な意義であるといえる。
- ・また、若者参画を進める際には、行政や地域の側が若者を単なる労働力としてではなく、「共に地域をつくるパートナー」として位置づけることが留意点として挙げられる。若者参画は、支援の延長線上ではなく、協働のプロセスとして設計されるべきである。若者に「何かをやらせる」とか「成果を出させる」といったことが目的化するのではなく、若者の主体性を損なう恐れがある。行政には、若者の声や行動を受け止め、たとえ失敗があっても、それを学びの過程として変えていく姿勢が求められる。
- ・若者参画の取組において短期的な成果を求めると、若者の試行錯誤や関係性の構築といった大切な過程が失われてしまう。むしろ、時間をかけて学び合い、地域や大人と関わりながら、社会とつながる感覚を育てることこそ価値を見出すべきである。
- ・若者がまちづくりに参画することは、新たな発想や価値が地域にもたらされるということ

とである。そのため若者を、社会を構成する重要な主体であり、価値ある資源として捉えることが求められる。

● 新時代参画の経験から得たこと

- ・若者参画の活動には、若者が大人へと成長していくプロセス (人格形成、社会的自立等) としての機能が備わっている。また、参画することで地域への愛着も高まる。若者参画の経験前後で政治への関心も高まっており、主権者教育の効果もあると考える。若者に係る参画は、単に目で見え、良い大人になるための施策としてとらえることが大切。
- ・総合参画における位置づけ (どのような目的や効果が期待されているのか) や、費用対効果 (予算で見込めるのか) 等、行政の事業の仕組みを学ぶ機会にもなっている。実際に取組の中で、自分たちが考えた施策を再現するためには予算要求が必要という意見も若者から出てきた。
- ・定住効果は期待できない。

● 若者世代に期待される役割

- ・若者に期待されるのは、固定化した地域社会の価値観に新しい風を吹き込む役割である。特に、世代間で物の見方や生活様式が大きく異なる現代において、若者は地域の未来像を再構築する存在となり得る。彼らは柔軟な発想を持ち、デジタル技術や SNS の活用にも長けている。
- ・例えば、商店街の活性化や空き家の活用を考える際に、若者は「この場所をどう使うか」というヘッド面よりも、「誰と一緒にやるか」、「そこにどのような人の関わりが生まれるか」といった点に関心を持つ傾向がある。つまり、若問そのものよりも、人と人との関係のデザインに目を向けている。この点は、大人や行政の考え方は異なっている。従来の行革的なまちづくりが、施設やイベントといった、目に見える「形」を整える方向に偏りがちなのに対し、若者は人と人のつながりの中でまちを住まえている。こうした若者の発想が加わることで、これまでになかった新しい価値や意味づけが地域に生まれてくるのだと思う。
- ・また、ある地域でまちづくりに関するワークショップを実施した際、相模女子大の学生を連れていった。すると、普段はクレーンを言いがちな地域の大人が、若者がいる前と異なるともあってか、提案を出し始めたという場面があった。そこも、若者の力だと感じ、同時に「大人参画」であると伝える。若者のまちづくり参画を通じて、若者を過小評価していたり、疑った理解をしていたりする大人の意識や行動が変わっていくことも期待されている。
- ・ただ一方で、若者に過度な責任を背負わせてしまおうのはよくない。彼らはまちづくりのリーダーというよりも、地域の多様な構成員のひとりとして関わるのが自然である。若者の意見やアイデアは、ときに長期に見えるかもしれないが、その中には地域の未来を切り拓く可能性がある。だからこそ、大人世代がそれを受け止め、具現化を支える仕組みや姿勢を改善しておくことが重要である。若者が自分の考えを試しながら、地域の課題を「自分ごと」として感じられるようになることが、参画の第一歩だと考える。参画が益

えを出す必要はなく、「考えてみる」「やってみる」というプロセスそのものが価値がある。そうした経験を重ねることで、結果的に地域に新しいエネルギーがもたらされる。

- ・若者の活躍の場を充実させていくためにも、企業等への働きかけは重要である。企業等には、若者に対して魅力的な課題やテーマを提供できるよう、若者が参画することは企業にとってもメリットとなる（地元企業の PR 活動を若者が企画・運営する等）、また、企業への就職につながることもあり、相互に win-win の関係となる。

● 若者世代が地域と関係性をつくっていく上での課題

- ・現代の若者は、学校や職場といった枠組みの中では活動しているものの、地域社会という文脈では関係性が希薄である。そのため、地域活動は生活の延長線上に位置づけにくい。このような社会構造の中では、若者が地域と関わりをもちたいとしても、どこから関われたいかわからず、最初の一手を踏み出せない。
- ・また、教育や就労の制度が緩弱で、地域活動と接続する仕組みがないことも課題である。学校教育の中では地域との感動学習がまだ十分ではなく、社会に出る前に地域に関わる経験を持たないまま大人になるケースが多い。そのため、地域との間に心理的な距離が生まれてしまう。
- ・一度活動へ参加してくれた若者は絶対に通さないことが大切。継続して参加してもらえないような仕掛けが求められる。「新城市若者委員会」の「新城市若者委員会連盟（若者委員会の OB・OG が所属）」は、若者のステータップアップや実践の場をつくるといった観点から良い仕組みである。
- ・若者は困っていないとみなされがちであり、政策課題として設定が難しい面がある。しかし、昭和の時代とは異なり、資金は上がりにくく、将来的には社会の支え手としての集団も大きくなる中で、若い世代は将来に希望を捨てるのが難しく、つらい状況にある。一般的に、ポトムアップで若者政策をつくっていくことは困難であり、トップダウンでなければ進みにくいのが現状。

● 若者世代のまちづくりへの参画を上手に進めるポイント

- ・若者参画を上手に進めるためには、若者が関わりたくなくなる虞慮が必要である。それは、安心して参画できる、居心地が良いことであり、そのためには「自分が認められる」、「色々な人と関き合える」といったことが必要となる。
- ・若者と関わり、若者のまちづくり参画を進める上で、異文化交流と捉えると分かりやすい。今の大人とは考え方や感性、価値観等が全く異なっており、それを前提として受け入れて取り組んでいくことが求められる。
- ・若者にとっての「Win」をしっかり用意することが必要である。若者にとっての「Win」とは、自分の成長やバージョンアップ（人前で話せるようになった、色々な人たちの考えを知ることができた等）である（大学進学や就職等でのインセンティブもあるが、それはあくまで結果である）。
- ・若者には、そこに居てくれるだけで場を楽しくする方がある。成功や成果を求めすぎないことが大切である。

- ・若者の働きやアイデアを実際に形にしていくことが重要である。ただ提案を受け止めるだけでなく、小さなことでも実現し、地域の中で可視化することで、若者自身が「自分の意思が地域を変えた」という実績を得ることができ、こうした経験の積み重ねが、継続的な参画意欲につながる。

● 取組を継続するにあたっての課題

- ・若者参画の取組を継続する上では、人が入れ替わることを前提とした仕組みをつくることが欠かせない。若者は卒業や就職、転居などによって取組への関わり方が変化するため、固定メンバー制では長続きしない。個人の熱意や偶然のつながりに依存せず、次の世代へ自然に引き継がれるような制度設計が必要である。
- ・行政内部においても、担当職員が異動してもノウハウが失われぬよう、取組の目的・記録・成果をきちんと文書化することが求められる。特に、若者の活動に関する成果は定量化しにくいものが多いため、事例やストーリーとして共有する仕組みを整えることが有効である。

(2) 多摩・高しよ地域における若者世代のまちづくりへの参画の考え方について

● 多摩・高しよ地域の特性

- ・多摩、高しよ地域は、都市近郊と離島を併せ持つため、地理的・社会的条件が非常に多様である。多摩地域は都市近郊として人口規模が大きいが、高しよ地域では過疎化が進み、地味の担い手不足が顕著である。
- ・多摩地域において、大学が多小エリアは18歳の若者の転入超過が起こっている一方、23歳で転出超過となっている。
- ・地域においては、顔の見える関係が保たれている一方で、新しい人や外部の考え方が入りにくい側面もある。特に高しよ地域では、交通や通信環境の制約があることから、若者が外部との差点を持ちにくい。しかしその一方で、地域には自然や文化、伝統が濃密に残されており、これらを活かした活動の余地は大きい。

● 高しよ地域における若者のまちづくり参画のあり方

- ・高しよ地域における若者参画には、地域内にとどまることと、地域外とつながることの両方が重要である。地域外とのネットワークを持つことで、狭い範囲に閉じこもることなく、外からの刺激を地域に還元することができる。オンライン会議や交流プログラムなどを活用し、他地域の若者とのつながりを広げることが有効である。
- ・また、リターンや I ターンで地域に戻ってきた若者が、外で得た知識や経験を地域に還元するケースも増えている。地域がこうした若者を受け入れ、その活動を支える体制を整えることで、高しよ地域の持続可能性は高まっていく。若者が地域の未来の担い手となるためには、自由に活動できる環境と、それを温かく見守る地域の厚みの両方が求められる。
- ・千葉県御宿町では、50 歳までを若者として、まちづくりを進める取組を行っている。対象とする若者は、地域の人口構成や状況に応じて異なっていくことは当然である。

<p>(3) 自治体、地域に求められるスタンス、取組等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行政に求められる役割・役割 <ul style="list-style-type: none"> ・行政として、若者の参画を促すためには、制度や予算の枠内で管理するのではなく、柔軟に支離し、地域との関係や若者同士の関係を感かすフシリテーターとして機能する必要がある。若者を動かすのではなく、自由に動ける環境を整えることが求められる。安易に若者を手早く使おうと思っても、見透かされて失敗する。若者がまちづくりに参画する意義や必要性をしっかりと理解した上で、取り組むことが重要である。 ・市内では、若者施策を特定の部署の担当業務とせず、全庁的なテーマとして扱うことが求められる。教育や福祉、産業、地域振興など各部門が連携し、若者の参画が地域の未来をつくっていくという共通認識が持てると思う。 ・若者にメンターとして関わる担当職員にとっても、若者や市の予算に關することなどを肌で感じる貴重な機会であり、非常に良い訓練となる。 ・若者が政策課題となりにくい大きな理由の一つに、市長や機会がその気にならないことが挙げられる(票につながらない)。 ・若者施策は弱事業である。報酬とは、市民もまちの当事者となることであり、若者も当然まちづくりの主体となる。行政や地域は、昭和の時代の感覚のまま止まっただけで、若者がまちづくりに参画する本質について首長や部長も学ぶ必要がある。 ・行政や地域に求められるのは、若者がいつでもまちづくりに参画できる機会を用意し、成長していく余裕を余白をつくることである。 ● 若者世代を受け入れる地域のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・地域も、若者を特別な存在として扱うのではなく、地域の一員として迎える姿勢が重要である。若者が地域に入るとき、距離を置かず、一緒に考える仲間として関わることで、信頼関係が生まれる。 ・また、従来の地域組織に無理に若者を当てはめるのではなく、オンライン活動や短期的な関与など、多様な参加形態を認める柔軟性も求められる。地域が変化に開かれていくこと自体が、若者にとって関わりやすい環境になる。 ● 効果の測定・検証方法 <ul style="list-style-type: none"> ・若者参画の効果は、参加人数や事業数といった量的な指標ではなく、若者自身の成長や市民サービスの向上にどれだけつながったか等で示せると良い(例えば、若者が参画したこと、防犯や福祉に関わるサービスや制度がどれだけ向上したか等)。 ・若者が考えた施策というだけで、優先度が高い施策になってしまいうことは懸念事項である。あくまで市民ニーズに基づき施策の優先度が高くなることが基本であり、結果をしっかりと精査する仕組みが求められる。 ・若者が提案した施策が、本当に若者の思いを反映したものなのか、根拠を持って説明することは非常に難しい。若者が政策を提案する前に、その内容を公表して、若者から「いいね」をもらう等、若者のニーズがある程度顕在化されることで、民主性がある程 	<p>度保たれるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事異動で担当者が変わると、当初に設定していた取組の意義や目的等が見失われることもあるため、本来の目的や意義に立ち返るプロセスが必要になる。 ・行政停年の枠組みの中で、若者の成長の軌跡を記録・共有できる仕組みができると良いと思う。若者が自ら活動を振り返り、言語化する過程そのものが、学びや次世代の成長へつながっていく。 <p>以上</p>
---	---

対談者：木村 紀彦（慶應義塾大学 SFC 研究所 上席研究員）

● 木村氏のまちづくりへの参画に関する取組について

- ・木村氏は、慶應義塾大学 SFC 研究所「ゆるいコミュニケーション・ラボ」において、実践的な取組を通じて、自ら学び成長していくというプロセスに着目して研究活動を進めている。
- ・面白いと思うことを実際にやってみる、チャレンジしてみることを応援できるコミュニケーションをつくることを、実験的なプロジェクトを通して取り組んでいる。（課題解決のためには、地域の活性化のためなどといったことは前提としていない）
- ・木村氏も研究の一環として関与した「鯖江市役所 京藤」では、特定の成果を生み出すことを目的とはせず、女子高校生に主導権を委ね、自由に過ごす中で生まれる疑問や関心を起点として、まちとの関わりが形成されていく過程を重視した場として運営されている。
- ・例えば消防署と連携した「日暮身体験を行った際には、あらかじめ用意された体験内容よりも、「はじめてのことはどこまで怖がるのか」という疑問に関心が集まった。その結果、参加者自らの関心を起点として、実際にほしご車に乗る体験へと活動が開闊していった。
- ・また、自衛隊基地と連携した際には、「自衛隊って制服の印象から怖いイメージがあるよね」という素朴な印象をきっかけに、業務外の私服姿を見ることができたりも持っていた（「怖くない」という関心から、自衛隊員の私服ファッションショーを行うということもあった）（結局、私服も迷彩服というオチもあった）。
- ・このような活動を通して、高校生は、「大人も同じ人間なんだ」、「話してみたら結構面白い」、「こんな人がまちにいるんだ」といった気づきにつながり、互い興味や学びにつながっている。
- ・京藤という実験的なプロジェクトを通して、本人が「まちづくりとは何か」を考えたがり、目指すべき成果をあらかじめ用意したりしなくても、若者世代を担いで任せることで、自分たちから生まれる疑問や関心を起点に実践を重ねていくことが可能であり、その実践の過程が、本人たちがまちについて考えていく学びのプロセスになることを示すことができた。
- ・また、京藤の活動を通じて、「まちづくり」や「課題解決」を前面に掲げなくとも、若者世代がまちの人と出会い、資源を活用する中で、面白い出来事が偶発的に生まれ、結果的にまちにつながる動きが生まれる可能性が示唆された。
- ・その気づきを持って、新潟県南市と連携して、高校生が主体となって活動する「燕井校 所まちあそび部」としての取組を開始した。本プロジェクトでは、「まちづくり」や「課題解決」を前面に掲げるのではなく、まちの資源を活用して遊びを企画する「まちあそび」を通じて、若者がまちに関わる機会を創出することを実践している。
- ・まちあそび部では、これまで関わる機会がなかったまちの人と若者が、一緒に活動することを通じて関係をつくっていく点が重視されている。本プロジェクトに関わる行政職

員は、部員である高校生たちとともに考え、地域の人や団体と協力しながら活動を支援する役割を担っている。例えば、ご当地キャラクターと一緒にバスケットボールをした。ラーメン店など地域の人と関わりながら活動を行ったりする中で、結果として新たな関係が生まれていく。

- ・より広い年代を対象とした取組として、福井県と慶應義塾大学 SFC 研究所との共同研究事業として「エキセントリック・ガレッジふくい」を実施している。本事業は、高校生から 40 歳未満までの若者を対象に、地域におけるチャレンジ活動を応援することを目的とした実験的な取組であり、これまで 3 年間にわたり、県内外から約 100 人が参加してきた。
- ・その過程で、集った若者たちがお互いのズレや異質さをおもしろがり、内なる語りや違和感を深め合うことができるとも土壌が育まれてきた。そうした関係性を起点として、福井に根ざした新しいビジネスや地域活動、場づくり、芸術活動など多様な実践が生まれ、参加者同士の間につながりから、「福井の新しい若者文化」とも呼べる動きが芽生えつつある。

● 取組のきっかけ

- ・地域の課題解決（マイノリティをゼロにする）に向けた事業は一定の効果がある一方で、それだけではまちの魅力や楽しさが若者世代に実感されにくいのではないかと、という問題意識を持つ自治体も多い。
- ・とくに高校生くらいの年代では、地域課題を直接問いかけても生活実感と結びつきにくく、関心や主体的な関わりが生まれにくい。そのため、課題解決とは異なる入り口から関わりをつくる必要があるという問題意識もある。
- ・そこで、個別の課題解決に取り組むこと以上に、若者がまちと関わる機会を増やしたり、まちの中でできることを増やしたりすることで、まちとの関係性そのものを変化させていくことを重視したいという考え方が背景にあり、そのような考え方を共有する自治体と連携してきた。

● 若者の特性

- ・まちあそび部の活動を通して、高校生は大人に対して偶然とした怖さを感じており、普遍的に嫌う大人は、親と先生に課せられることが多いことが多かった。高校生が日常的に嫌う大人は、親と先生に課せられることが多いことが多く、それ以外の大人と嫌う機会に乏しいため、大人がどのような年代なのかを要感をもってイメージしにくい状況にある。そうした背景から、まちあそび部のような活動を通して、普遍化する必要がない大人と出会い、一緒に何かに取り組む機会が大事になる。
- ・まちあそび部の活動を通じて、「大人の印象は活動に関わる前後で変わったか」と尋ねた際に、「大人への印象は変わらないが、関わった人にピンポイントで合うようにはなった」と答えにくかったが印象に残っている。「大人」という要素とした存在ではなく、自分が関わり、一緒に活動した具体的な人を通して大人を捉えることの重要性を教えてくれたと感じている。

- 例えば、高校生の「スマホでカッコいい写真を撮ってみたい」という声をきっかけに、燕市で地域の写真家とともにまちあそびに取り組みだ事例がある。活動を一緒に進める中で、その人が写真以外にもさまざまな関心や得意なことを持っていることが自然と共有され、そうしやり取りを通じて、次の交流、さらにその先の交友へと関係が広がっていった。この事例は、一緒に何かに取り組みたいと自分が、人と人との関係を少しずつ形づくっていくことを示すものとして印象的であった。
- このように、活動を通してお互いの関係性が形成されると、高校生と大人という区別もとづく関係から、一人の同士の関係として強くなるようになっていく。
- 一概に、高校生は家と学校を往復する生活が中心になりやすくて、まちは日常の風景として通り過ぎる存在にとどまりがちである。そのため、大学進学等で市外へ転出する際には、「地元の名産品を何かをした」という記憶が残っていないことが多い。これは結果として、地元に残りたいという気持ちのよりどころとなる記憶が形成されていない状態と言えらる。
- まちあそび部では、まちの人と一緒に活動する経験を通して、まちに関する具体的な記憶をつくることを重視しており、高校生と「思い出をたくさんつくろう」という語をよくしている。活動を通して出会うまちの人が増えることで、若者世代のまちに関する思い出が豊かになることを目指している。

● 若者世代がまちづくりに参画することの意義、留意点

- 若者がまちづくりに関わることの意義は、自分が暮らすまちとどのようなように関わっているかを見つめ直し、自分と地域との関係性や接点を発見することにあると考えている。
- 既に述べたように、高校生世代の生活の場は家と学校が中心になりやすいため、「まち」という感覚が希薄になりがちである。そのため、まちあそび部のような活動で留意しているのは、「学校と家ではできないこと」に取り組みたいという点である。そのような取り組みが、まちとまちとの関係性を見つめ直せるきっかけになると考えていた。
- また、自分とまちとの関係性を「課題解決」という枠組みに留めないことも、留意していた。まちとの接点は、もともと多様に持っていたという考えが背景にあった。そのため、初めから地域のために何かをするという目的意識を若者世代に求める必要はないと考えている。「なんとなく楽しそうだからやらしてみよう」、「友達が誘われたから参加してみた」といった趣いきっかけで十分であり、そのような動機で関わることがむしろ自然ではないが、
- 参加の動機がそのような趣いのも、活動を通して地域の大人と出会い、自分のアイディアが受け止められたり、実際に形になっていったりする経験を積み重ねることで、自分の中で面白さや達成感が生まれ、「まち」という存在が自分ごととして異感であるようになる。
- 若者と関わる際の留意点としては、行政や地域の側が、理想の若者像や、「眼福解決」してくれる「まちづくりはこうあるべき」といった枠を決めないことが重要だと考えている。大人から教わったり指示されたりして、若者がそれに応えるという構図では、学校と変わらない経験になってしまふ。むしろ、自分たちで考えて動いていよと思えるブ

プロジェクト設計が重要である。自分たちが考えたことに、まちが応えてくれるという関係が、よしまちに関わろうという動機をつくっていくのではないかな。

● 若者世代がもち

- 若者の役割は、まちと「契機的に関わる」ことができる点にあると考えている。ここでいう「契機的」とは、「この場所でこんなことをしたらどうなるか」「この人たちと一緒になにかをしたらどのような反応が生まれるか」といった好奇心をもとに、契機にやってみる姿勢を指している。
- そのような契機的な関わりを通して、まちの資源や人の新たな側面が引き出される。想定していかなかった関係や展開が生まれていく。試しにやってみることや、うまくいかなければやり直せるといった前提が大切にされてきた点は、これまでの取組に共通している。
- 若者がまちの中で契機的に動く姿が見えることで、それを見た大人たちが「こんな関わり方もあるのか」「このまちでこんなことをしてみたいのか」と刺激を受ける。若者が試行錯誤しながら関わられる姿が、地域全体の変化を後押しするのではないかと考えている。

● 若者が地域と関係性をつくっていく上での課題

- 大きな課題として、若者が地域に関わる機会そのものが非常に少ないということが挙げられる。特に高校生や大学生にとって、地域は日常の延長線上に位置づけられにくく、家と学校の間の往復で日々の生活が完結してしまいがち。その結果、地域との接点をまずまず持ちにくくなり、地域の中で「自分の居場所がある」と感じられる層も持ちにくくなる。
- プロジェクトを通じて見えてきたのは、若者にとってのまちとの関係は、活動の規模や内容の大きさによって生まれるというよりも、ちょっとした関わりであっても契機に関わってみたいと自分で重要だと意識することである。例えば、地域の農家さんと連携して一緒にカレーをつくって食べる中で、何気ない会話を交わすといった関わりである。こうした小さな活動であっても、まちとの接点になっていく。
- また、そうした関係は一度きりの関わりではなく、同じ人と関わり続ける中で少しずつ形づくられていくことも見えてきた。小さな関わりが重なっていくことで関係が生まれ、その関係性が次の行動や関わりへとつながっていく。
- 一方、地域や大人の側にも意識の転換が求められる。若者を教える対象として見られるのではなく、一緒に活動する仲間として見ることが重要。若者が途中で投げ出したリ、失敗したりしても、それをすぐにダメだと捉えず、うまくいかなかったら一緒に学び直しを受け止め一緒に考えていく姿勢が求められる。

● 若者のまちづくりの歩みを上手く進めるポイント

- 若者に対して、上から教えるのではなく、側に並んで一緒に考え、話し、動いてくれるような大人の存在は重要である。これまでの活動では、プロジェクトを担当する行政職員がその役割を担ってきた。「この人は一緒に活動する仲間だ」と感じられる存在がいる

と、若者は自分の意見を安心して言うようになり、組織もしやすくなる。

- ・また、若者一人ひとりに対して、形式的ではない関心を向けることも重要である。若者と話すために用意された話題や、一斉論としての「若者理解」ではなく、目の前にいる本人に対して関心を持っているという姿勢で関わりなければ、関係は深まりにくい。
- ・本人に対し、若者を「高校生」とひとくくりにするのではなく、一人のひととして捉え、その人自身の関心や特長に目を向けた関わりが求められる。自分自身に付けられた関心だと感じられることで、安心して話し、自分の考えや気持ちも共有しやすくなる。ところが、プロジェクトを通じて実感されてきた。
- ・企画で連携する地域の大人との関係を築いていく上では、関わりを一度きりで終わらせないことが重要である。そのため、活動の中では、単発の協力関係にとどまらず、「また次も一緒にやってみよう」と言えるような関係が生まれることを意識してきた。
- ・活動には、毎回多くの若者が集まるとは限らず、メンバーが少ない日や、一人だけしか参加できないという日もありうる。プロジェクト担当職員は、そのような場面でも人数は一着一着少ないのではなく、その場に来てくれたメンバーと向き合い、一緒に考え、何かに取り組むことが欠かせない。

● **取組を継続するにあたっての課題**

- ・行政は事業として予算を動かす以上、年度内の成果や報告を求められる。一方で、人との関係性や若者の変化・成長は、年度単位で見るとは限らない。実際のプロジェクトでは、参加当初には目立った変化が見られなかった高校生が、2～3年の関わりを経て大きく成長する姿が見られることも多かった。そのため、短期的な成果だけでなく、複数年にわたって関わり続けることを前提とした仕組みや視野が必要だと感じている。
- ・もう一つの課題として、担当職員の異動が挙げられる。行政では人事異動が避けられないが、担当者が代わることで、これまで築いてきた関係性が弱まってしまうこともある。そのため、可能な限数の職員が関わりながら、誰かが抜けても関係が残るような体制をつくることも重要になる。
- ・あわせて、成果をどのように捉えるかという点も課題である。若者の態度や関係性の変化は、「何人が参加したか」といった数値だけでは捉えにくい側面がある。参加者の関わり方の変化や、どのような関係が生まれたのか、誰がどのように成長していったのかといった質的な視点を含めて評価していくことが望ましいと考えている。

(2) **多摩・高しよ地域における若者世代のまちづくりへの参画の考え方について**

- ・燕市での取組を通して見えてきたのは、若者が一度まちを離れたとしても、その関係性が完全に切れてしまわずに継続して関わり続けることである。まちあそび部では、大学進学などで市外に出たメンバーが、長期休暇の時期に地域のイベントやプロジェクトに関わりたり、東京で開催されるイベントに燕市が出展した際に再び集まったたりするなど、関係が緩やかに継続してきた。
- ・こうした経緯を踏まえると、高しよ地域のように人口が限られている地域においても、

若者が地域を離れること自体を必ずしも否定的に捉える必要はないと考えられる。むしろ、外に出た経験を持つ若者が、折に触れて地域と関わり続けることができる関係性を、どのように仕組みとして蓄えていくかが重要になる。

- ・また、若者と地域との関係を考える際には、地域の伝統産業や歴史の価値を一時的に捉えることよりも、若者自身の暮らしや関心を起点に、まちを理解していくプロセスが大切であると感じている。地域の産業や文化が、若者の生活実感と結びつかないまま語られても、関心につながりにくい場合が多い。
- ・その意味では、まちあそび部のように、若者が地域の大人と関わったり、身近な地域資源を使って何かを試してみたりする活動は、若者部が地力かといった地域性の違いにかかわらず、高しよ地域においても有効なアプローチになり得るのではないかと考えている。

(3) **自治体、地域に求められるスタンス、取組等について**

● **若者世代のまちづくりへの参画において、行政に求められる取組、役割**

- ・若者から見れば、行政は日常生活の中で接点が少ない、心理的に距離のある存在として受け取られがちである。そのため、まずは「行政職員」としてではなく、一人のひととして関わる姿勢が必要である。例えば、行政職員がイベントに一緒に参加し、ともに楽しんだり、雑談を交えて話しかけたりするような関係づくりが出発点である。そのような関わりがあった上で、若者は「行政の人も一緒に動いたり楽しんだりしてくれるんだ」と感じるようになる。
- ・若者世代が地域の人と関わったり、地域資源を活用していつたりするためには、行政職員が重要な役割を果たしてきてきた。地域の人材や資源についての理解があり、その人や地とのつながりを持つてきている点は、行政ならではの強みであり、若者世代と地域をつなぐ役割において、行政職員が果たせる価値は大きいと考えている。
- ・プロジェクトを通じて、行政職員自身が、若者世代と活動を「一緒につくる」という感覚を持ってもらうという一歩引いた関わり方では、関係が深まりにくい場合もある。行政職員自身も当事者として関わり、ともに考え、ともに動く姿勢を神つことで、若者との関係が築かれていくと感じている。
- ・そのことも関係して、若者から過度に気遣われる関係にならないことも重要である。行政職員が一歩引いた立場に立ちやすくと、若者との間に距離が生まれ、自然なやり取りが起これにくくなる。例えば、活動の場で行政職員が記録や機材準備作業に専念し、少し離れた位置から関わっていると、若者側が話しかけづらくなり、関係が深まりにくくなる場合があった。記録を取る役割が必要な場面であっても、同じ場身を置き、一緒に取り組む姿勢を示すことが、関係づくりにつながらずと感じている。
- ・参加するメンバー同士との関係についても、「アタリ目」であるべき」といった関係性を大いに関心を持って関わることが、関係性を深めていく中で、関わりを導くための重要なポイントである。関係は少しずつ動いていくと捉えておくためである。そのため、最初から学年を混ぜたり、男女を意図的に分けたり・混ぜたりすることはせず、

まずは各自が無理なく過ごせる状態を優先している。活動を通して関係が生まれていくプロセスを重視してきた。

● 取組を継続していくために

- ・プロジェクトを通じて感じたのは、若者と関わる際には、「誰に対しても同じように対応する」ことよりも、一人ひとりの関心や状況に向き合う姿勢が重要になるということである。行政の立場として公平性は大切であるが、若者との関係づくりにおいては、画一的な関わり方ではなく、その人に合わせた関わり方が求められる場面が多かった。
- ・また、担当職員についても、前任者と同じ関わり方を引き継ぐ必要はなく、それぞれの職員の個性やあり方を活かして関わる方が、自然な関係を築きやすと感じている。その方が職員自身にとっても無理がなく、結果として関係が継続しやすくなる側面もある。
- ・若者が安心して関わる関係をつくるためには、担当職員の風性や若者が一層でないことも意味を持つ。性別や年齢、雰囲気異なる職員が関わることで、若者が自分に合った相手と関係を築きやすくなる場合がある。その意味でも、担当者を一人に限定せず、複数で関わる体制が望ましいと考えている。
- ・あわせて、こうした取組は多額の予算を前提としなくとも実施可能である。必要なのは本格的な事業設計よりも、柔軟に動ける余地であり、比較的少額の手費でも十分に継続していける手応えを感じてきた。

● 若者世代がまちづくりに参画することの効果の測定、検証方法

- ・プロジェクトへの参加者数が多いことは一つの指標になりうるが、それ以上に、活動を通してどのようなエピソードが生まれたかを重視してきた。まちあそび館に参加したある高校生のメンバーは、プロジェクトに参加して目指していることを、「人に話したくなる」「話のネタ」がたたくさんできること」だと語ってくれた。参加した本人たちが、後から語り返したくなる出来事やどれだけ蓄積されているかは、活動の広がりや影響を考える上で一つの手かりになる。こうしたエピソードを語る人が増えることで、結果として活動の価値が問題に伝わっていく側面もある。
- ・若者の活動の成果は、参加者数や数値指標だけで十分に捉えられるものではない。関係性の変化や、若者や地域の大人に生じた小さな成長・変化に目を向けることが重要である。例えば、「あの子は最初あまり話さなかったのに、自分の意見を言うようになった」、「メンバーが地域の大人に自然と声をかけるようになった」といった変化は、活動の中で徐々に現れる成果の一つだと考えている。
- ・こうした変化を把握するためには、活動を通して若者や地域の大人が語った、手触り感ある言葉を集め（この活動を通じて何を感じたか、どのような変化があったか等）、記録・蓄積していくことで、数値では捉えにくい成果を把握しようとしている。あわせて、振り返りの場を設けることで、それぞれの考えや感じ方が言語化され相互理解が深まることにも、活動の意味や成果を実感する機会にもなっている。

- ・若者のまちづくりに参画による効果は、短期間で明確に表れるものばかりではない。数年後に、かつて関わっていた若者が地域に戻ってきたり、地域で新たな活動を始めたりするなど、時間の経過を通して見えてくる成果も多い。短期的な評価に偏りすぎず、長期的な視点で捉えていく姿勢が重要である。

以上

公益財団法人 東京市町村自治調査会

1986（昭和61）年10月に、市町村の自治の振興を図ることを目的に、東京都多摩・島しょ地域の全市町村の総意により設立された行政シンクタンクです。

多摩・島しょ地域の広域的課題や共通課題に関する調査研究・普及啓発のほか、市町村共同事業、広域的市民活動への支援などを行っています。

本書は、（公財）東京市町村自治調査会及びコンサルタントによる共同調査研究方式で作成しました。

公益財団法人
東京市町村自治調査会

越坂部 晃一 企画調査部長（東京都派遣）

神田 明 調査課長（東京都派遣）

山本 美夏 （あきる野市派遣）

高橋 力哉 （昭島市派遣）

高橋 蓮穂 （調布市派遣）

株式会社
日本能率協会総合研究所

前原 大輔 主任研究員

田中 時光 研究員

後藤 留美 研究員

2026（令和8）年3月発行

多摩・島しょ地域自治体におけるまちづくりへの若者参画のための 取組に関する調査研究報告書

発 行 公益財団法人 東京市町村自治調査会
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内4階
TEL：042-382-7722 FAX：042-384-6057
URL：https://www.tama-100.or.jp

発行責任者 榎本 雅人
調査委託 株式会社日本能率協会総合研究所
〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22
TEL：03-3578-3247
URL：https://www.jmarco.jp

印 刷 電算印刷株式会社
〒390-0821 長野県松本市筑摩1-11-30
TEL：0263-25-4329 FAX：0263-25-9849

